

- 八 水路ヲ浚渫スル事
- 九 漁場探藻場及魚介養育ノ爲メ區域ヲ限リ河海ヲ使用スル事
- 十 河川ノ土砂ヲ掘取ル事
- 十一 工事ノ爲メ河中ニ一時締切ヲ設クル事
- 十二 船舶工事ニ付沿岸ノ干潟及寄洲使用ノ事
- 十三 涼臺棧橋(一ヶ月以上ニ係ルモノ)ヲ架設シ又ハ繫船抗筏木材繫留杭ヲ建設シ及之ヲ修理改設スル事
- 十四 標燈網干杭ヲ建設シ及之ヲ改設スル事
- 十五 水揚機械ヲ設置シ及其位置ヲ變更スル事
- 十六 河中ニ區域ヲ定メ木材ヲ埋メ置キ又ハ疊積トリスル事
- 第六條 (明治三十三年警察令第十一號ヲ以テ削除)
- 第七條 (明治二十四年警察第九號ヲ以テ削除)
- 第八條 第五條第一項第二項第三項第四項第五項第六項ノ工作物ヲ除却セントスルトキハ東京府廳ノ許可ヲ受クヘシ同條第一項第二項第三項ニ係ルモノヲ修理シ及第七項第九項第十項第十三項第十四項第十五項第十六項ニ係ルモノヲ廢止シ又ハ除却シ若クハ讓受ケ(雙方連署ノ上)タルトキハ同廳ニ届出ヘシ
- 第九條 第五條第四項第五項第六項第七項第八項第十三項第十五項ニ係ルモノハ願書ニ落成ノ期日ヲ記載シ猶落成ノ上ハ東京府廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ但筏木材繫留杭ハ埋立ノ際檢査ヲ受クヘシ
- 第十條 筏木材繫留抗建設方及繫留法ハ左ノ各項ニ依ル可シ
  - 一 荒川大川多摩川ニ係ル筏木材繫留杭ハ陸地ニ栗檜等ノ木材(長サ二間以上口七寸以上)ヲ以テ地入六尺以上ト爲シ長サ五尺ノ狹ミ根柵ヲ二段ニ造リ地中ニ埋メ第一段ノ狹ミ根柵ハ控杭ヲ用ヒ「ボート」留ニ爲スヘシ
  - 繫留網ハ太サ經一寸以上ノ棕櫚麻繩等強靱ノモノヲ用ヒ別ニ風水豫防ノ爲メ大サ經一寸五分以上ノ増網ヲ備ヘ置クヘシ又筏ハ一杭長サ八間以外ノモノハ四枚以上八間未満ノモノハ六枚以上繫留スヘカラス且暴風或ハ出水ノ徵候アルトキハ各筏及木材ノ要所ニ豫備網ヲ施シ其流出ヲ防クヘシ
  - 二 綾瀬川其他諸川筋ニ係ル筏及木材繫留抗ハ陸地ニ建設スルモノハ栗檜等ノ木材(長サ九尺以上未口五寸以上)ヲ以テ地入五尺以上ト爲シ長サ四尺ノ狹ミ根柵ヲ一段ニ造リ地中ニ埋ムヘシ川中ニ建設スルモノハ松丸太(末口七寸以上)ニシテ滿潮水面露出六尺以上水底地入六尺以上打立ヘシ
  - 繫留網ハ太サ徑八分以上ノ棕櫚麻繩ノ強靱ノモノヲ用ヒ別ニ風水豫防ノ爲メ濱網ヲ備ヘ置クヘシ但シ繫留法ハ前項ニ依ルヘシ

- 第十一條 舟筏木材繫留杭ハ允許ノ年月日及所有者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ
  - 第十二條 筏一枚ノ大サハ長サ十五間幅二間以内ヲ限リトス且一枚以上連續シテ漕クヘカラス
  - 第十三條 筏及木材ハ繫留抗ノ外繫留スヘカラス但シ陸揚ケ潮時等一時ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス
  - 第十四條 共同物揚場及渡船場ノ沿岸ニハ濫リニ船舶ヲ繫留スヘカラス
  - 第十四條ノ二 航行ノ用ニ供セル船舶ハ東京市内ノ河川ニ繫留スヘカラス但シ水面使用ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス(ろ)
- 所轄水上警察官署ニ於テ交通上其ノ他必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ハラズ移轉又ハ繫留ノ

禁止ヲ命スルコトアル可シ

第十五條 水路ニ舟筏其他ノ物ヲ横タヘ又ハ竝列シテ通航ノ妨害ヲナスヘカラス

第十六條 橋梁又ハ堤防ノ害トナルヘキ場所ニ舟筏及木材ヲ繫クヘカラス

第十七條 他人ノ繫キタル舟筏及材木ヲ解放スヘカラス

第十八條 河中ニ塵芥瓦礫及禽獸ノ死屍ヲ投棄スヘカラス

第十九條 護岸ノ建設物其他浮標量水標及橋杭等ニ棹ヲ突當テ又ハ舟筏木材ヲ繫留スヘカラス

第二十條 水底電信線左右二十間以内ニ於テ漁業採藻ヲ爲シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏木材ヲ繫キ又ハ其號標

毀棄スヘカラス

第二十一條 (三十二年警視廳令第  
四九號ヲ以テ削除)

第二十二條 永代橋下流木標内ニ船舶ヲ碇泊スヘカラス但シ小回船舫漁船等ハ此限ニアラス

第二十三條 品川幕場以内ニ碇泊スル船舶ハ觸掛リヲ爲スヘカラス

第二十四條 夜間ハ點燈セスシテ乘客及荷物ヲ揚ケ卸スヘカラス

第二十五條 夜間筏ヲ回漕スル時ハ篝火又ハ標燈ヲ掲クヘシ

第二十六條 船舶ノ燈火及航方ハ川筋ノ如何ヲ問ハス明治二十五年六月法律第五號海上衝突豫防法ノ規定ヲ

準用ス

第二十七條 棧橋ニ物品ヲ排置シ又ハ繫船杭ニ干物ヲ爲スヘカラス

第二十七條ノ二 東京市内ノ河川ニ於ケル船舶ニ在リテハ道路ニ面シタル場所ニ於テ襦袢襪襪其他不體裁ノ

物品ヲ外部ニ露出スヘカラス

第二十八條 棧橋及物揚場外ニ於テ諸物品ヲ船積或ハ陸揚スヘカラス但シ所有地及借用川岸ハ此限ニアラス

第二十九條 火藥其他破裂質ヲ含有スル危害ノ虞アル物品ヲ搭載セシ船舶ヲ碇泊セントスル時ハ書面又ハ口

頭ヲ以テ所轄水上警察官署 (四多摩郡南多摩郡北多摩郡ニ  
在テハ所轄警察署又警察分署) 若ハ水上巡邏船ニ届出ヘシ

第二十條 本則第二條第一項、第四條第五條第六條乃至第十條、第十二條乃至第十四條第十四條ノ二第一

項第十五條第十七條第二十二條乃至第二十五條第二十九條ニ違背シ又ハ第二條第二項第十四條ノ二ノ第二

項ノ命令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス(は)

第三十條 前條ノ規定シタル違背行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ同條各項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依

リ其刑ヲ免除スルコトヲ得(は)

第三十二條 明治四十一年九月内務省令第十六號警察犯處罰令其ノ他ノ法令ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル

所ニ依ル(は)

第三十三條 (削除)(は)

附 則

第一 従前建設ノ軒簷ニシテ本則第六條第一項ノ制限ニ觸ルモノハ家屋改造ノ際引直スヘシ

第二 本則第六條第二項制限外ノ日除ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ改造若クハ除去スヘシ

第三 本則第十條ニ適合セサル従前ノ筏木材繫留杭ハ本則施行ノ日ヨリ六十日間内ニ改造若クハ撤去スヘシ

第四 本則第十一條ノ記名ナキ従前ノ舟筏木材繫留杭ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ記入スヘシ

第五 本則第十四條ノ二第一項ノ船舶ニシテ現ニ繫留スルモノハ明治四十一年三月三十一日限撤去スヘシ

(ハ)

○乗合船營業取締規則

(明治三十年一月  
警視廳令第四號)

三〇八

第一條 本則ニ於テ乗合船營業ト稱スルハ人ヲ乗載シ一定ノ場所ニ運漕スル早船又ハ舢舨等ノ業(汽船營業  
取締規則  
ニ依ルモ)ヲ營ムモノヲ謂フ

第二條 乗合船營業ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄水上警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ其ノ増加  
變更ヲ要スルトキ亦同シ

一 發着場寄船場及船路ノ圖面

二 發着場寄船場ニシテ官有地又ハ公有地ニ係ルトキハ其使用許可ノ寫書又他人ノ所有地ニ係ルトキハ其  
承諾書(期限ノ定メアルモノ  
ハ之ヲ明記スヘシ)

三 營業時限並營業期限

四 船賃ノ定額

第三條 乗合船營業者ハ左ノ事項ヲ記載シ所轄水上警察官署ニ願出船体ノ検査ヲ受クヘシ其ノ証ヲ受クルニ  
アラサレハ使用スルコトヲ得ス船体ノ改造修繕ヲ爲シタルトキ亦同シ

一 船ノ數並種類

二 船鑑札ノ寫

三 乗客ノ定員

前項ノ検査證ハ其船内見易キ所ニ掲クヘシ

第四條 乗合船營業者ハ舟子ノ族籍住所氏名及年齡詳記シ所轄水上警察官署ニ願出免許證ヲ受クヘシ營業者

自ラ舟子ノ業ヲ執ラントスルトキ又同シ

第五條 船体及舟子免許証ハ毎年一回三月所轄水上警察官署ノ検査ヲ受クヘシ  
前項定期ノ外臨時検査ヲ施行スルコトアルヘシ

第六條 左ノ事項中第一號ニ係ルモノハ三日以前ニ第二號乃至第四號ニ係ルモノハ五日以内ニ所轄水上警察  
官署ニ届出ヘシ

一 開業セントスルトキ

二 族籍住所氏名ヲ變更シタルトキ

三 休業若ハ廢業シタルトキ

四 發着場寄船場ヲ廢シタルトキ

第七條 左ノ事項ニ係ルモノハ五日以内ニ所轄水上警察官署ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ  
一 船体ノ検査證又ハ舟子ノ免許証ヲ亡失毀損シ若クハ其文字不分明ニナリタルトキ  
二 舟子ノ免許證ニ異動ヲ生シタルトキ

第八條 左ノ事項ニ係ルモノハ五日以内ニ所轄水上警察官署ニ届出検査証又ハ免許証ヲ返納スヘシ  
一 船ノ使用ヲ廢シタルトキ

二 營業者舟子ノ業ヲ廢止シタルトキ

三 舟子ヲ解雇シタルトキ

四 舟子失踪若クハ死亡シタルトキ

第九條 左ノ事項ノ一ニ觸ル、モノハ免許ノ失効ヲ命セラルヘシ

- 一 正當ノ事由ナクシテ免許ノ日ヨリ九十日以内ニ開業セス又ハ三十日以上休業シタルトキ
- 二 營業上不適當ノモノト認ムルトキ

第十條 發着場寄船場ニハ四尺以上ノ幅員アル棧橋又階段ヲ設ケヘシ

棧橋又階段ニシテ危險ノ虞アリト認ムルトキ扶欄ヲ設ケシムコトアルヘシ

第十一條 發着場寄船場ニハ乗客ノ見易キ所ニ賃錢表ヲ掲ケヘシ

第十二條 發着場寄船場ニハ夜間中燈火ヲ点スヘシ

第十三條 發着場寄船場外ニ於テ客ヲ乗船若クハ上陸セシメ又ハ他船ニ乗移ラシムヘカラス

第十四條 定員外ニ客ヲ乗船セシムヘカラス

第十五條 左ノ事項ニ係ルモノハ乗載スヘカラス

- 一 傳染病患者瘋癲者又ハ亂醉者

- 二 船体外へ張出スヘキ長大ノ物品

第十六條 強テ乗船ヲ勸メ又ハ客引ヲ出スヘカラス

第十七條 舟子就業中ハ免許証ヲ携帯シ警察官吏又ハ乗客ノ求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第十八條 検査証及免許証ハ轉用又ハ貸與スヘカラス

第十九條 免許証ナキ者ニ船ヲ漕シムヘカラス

第二十條 他船ト競漕シ又ハ其行通ヲ妨害スヘカラス

第二十一條 暴風出水其他警察官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ出船ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十二條 本則第二條第三條第四條第五條第一項第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十

三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

- 一 從來ノ營業者ニシテ本則ニ依リ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内更ニ願出  
免許ヲ受ケヘシ

# 神奈川縣

## ○舢船取締規則

(明治四十二年三月三十日)  
神奈川縣令第二十一號

第一條 本則ニ於テ舢船ト稱スルハ横濱港ニ於テ汽船ヲ除クノ外艦船ニ往復シテ乗客ヲ送迎シ又ハ貨物ヲ運搬スルノ用ニ供スル船ヲ云ヒ乗用舢船ト稱スルハ乗客ヲ送迎スル舢船ヲ云ヒ運漕舢船ト稱スルハ貨物ヲ運搬スル舢船ヲ云フ

舢船營業者ト稱スルハ横濱港ニ於テ舢船ヲ以テ乗客ヲ送迎シ又ハ貨物ヲ運搬スルヲ業トスル者ヲ云フ

第二條 本則ニ於テ舢船營業トアル内ニハ左ニ掲クル者ヲ含ム

- 一 船舶所有者又ハ取扱者ニシテ其ノ所有又ハ取扱ノ船舶ニノミ乗客ノ送迎又ハ貨物ノ運搬ヲナスモノ
- 二 船舶所有者又ハ取扱者ト特約シ其ノ特約セル船舶ニノミ乗客ノ送迎又ハ貨物ノ運搬ヲ爲スモノ

乗客トアル内ニハ艦船ニ往復スル總テノ人ヲ含ム

本則ハ他港ニ於ケル舢船營業者ニシテ横濱港ニ來リ艦船ニ往復シテ貨物ノ運搬ヲナスモノニモ之ヲ適用ス

第三條 舢船營業ヲ爲サムトスル者ハ免許ヲ受クヘシ第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セシトキ亦同シ

- 一 住所、氏名、年齢但法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

- 二 乗用舢船又ハ運漕舢船ノ區別

- 三 所屬波止場ノ名稱

第四條 前條ノ免許ヲ得タル者ハ舢船ノ使用前其ノ船名、船名ナキモノハ船數ヲ記シ船鑑札ヲ受有スル者ハ

其ノ寫ヲ添ヘ横濱水上警察署ニ申請シテ船體ノ検査ヲ受ケ船首兩側ニ附録第一號雛形ノ記號及番號ノ烙印ヲ受クヘシ烙印磨滅シタルトキ亦同シ

乗用解船ニ在リテハ前項ノ外乘客定員ノ認可ヲ受ケ附録第二號雛形ノ木札ヲ製シ之ニ其定員ヲ記シ横濱水上警察署ノ烙印ヲ受テ船内見易キ場所ニ釘付スヘシ

第五條 解船營業者船夫ヲ雇入レタルトキハ就業前ニ其ノ住所、氏名、年齢ヲ記シ横濱水上警察署ニ願出テ認可ヲ受ケ附録第三號雛形ノ標札ニ烙印ヲ受クヘシ

標札ニ記載セル事項ニ異動ノ生シ若ハ毀損、亡失又ハ字形不明ニ至リタルトキハ之ヲ横濱水上警察署ニ届出テ更ニ調製ノ上烙印ヲ受ク可シ

第六條 乗用解船船夫ハ其ノ冠リタル者及上衣ノ襟ニ標札ト同一ノ記號、番號ヲ和英兩文ニテ記シ就業中常ニ之ヲ着用スヘシ

第七條 解船營業者ハ附録第四號雛形ノ號旗ヲ製シ横濱水上警察署ノ檢印ヲ受ケ晝間船尾ニ於テ乗用解船ハ三尺以上運漕解船ハ四尺以上ノ高サニ掲ケ又第五號雛形ノ號燈ヲ製シ夜間航行中船首ニ於テ前面ヨリ見得易キ場所ニ掲ケ点火シ又通路附近ニ碇泊スルトキハ一個ノ白燈ヲ掲ケヘシ

號燈ハ使用前横濱水上警察署ノ検査ヲ受クヘシ

號旗、號燈破損シ又ハ其ノ記號、番號若ハ檢印不明ニ至リタルトキハ之ヲ修補又ハ新調シ若ハ更ニ檢印ヲ受クヘシ

第八條 標札、號旗、號燈及記號、番號ヲ記シタル冠リ物又ハ衣類ハ之ヲ貸借スヘカラス

第九條 左ニ掲ケル事項ハ解船營業者ヨリ五日以内ニ横濱水上警察署ニ届出テ第一號第二號第三號及第四號ノ場合ニ於テハ號旗、船体又ハ標札ニ消印ヲ受クヘシ

一 廢棄ノトキ

二 住所、氏名變更ノトキ

三 解船ノ讓渡、使用廢止又ハ亡失ノトキ

四 船夫ノ死亡、行衛不明又ハ解雇ノトキ

解船營業者ノ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ之ヲ届出テ前項ノ手續ヲナスヘシ

第十條 解船ハニ住居スル者アルトキハ五日以内ニ解船營業者ヨリ其ノ本籍地、氏名、年齢、續柄竝主トシテ繫留スル場處ヲ横濱水上警察署ニ届出ツヘシ其住居ヲ罷メタルトキ又同シ

第十一條 解船營業者免許ヲ取消サレ又ハ免許ノ效ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ横濱水上警察署ニ申請シテ號旗、船体及標札ノ消印ヲ受クヘシ停業ヲ命セラレタルトキハ其ノ期限内號旗及標札ヲ横濱水上警察署ニ預クヘシ

船夫其ノ認可ヲ取消サレ又ハ認可ノ效ヲ失ヒタルトキハ解船營業者ヨリ五日以内ニ其ノ標札ヲ横濱水上警察署ニ差出シ之ヲ消印ヲ受クヘシ停業ヲ命セラレタルトキハ其期間以内標札ヲ横濱水上警察署ニ預クヘシ

第十二條 婦女及年齢十六年未滿ノ者ハ船夫ト爲ルコトヲ得ス但シ婦女ニシテ第二十四條第一項但書ノ補助ヲ爲スハ此限ニ在ラス

第十三條 船夫ハ就業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 冠リ物、筒袖及股引ヲ着用スヘシ
- 二 標札ヲ携帯スヘシ

- 三 艦船ノ繫泊前之ニ接近シ又ハ艦船ノ運航、繫留、乗降其ノ他貨物積卸ノ妨害トナル場處ニ解船ヲ繫留スヘカラス
- 四 競漕シテ他船ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 五 艦船ノ乗降場外ヨリ濫リニ昇降スヘカラス
- 六 強テ客ヲ誘引シ若ハ承諾ヲ得スシテ他人ノ物ニ接觸スヘカラス
- 七 艦船ヘ繫留中ハ少クトモ船夫一人ハ其船ヲ離ルヘカラス
- 八 乗客又荷主ノ承諾ヲ得スシテ航行ノ途中ニ於テ乗客又ハ積荷ヲ他船ニ移シ若ハ故ナク停船スヘカラス
- 九 乗客ニ對シ侮慢ノ言語ヲ發シ又ハ粗暴ノ行爲ヲ爲スヘカラス
- 十 酒氣ヲ帶ヒテ就業スヘカラス
- 十一 解船内ノ貨物上ニ於テ喫烟スヘカラス
- 第十四條 船夫ハ警察官吏又ハ乗客其他利害關係人ノ要求アルトキハ何時ニテモ標札ヲ示スヘシ
- 第十五條 解船營業者自ラ船夫ト爲ルトキハ船夫ニ關スル規定ヲ遵守スヘシ
- 第十六條 解船營業者及船夫ハ正當ノ理由ナクシテ出船ヲ拒ムヘカラス
- 第十七條 解船ノ賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ横濱水上警察署ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ其之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 第十八條 乗用解船ハ賃錢額ヲ和英兩文ニテ船内見易キ場處ニ揭示スヘシ
- 第十九條 解船營業者及船夫ハ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス
- 第二十條 乗用解船ノ賃錢ハ營業順番所ニ於テ之ヲ受取り解船ニ乗客ヲ送ル場合ナルトキハ切符ヲ交付シ艦

- 船間ニ乗客ヲ送迎スル場合ノ外船夫ハ直接ニ乗客ヨリ賃錢ヲ受取ルヘカラス
- 第二十一條 解船營業者及船夫ハ横濱水上警察署ノ認可ヲ受クルニ非サレハ解船内ニ搭載セル物件ノ讓與賣渡シ又ハ交換シ若ハ之カ媒介ヲ爲スヘカラス
- 第二十二條 解船營業者ハ毎年一回横濱水上警察署ノ指定スル期日及場處ニ於テ解船ノ定期検査ヲ受ケ且ツ其ノ指示ニ從ヒ船内ノ清潔方法又ハ消毒方法ヲ施行スヘシ但横濱水上警察署ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ臨時検査ヲ行ヒ又ハ清潔方法若ハ消毒方法ノ施行ヲ命スルトコトアルヘシ
- 第二十三條 横濱水上警察署ハ解船ノ船體又ハ附屬品使用ニ耐ヘスト認ムルトキ若ハ清潔方法又ハ消毒方法ノ施行不十分ト認ムルトキハ其使用ヲ停止スルトコトアルヘシ
- 第二十四條 解船營業者ハ解船運航中ハ一艘ニ船夫二人以上ヲ乗込マシムヘシ但シ運漕解船ニ在リテハ船内住居ノ者横濱水上警察署ノ認可ヲ受ケ運航ノ補助スルトキハ船夫ハ一人タルコトヲ得
- 船夫中一人ハ年齢二十年以上ノ者タルコトヲ要ス
- 第二十五條 乗用解船ノ乗客定限ハ乗客一人ニ付面積四、五平方尺以上トス但シ年齢十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三年未滿ノモノハ定員外トス
- 手荷物ハ大約十六貫目毎ニ乗客一人ノ割合ヲ以テ算スヘシ
- 第二十六條 運漕解船ハ載貨線ヲ超ヘテ貨物ヲ積載スヘカラス但シ輕量ニシテ高高ノ物ハ特ニ積載ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第二十七條 解船ハ開港々則施行細則第四條ニ掲ケタル爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積載シタルトキハ晝間ハ方二尺ノ赤旗夜間ハ赤燈ヲ第七條第一項ノ號旗ト同一ノ高サニ於テ船内見易キ場處ニ掲ケヘシ

前項ノ場合ニ於テハ家屋梁若ハ他船ニ接近シテ繫留スヘカラス且何人ト雖モ解船内ニ於テ喫烟スヘカラス

第二十八條 左ニ掲ケル場合ノ外乗用解船ニシテ貨物ヲ運搬シ運漕解船ニシテ乗客ヲ送迎スルコトヲ得ス

一 乗客ノ手荷物ヲ乗用解船ニ積載シ又ハ運漕解船ニ貨物看守人又ハ貨物ノ取扱ニ從事スル者ヲ乗船セシムルトキ

二 貨物僅少ナル爲又至急ヲ要スル爲運漕解船ヲ用ユルコトヲ得サル場合若ハ一時ニ多數ノ乗客ヲ送迎スル爲乗用解船ヲ用ユルコトヲ得サル場合ニ於テ横濱水上警察署ノ許可ヲ受ケタリトキ

第二十九條 解船ハ東波止塲西波止塲又ハ新波止塲ノ一ニ所屬波止塲ヲ定ムルコトヲ要ス

第三十條 外國通航船ニ乗客ヲ送迎シ又ハ貨物ノ積卸ヲ爲スハ東波止塲及西波止塲所屬ノ解船ニ限ルモノトス外國通航船ヨリ沿海通航船ニ沿海通航船ヨリ外國通航船ニ貨物ヲ船移スルトキ又ハ輸入手數未済ノ回漕貨物ヲ沿海通航船ニ積卸スルトキ亦同シ

沿海通航船ニ乗客ヲ送迎シ又ハ貨物ノ積卸ヲ爲スハ新波止塲所屬ノ解船ニ限ルモノトス

第三十一條 荷足ノ運搬ニ專用スル解船ハ横濱水上警察署ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ拘ラス外國通航船及沿海通航船ニ往復シテ荷足ノ積卸ヲ爲スコトヲ得

前項ノ認可ヲ受ケタル解船ハ使用中幅二尺横三尺ノ白地ニ荷足ノ二字ヲ黒書シタル旗ヲ船内見易キ塲處ニ掲クヘシ

第三十二條 西波止塲又ハ新波止塲所屬運漕解船ニ不足ヲ生シタルトキハ解船營業者ヨリ組合取締ノ連署ヲ以テ船數及時間ヲ定メ横濱水上警察署ニ願出テ認可ヲ受ケ他波止塲所屬運漕解船ヲ使用スルコトヲ得但シ

第四十一條第一項但書ニ依リ組合ニ加入セサル者ニアリテハ組合取締ノ連署ヲ要セス前項ニ依リ使用スル解船ハ積載貨物ノ陸揚船積又ハ解移ヲ終了シタルモノニ限ル

第一項ノ解船使用中ハ認可書ヲ船内ニ保有シ當該官吏ノ請求アルトキハ何時タリトモ之ヲ示スヘシ

西波止塲ニ使用ノ認可ヲ受ケタル新波止塲所屬運漕解船ハ號旗ヲ横濱水上警察署ニ預ケ使用中附録第四號雛形ノ臨時號旗ヲ掲揚スヘシ

第三十三條 東波止塲及西波止塲所屬解船ハ横濱税關官吏ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ關稅法第二十八條ニ依リ横濱税關ニ於テ定メタル塲處以外ニ廻航スルコトヲ得ス但シ堀割川又ハ大岡川ニ廻航スルトキ若ハ前條ノ規定ニ依リ他波止塲ニ廻航スルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ堀割川又ハ大岡川ニ廻航スルトキハ同所派出税關官吏ニ船内ノ検査ヲ受クヘシ

第三十四條 解船ハ横濱税關官吏ノ認可ヲ受ケタル場合ノ外輸出入貨物ノ解移ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 外國貨物ノ陸揚又ハ解移ヲ終了シタル解船ハ横濱税關官吏ノ検査ヲ受クヘシ

第三十六條 乗用解船ハ横濱水上警察署ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外其ノ所屬ノ波止塲以外ヨリ乗客ヲ送迎シ又ハ昇降塲以外ヨリ乗客ヲ乗降セシムヘカラス

前項ノ許可ヲ受ケタル場合ト雖モ東波止塲及西波止塲所屬ノ乗用解船ハ關稅法第二十八條ニ依リ横濱税關ニ於テ定メタル塲所ヲ經由スルコトヲ要ス

第三十七條 横濱水上警察署ハ風浪其他必要ト認ムル場合ニ於テ解船ノ使用ヲ一時停止シ又ハ何時ニテモ解船内ヲ検査スルコトアルヘシ

第三十八條 横濱水上警察署ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ解船ノ碇泊位置ヲ變更セシメ又一定ノ塲處ニ



於ケル碇泊ヲ禁止スルニトアルヘシ

第三十九條 横濱水上警察署ハ西波止場灣内ニ碇泊スル乗用舢舨ノ數ヲ制限スルコトアルヘシ

第四十條 舢舨營業者ハ舢舨所屬ノ波止場毎ニ組合ヲ設ケヘシ

但シ東波止場西波止場トハ合シテ一組合ト爲シ又乗用舢舨營業者ト運漕舢舨營業者トハ各別ニ組合ヲ設ケルコトヲ得

第四十一條 舢舨營業者ハ組合ニ加入セシテ營業ニ従事スルコトヲ得ス但シ第二條第一項第一號ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス組合ハ舢舨營業者ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十二條 前條第一項但書ニ依リ組合ニ加入セサル者ハ其ノ所有又ハ扱以外ニ乗客ヲ送迎又ハ貨物ノ運搬ヲ爲スコトヲ得ス

組合ニ加入セサル者ノ乗用舢舨ハ船體外部ヲ黑色ニ塗ルヘシ

第一項ノ舢舨營業者事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ位置ヲ五日以内ニ横濱水上警察署ニ届出ヘシ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ事務所ニ書記又ハ事務員ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名年齢ヲ五日以内ニ横濱水上警察署ニ届出ツヘシ異動アリタルトキ亦同シ

第四十三條 組合ハ組合員中ヨリ正副取締ヲ選舉スヘシ

取締ハ五日以内ニ其ノ就職年月日及比名ヲ横濱水上警察署ニ届出ツヘシ退職シタルトキ亦同シ  
横濱水上警察署ハ取締不適任ト認ムルトキハ之ヲ改選ヲ命スルコトアルヘシ

組合ニ於テ書記又ハ事務員ヲ雇入レタルトキハ取締ヨリ五日以内ニ其住所氏名年齢ヲ横濱水上警察署ニ届

出ヘシ解雇シタルトキ亦同シ

第四十四條 組合事務所ヲ設置シタルトキハ取締ヨリ五日以内ニ其ノ位置ヲ横濱水上警察署ニ届出ヘシ變更シタルトキ亦同シ

第四十五條 組合ハ乗用舢舨ノ營業順番所ヲ設ケ事務所擔當者ヲ置キ取締ヨリ其ノ住所氏名年齢ヲ横濱水上警察署ニ届出ヘシ其異動アリタルトキハ五日以内ニ之ヲ届出ヘシ

第四十六條 前條ノ事務所擔當者ハ常ニ營業順番所ニ在置シ賃錢ノ受取切符ノ交付其ノ他順番取扱ニ關スル一切ノ事務ヲ處理スヘシ

第四十七條 組合ハ規約ヲ設ケ横濱水上警察署ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ其規約スヘキ事項左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱ニ關スル事項
- 二 取締選舉手續ニ關スル事項
- 三 取締ノ職務及任期ニ關スル事項
- 四 組合加入者及退去者取扱手續ニ關スル事項
- 五 組合費用ニ關スル事項
- 六 乗客及貨物取扱ニ關スル事項
- 七 營業順番ニ關スル事項
- 八 組合會議ニ關スル事項
- 九 組合規約違反者處分ニ關スル事項
- 十 右各號ノ外必要ト認ムル事項

組合規約ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ横濱水上警察署ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第四十八條 横濱水上警察署ハ必要ト認ムルトキハ組合規約ノ事項中改正又ハ削除ヲ命スルコトアルヘシ

第四十九條 解船營業者又ハ船夫本則其ノ他法令ノ規定ニ違背シ又ハ乗客員主ニ對シ不正ノ行爲アリテ公益

ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ停業ヲ命シ又ハ其ノ免許若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第五十條 解船營業者又ハ船夫一年以上休業シタルトキハ其ノ免許又ハ認可ノ效ヲ失フモノトス

第五十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第三條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲナシタル者

二 第四條乃至第十一條第十三條乃至第二十二條第二十四條第二十六條乃至第二十八條第三十條第三十一

條第二項第三十二條第二項乃至第四項第三十二條乃至第三十六條第四十一條第四十二條第四十三條第

二項第四項及第四十四條乃至第四十六條ニ違背シタル者

三 乗員外ニ乗客ヲ乗載シタル者

四 第二十三條及第三十七條ノ停止中解船ヲ使用シタルモノ

五 第三十八條及第三十九條ノ命令ニ従ハサル者

六 停業者營業又ハ就業ヲ爲シタル者

第五十二條 法人本則ニ違背シタルトキハ前條ノ罰則ヲ其ノ代表者ニ適用ス

附 則

第五十三條 本則ハ明治四十二年四月三十日ヨリ之ヲ施行ス

第五十四條 本則ハ解船横濱市河川内ニ於テ運航シ又ハ碇繋スル場合ニモ之ヲ適用ス

第五十五條 明治二十九年八月神奈川縣令第二十七號ハ之ヲ廢止ス

○第一號雛形

第三號雛形

横 二寸 縦 三寸

第何號

○乗用解船(運漕解船) 船夫

雇主氏名

住所氏名

年齢

裏

水上警察烙印

所屬波止

場頭字印

(東)(西)

(新)ノ烙印

○第二號雛形

横 四寸 縦 六寸

(東)(西)(新)第何號

乗客定員

名

明治年月日

此番號ハ號

旗ノ番號ト

全トス

横濱水上警

察署烙印

○第四號雛形

横 二尺 縦 一尺五寸

東(西)第何號

檢印

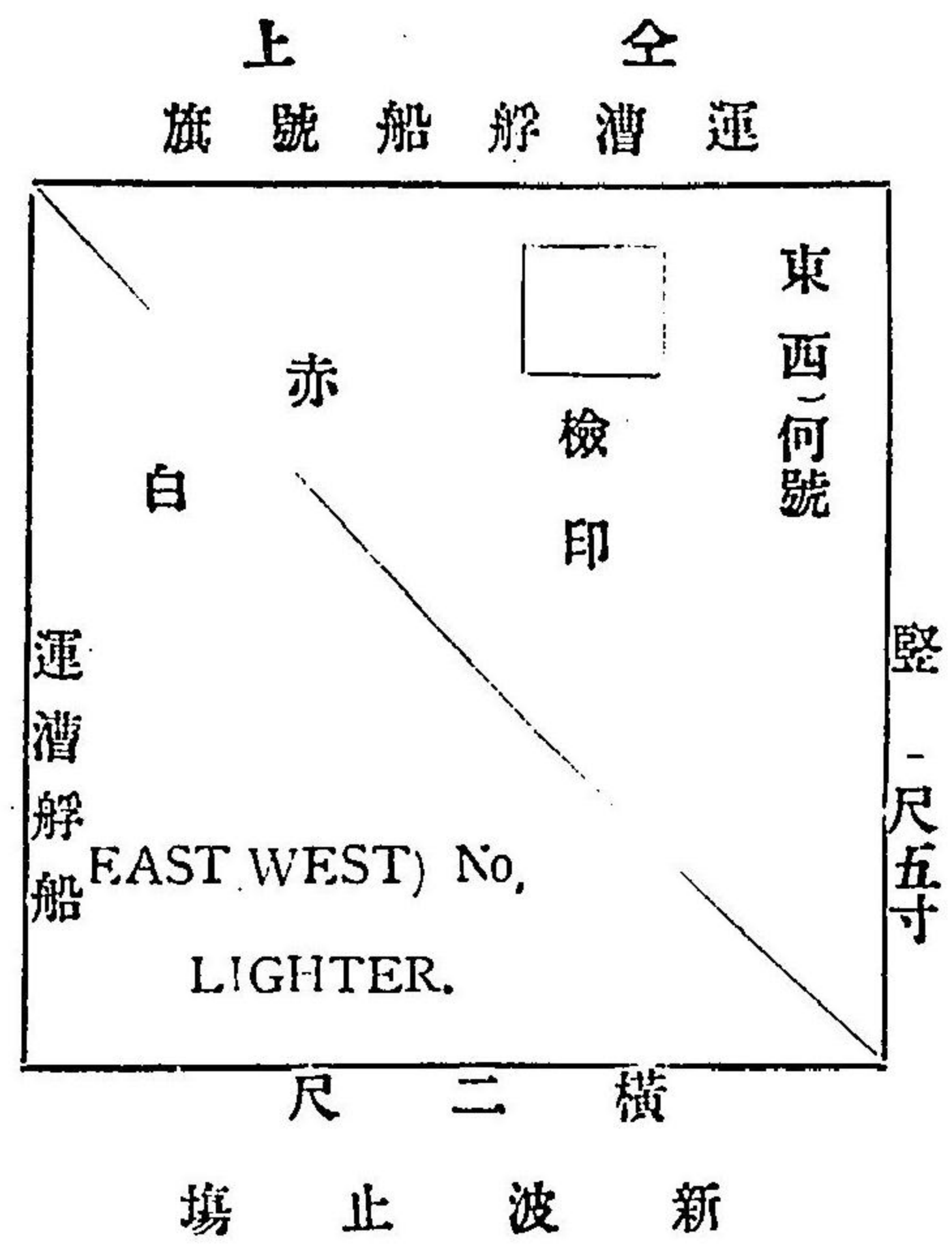
白

赤

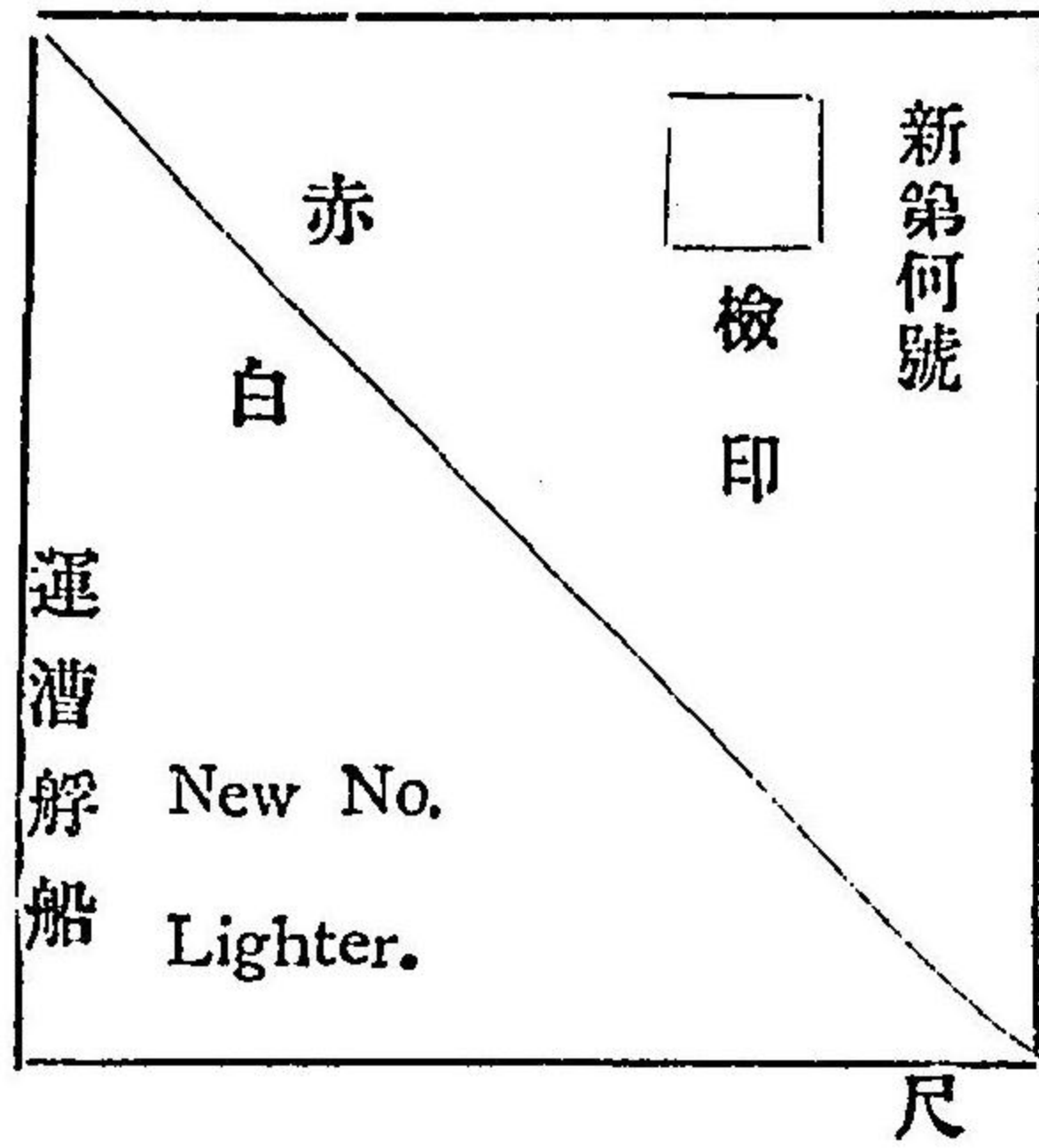
乗用解船 EAST WEST No Passenger Boat.

場止波西東

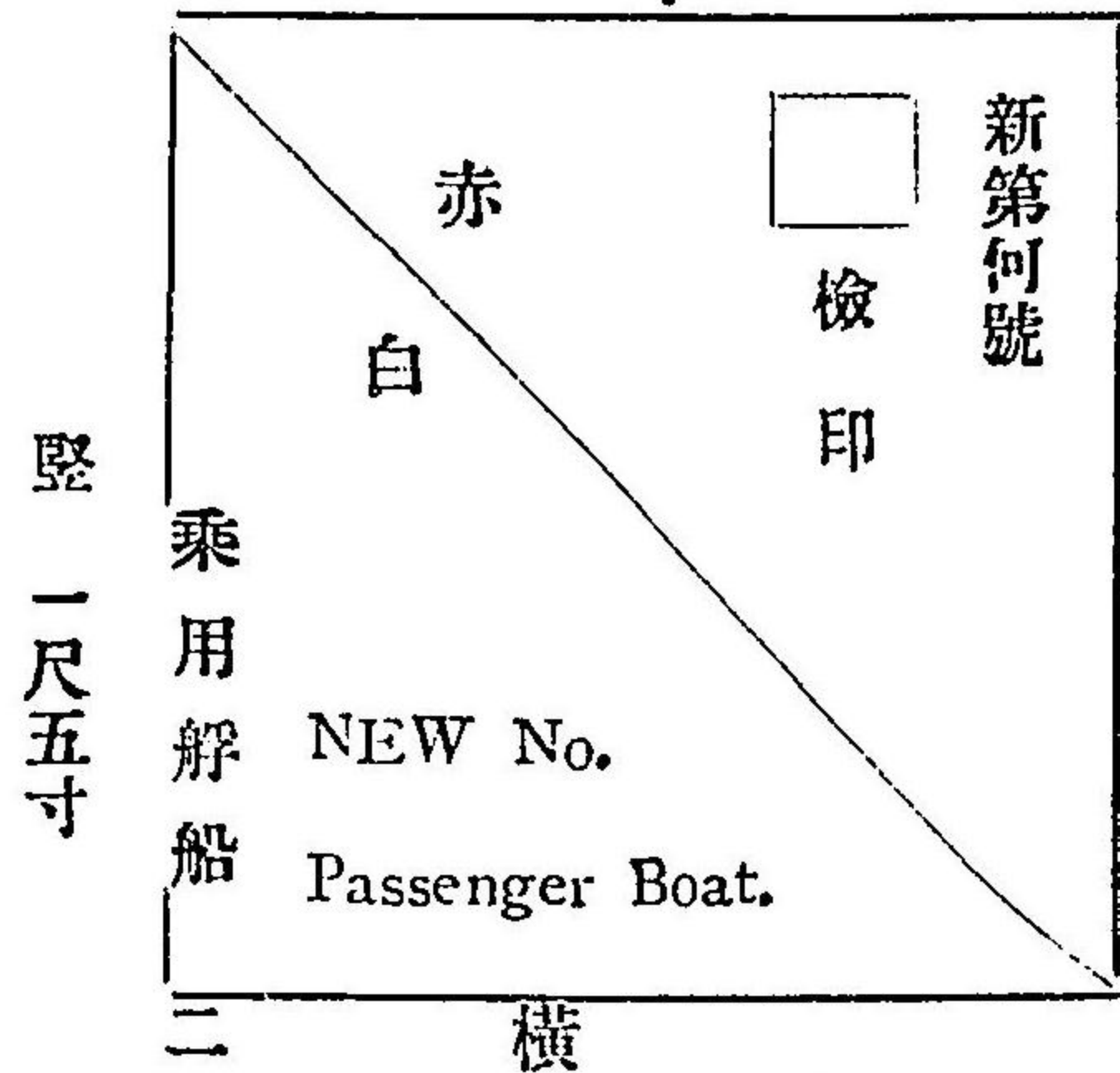
旗號船解川乘



旗 號 船 舢 漕 運



旗 號 船 舢 用 乘



○ 橫 濱 港 規 程

(明治四十一年六月五日  
神奈川縣令第五五號)

第一條 橫濱港界内ヲ分テ四區トス

第二條 北防波堤上立標ヨリ南三十五度西ニ向ヒ新波止場迄直線ヲ引キ此ノ線ヨリ北五十五度西ニ當ル防波堤内ヲ第一區トス

前項直線ヨリ南五十五度ニ當ル防波堤内ヲ第一區トス

東防波堤上白色燈臺ヨリ北八十五度東ニ向ヒ港界線マテ引キタル一線ヨリ南方ニ當ル防波堤外ヲ第三區トス

北防波堤上赤色燈臺ヨリ北八十五度東ニ向ヒ港界線マテ引キタル一線ヨリ北方ニ當ル防波堤外ヲ第四區トス

第三條 前條ニ定ムル第一區及第二區ヲ汽船總噸數三百噸未滿ノ帆船及雜種船ノ碇泊所トス

第三區ヲ軍艦ノ碇泊所トス

第四區ヲ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ搭載スル船舶及總噸數三百噸以上ノ帆船ノ碇泊所トス

第五條 防波堤内ニ入ル航路ハ兩防波堤ノ極端ニ在ル各燈臺ヨリ北八十五度東及南八十五度西ニ走ルニ並行線内トス但シ航路ノ延長ハ防波堤外ニ於テハ該燈臺ヨリ半海里防波堤内ニ於テハ一鏈半トス

第六條 前條ノ航路内ニ於テハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ航路ヲ避クヘシ曳船ハ航路内ニ於テ被曳船ヲ放ツヘカラス

帆船ハ航路ニ於テ縫航スヘカラス

第七條 入港船舶ハ港界線附近ニ來リ港長ヨリ錨地ノ指定ヲ受クヘシ

荒天ノ場合ニ於テハ港長ハ萬國信號ヲ以テ入港船舶ノ泊船所又ハ假泊所ヲ指定スルコトアルヘシ

第八條 港内ニ碇泊スル船舶ハ常ニ双錨ヲ投シテ碇泊スヘシ但シ港長ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニ在ラス

第九條 泊船所ノ指定ヲ受クヘキ船舶日没後來着シタルキハ日出マテ防波堤外ニ於テ航路ヲ避ケ停船スヘシ

但シ定期郵便船其ノ他緊急ヲ要スル船舶ニシテ港長ヨリ入港ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニ在ラス總噸數

八百噸未満ノ沿海通航船ハ晝夜ニ拘ラス港長ノ指定ヲ埃ダスシテ豫メ所定ノ泊碇船所ニ入進スルコトヲ得

第十條 汽船港界内ニ入りタルトキハ速力ヲ減シ防波堤ノ入口ヲ通航シ若ハ防波堤内ヲ運航スルトキハ船ノ

安全ナル針路ヲ保ツニ足ル速力ニ止メ又帆船ハ帆ヲ減シ若ハ曳船ヲ用イテ除行スヘシ

第十一條 船舶ハ港界内ニ於テ二艘以上並航スヘカラス又航路内及防波堤内ニ於テ他船ノ前路ヲ横切り又ハ

追越ヲ爲スヘカラス

第十二條 埠頭棧橋ノ突端又ハ繫留船ノ一端ヲ廻航スル船舶ハ之ヲ右ニ見テ航行スルトキハ小廻リ左ニ見テ

航行スルトキハ大廻リヲナスヘシ

第十三條 繫船浮標ニ繫留中ノ船舶機關ノ回轉ヲ試ミムトスルトキハ浮標ニ損害ヲ及ホサ、ル様相當ノ措置

ヲナスヘシ

荒天ニ際シ尙ホ本船ノ錨ヲ投セムトスルトキハ浮標ニ結着シタル錨鎖ヲ適宜ニ延長シタル後投錨スヘシ

第十四條 船舶艦裝休繫又ハ修繕ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ港長ニ於テ相當ノ船員ヲ乗込マシムルコ

トアルヘシ

第十五條 船舶ハ浮標又ハ棧橋等ニ網ヲ取ルニ際シ必要外ニ之ヲ延長シ又ハ必要ノ時間外ニ拂ルヘカラス

第十六條 本規程ニ定ムルモノ、外船舶ノ航方ニ關シテハ海上衝突豫防法ニ依ルヘシ

第十七條 港界内ニ在ル船舶風波災害其ノ他止ムヲ得サル場合ニ於テ港長ノ許可ヲ待ダスシテ錨地ヲ變シタ

ルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ港長ニ届出ヘシ

第十八條 船舶ハ濫リニ他船ノ船尾若ハ船前ニ繫留シ水路ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十九條 防波堤内ニ於テ曳船ヲ爲サムトスルモノハ舢舨船等ハ五艘其ノ他ノ船舶ハ一艘ニ限ル但シ港長

ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニ在ラス

第二十條 港界内ニ於テ汽艇舢舨船其ノ他櫓櫂ヲ以テ運行スル船舶ハ汽船及帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 防波堤内ニ於テ爆發物若ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ運搬セムトスルモノハ港長ノ許可ヲ受クヘ

シ

第二十二條 船舶搭載セル竹木ヲ港界内水上ニ卸サムトスルトキ又ハ筏及水面ニ浮ヒタル竹木ヲ港界内ニ繫

留シ又ハ夜間運行セントスルトキハ港長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 船舶ハ海上衝突豫防法ノ規定其他法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫リニ汽笛若ハ汽角ヲ吹鳴ス

ルコトヲ得ス

第二十四條 船舶ハ西波止塙稅關棧橋ノ周圍六百尺以内ニ停留スヘカラス

第二十五條 第五條ノ航路内及其ノ周圍一鏈以内ノ海面ニ於テハ漁獵ヲ爲シ又船舟ヲ停留スヘカラス

第二十六條 港界内ニ於テ特設信號ヲ用ヒントスルモノハ港長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條 港界内及港界附近ニ於テ難破物又ハ沈沒品ヲ引揚ケムトスルモノハ港長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十八條 船舶ハ埠頭運河ノ入口船渠又ハ棧橋等ニ向ヒ航行スルモノ、外ハ濫リニ其ノ附近ニ停泊又ハ繫留スヘカラス

第二十九條 舢舨船端船夜間港界内ヲ航行スルトキハ舩上見付易キ所ニ燈火ヲ掲クヘシ

第三十條 警報信號ハ西波止場神奈川縣測候所構内ニ在ル信號竿ニ之ヲ掲ク

第三十一條 報時信號ハ別ニ定メタル手續ニ依リ東波止場ニ設置シタル報時球ニ依リ本邦中央標準時ノ正午時ヲ報ス

第三十二條 本規程ノ方位ハ凡テ眞方位トス

第三十三條 第五條第六條第七條第一項第十條乃至第十六條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ第七條乃至第二十九條ニ違背シタルモノハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

附 則

第三十四條 本規程ハ明治四十一年七月一日ヨリ施行ス

第三十五條 明治三十一年九月横濱港務局告示第一號横濱港規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

# 千葉縣

## ○汽船營業取締規則

(明治四十二年十一月十九日 千葉縣令第七十號)

第一條 本則ニ於テ汽船營業ト稱スルハ蒸汽、石油發動機其他機械力ニ依リ運轉スル船舶ヲ以テ乘客又ハ貨物運送ヲ業トスルモノヲ云フ

第二條 汽船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ發船場又ハ着船場所轄警察官署ヲ經テ知事ノ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第六號ノ事項ヲ增加又ハ變更セムトスルトキ亦同シ

一 住所、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地代表者ノ氏名及定款

二 航路ノ圖面及發船場着船場寄港場ノ地名

三 發船場着船場寄港場ノ發着時刻

四 各航路ニ用ユル船舶ノ種類及員數

五 旅客貨物ノ運送賃

六 舢舨又ハ棧橋ヲ使用スル場所及其賃錢

第三條 前條ノ許可申請者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其法定代理人ノ連署ヲ要ス

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ五日以内ニ發船場又ハ着船場所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ヘシ

一 開業但シ其日時、船名及其檢査証ノ寫

二 休業又廢業

三 營業者又ハ法定代理人ノ住所氏名ノ變更

但シ法人ニ在リテハ事務所又ハ代表者氏名ノ變更

四 法人代表者又ハ法定代理人ノ變更

五 航路又寄港場ノ廢止

六 船舶又ハ舢板橋使用ノ廢止

七 船舶検査証書ノ異動

營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキハ戶籍法百二十六條ノ届出義務者ハ前項ニ依リ之ヲ届出ヘシ

第五條 臨時發船ヲ爲サントスルトキハ其船名航路ニ發着時刻ヲ具シ三時間以前ニ發船場所轄警察官署ニ届出ヘシ

第七條 船舶内ニ於テ死傷者其ノ他異變アリタルトキハ其旨直ニ寄航場又ハ發船場所轄警察官署若ハ警察官吏ニ届出ヘシ

第八條 同一ノ場所ニ於ケル船舶ノ發着ハ他ノ船舶トノ間十分間以上ノ時間ヲ存スヘシ

第九條 旅客ノ乗降ニ用ユル棧橋ニハ兩側ニ堅固ナル高サ三尺以上ノ欄干ヲ設クヘシ

第十條 旅客ノ用ニ供スル甲板ニ船舷ナキモノハ其ノ周圍ニ高サ一尺五寸以上ノ堅固ナル欄干ヲ設クヘシ

第十一條 河川ヲ航行スル船舶ノ煙突ニハ噴火止ノ裝置ヲナスヘシ

前項噴火止ノ裝置ハ其構造及圖面ヲ具シ使用前發船場又ハ着船場所轄警察官署ニ検査申請シ検査證ヲ受クヘシ

第十二條 船舶ニハ輕便消火器又ハ適當ノ防火設備ヲ爲スヘシ

第十三條 船舶ニ使用スル燈火用油蓋ハ金屬製ノモノヲ用ユヘシ

第十四條 河川ヲ航行スル船舶ニハ日出前日没後右舷ニ綠燈左舷ニ紅燈前面ニ白燈ヲ掲クヘシ

第十五條 旅客貨物ノ運送賃及舢板橋ノ賃錢ハ發船場着船場寄港場並ニ船舶内ノ每客室ニ揭示スヘシ

第十六條 機關室其他危險ノ場所ハ故ナク旅客ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第十七條 船舶内ハ嚴ニ風紀ヲ保持スヘシ

第十八條 定員ヲ超過シテ旅客ヲ乗船セシムルコトヲ得ス

第十九條 故ナク旅客ノ乗降ヲ拒ミ又ハ貨物ノ搭載陸揚ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 發船場着船場又ハ寄港場ニ非サル場所ニ於テ旅客ヲ乗降セシメ若ハ貨物ノ搭載陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 旅客又ハ荷主ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス定額賃錢以外ノ金錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十二條 強テ乗船ヲ勸ムルコトヲ得ス

第二十三條 船舶内ハ常ニ清潔ヲ保持スヘシ

第二十四條 旅客ノ用ニ供スル敷物等ハ清潔ナルモノヲ用ユヘシ

第二十五條 傳染病豫防法第一條第一項及第二項ニ依リ指定セラレタル傳染病患者若ハ獸疫豫防法第一條ニ掲ケル病獸ハ之ヲ乗船セシムルコトヲ得ス

第二十六條 船舶内ニ於テ前條ニ掲ケタル患者、死者又ハ病獸ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ隔離シ且消毒法ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ旅客ヲ乗降セシメ又ハ貨物ノ搭載陸揚ヲ爲ス

コトヲ得ス

第廿七條 監護人ナキ精神病者又ハ旅客ノ嫌疑スヘキ疾患ノアル者若ハ亂醉者ハ他ノ旅客ト室ヲ異ニスルニ非サレハ乗船セシムルコトヲ得ス

第廿八條 左ニ掲グルモノハ旅客又ハ他ノ貨物ト室ヲ異ニスルニ非サレハ搭載スルコトヲ得ス

一 死體

二 家畜又ハ危険ナル動物

三 悪臭ヲ發シ又ハ他物ヲ汚漬スル虞アル物品

第廿九條 旅客ヲ乗載スル船ニハ同時ニ第廿五條第廿七條又ハ第廿八條ニ規定セルモノヲ搭載スルコトヲ得ス

第三十條 濫リニ機械方ヲ増加シ他ノ船舶ト競争スルコトヲ得ス

第卅一條 狹隘、屈曲又ハ船舶輻輳ノ場所ヲ航行シ若ハ他ノ船舶ニ近接シタルトキハ機笛ヲ鳴シ徐行スヘシ

第卅二條 多數ノ人員又ハ貨物ヲ乗載セル船舶ニ行途ニ若ハ之ヲ追越サトンスルトキハ機笛ヲ鳴シ其船舶ノ前後二十間ヲ徐行スヘシ

第卅三條 曳船ヲ使用スルモノハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 江戸川筋、利根川筋ハ二艘以内

二 前號ノ場所ニ於ケル曳綱ノ長サハ第一船ハ五十尺以内第二船ハ十五尺以内

第卅四條 警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船舶ノ検査ヲナシ得ルコトヲ得

第卅五條 左ニ掲グル場合ニ於テハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

一 故ナク營業許可ノ日ヨリ百八十日以内開業セサルトキ

二 故ナク三十日以上休業シタルトキ

三 本則ニ違反シ又ハ營業上不適當ト認メタル時

第卅六條 故ナク三十日以上發船セサル航路アルトキハ其ノ航路ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第卅七條 各發着時刻ニ應スヘキ船數ヲ欠キ又ハ故ナク七日以上定期ニ發船セサルモノアルトキハ其ノ發着時刻ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第卅八條 警察官署ハ強風出水其他事故ニ依リ航行上支障又ハ危険アリト認ムルトキハ船舶ノ發着ヲ伸縮シ若ハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第卅九條 左ノ各號ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

二 第八條第十七條第十八條第廿五條第廿六條第廿九條乃至第卅二條ニ違反シタル者

三 第九條ニ違反シテ棧橋ヲ營業ニ使用シタル者

四 第十條第十一條第一項第十四條ニ違反シテ船舶ヲ營業ニ使用シタル者

五 第二十四條ノ検査ヲ拒ミタル者

六 第二十八條ノ命令ニ從サル者

七 停止中營業ヲナシタル者

第四十條 左ノ名號ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一 第四條乃至第七條、第十一條第二項、第十六條第十九條乃至第二十三條第二十七條第二十八條第二十

三條ニ違反シタル者

二 第十二條第十三條第二十四條ニ違反シテ船舶ヲ營業ニ使用シタル者

三 第十五條ニ違反シテ營業ヲ爲シタル者

第四十一條 第七條第八條第十四條第十六條乃至第廿條第廿三條第廿五條乃至第廿八條第三十條乃至第卅三條又ハ第三十八條ノ命令ノ違反ニ付テハ前條ノ刑ハ之ヲ船長ニ科ス

第四十二條 汽船營業者カ十四才未滿ノ者又ハ禁治産者ナルトキハ第三十九條及第四十條ノ刑ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ科ス

第四十三條 汽船營業者ハ家族雇人其他ノ從業者カ本則ニ違反シタル場合ト雖モ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

附 則

第四十四條 従前ノ汽船營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ明治四十二年十二月二日迄ニ第二條ノ事項ヲ具シ發船場又ハ着船場所轄察官署ヲ經テ知事ニ届出ヘシ

第四十五條 従前ノ汽船營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲ス者ハ明治四十二年十二月三十日迄ニ第九條乃至第十四條ノ設備ヲ爲シ發船場所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ

第四十六條 明治廿七年八月千葉縣令五十三號汽船營業取締規則ハ之ヲ廢止ス

○利根川運河航通規則

(明治二十三年三月 縣令第四〇號)

第二條 利根河ヲ航通スル船舶若クハ筏ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 諸船舶吃水四尺以下

二 川汽船長九十尺幅二十七尺以下

三 帆船及ヒ各種ノ船舶長八十尺幅二十尺以下

四 筏長九十尺幅十二尺以下

第二條 前條ノ船筏ヨリ徴收スヘキ通航料ハ會社ニ於テ河口見易キ場所ニ榜示スヘシ

第三條 運河ヲ通過セントスル船舶筏ハ運河河口到着ノ順次ニ從ヒ各其右側ヲ航行スヘシ但ヒ他ニ障礙ヲ起サスシテ互ニ通過シ得ヘキ運河直流ノ場所又ハ通過シ得ヘキ場合ニ於テハ全一方向ニ進航スル船舶及筏ヲ航超スルコトヲ得

貨物搭載又ハ陸揚リノ他ノ事故ニ依リ順番ニ進行スルコト能ハサル場合ニ於テハ其事項ノ解ケタルトキ順次ノ列ニ加ハルヘシ

第四條 官船官用船及郵便物ヲ搭載スル船舶ニ對シテハ他ノ舟筏之ヲ避讓シテ先航セシムヘシ

第五條 運河ヲ航通スル船舶筏ハ一秒時間五尺以上ノ速力ヲ以テ進航スヘカラス

第六條 運河ヲ航通スルモノハ日没ヨリ日出マテ無色舷燈ヲ左方ニ附ケ停泊スルトキハ之ヲ竿頭ニ掲クヘシ

第七條 互ニ反對ノ方向ニ進航シテ運河内或ハ部分殊ニ狹部近傍ニ於テ遭遇スルトキハ上航ノモノハ下航ノモノニ讓ルヘシ若シ運河内水流ナキ場合ニ於テハ江戸川ニ向フテ進航スルモノ先通過スヘシ

同一ノ方向ニ進航スルノ場合ト雖モ併列シテ駛走シ又ハ競争スヘカラス

第八條 舟筏ニシテ運河内ニ停泊ヲ要スルトキハ豫メ會社ニ於テ定メタル場所ニ繫留スヘシ

第九條 運河ヲ航通スル船舶筏ハ兩岸ノ堤防若クハ木材ソノ他ノ築造物ニ對シ損害ヲ與ヘサル様相當ノ注意



アルヘン特ニ左ニ掲クル二項ヲ注意ヲ要ス

一 水堰水制及堤防へ掉ヲ指スヘカラス

二 一時進航ヲ止メタルトキ若クハ停泊スルトキハ運河會社ノ設置シタル沿岸ノ杭木ニ繋留シ河岸河底又ハ其近傍ニ投錨スヘカラス

第十條 船舶及筏ヲ併流又ハ横流若シクハ斜流シ苟モ他ノ船舶筏ヲ妨害スル所爲アルヘカラス

第十一條 船舶筏ヲ連航スルトキハ衝突セサル様互ニ相當ノ距離ヲ隔ツヘシ

第十二條 運河南岸ノ舟曳道ハ江戸川ヨリ利根川ニ向フテ航通スル船舶筏之ヲ使用スヘク利根川ヨリ江戸川ニ向フ航通スルモノハ北岸ノ舟曳道ヲ使用スヘシ水勢強ナルトキハ狹部ニ限り兩岸ノ舟曳道ヲ使用スルトキ得

曳舟法ノ如何ニ關ハラス曳子ハ舟曳道ノ以外ヲ通行スヘカラス

第十三條 乘客及荷物ノ上下ヲナスハ特ニ指定シタル場所ニ限ル

第十四條 左ノ場合ニ於テ運河會社ハ直ニ水堰ヲ閉塞シ船舶筏ノ通行ヲ止メ其事故止ミタルトキハ之ヲ開放スヘシ  
一 水堰若ハ運河内流勢ノ速力強大トナリ航通又ハ運河岸ノ安全ヲ保ツニ不適當トナリタル場合  
二 干水ニ際シ利根江戸兩川内航通上便宜ノ爲メ若クハ洪水ニ際シ兩川堤防決壊ノ危険其他此ヨリ起ルヘキ水害ヲ防クニ必要ナル場合

三 緊急必要ノ時又ハ堤防決壊ノ危険其他水害ヲ除クニ必要アリト認メ官廳ノ命令アル場合

第十五條 河岸又ハ河底ノ修繕工事中若クハ洪水干水ソノ他ノ事故ニ依リ航路ヲ示シ又ハ進行ヲ遲緩ナラシムヘキ注意ヲ要スル個所アルトキハ運河會社ハ赤色ノ信號旗夜間ハ同色ノ信號燈ヲ其局部ニ掲ケテ之ヲ通航者ニ示スヘシ

第十六條 總テ運河ノ航通ヲ停メタルトキハ運河會社ハ運河兩所ノ河口其他必要ノ箇所ニ晝間ハ綠色ノ信號旗夜間ハ同色ノ信號燈ヲ掲ケヘシ

第十七條 諸船舶筏ハ江戸川利根川兩川運河口近傍ニ停泊シ又ハ繋留シテ運河出入ノ船舶筏若クハ水流ヲ妨害スヘカラス

第十八條 運河兩岸及舟曳通ニ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ推積スヘカラス

第十九條 運河内又ハ兩岸近傍ニ汚穢物ハ勿論塵芥タリトモ放棄スヘカラス

第二十條 第五條第六條第十三條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○舟筏取締規則 (明治十二年十一月)

(甲九二二號)

第一條 諸川川筋ニ於テ回漕運輸ノ業ニ從事スルモノハ此ノ規則ヲ確守スヘシ

第二條 該營業者中申合セ重立タルモノ相擇ミ回漕取締役ニ充テ同業者ヲシテ左ノ條款ヲ履踐セシメ取締ニ關スル一切ノ事ヲ負擔スルノ責ニ任スヘシ但回漕取締役ハ各部毎ニ適宜人員ヲ選定シ人名ハ本縣へ届出ヘシ

第三條 日本西洋兩形ノ川船川路通行ノ際船長以下ノモノハ親睦ヲ旨トシテ互ニ公平ノ心ヲ持シ苟モ衝突破

船等ノ患害ヲ醸生セサル様專ラ注意スヘシ

第四條 汽船ハ必ス時々汽笛ヲ鳴シ日没ヨリ日出迄ノ間ハ紅紫白ノ三燈ヲ掲ケ狹隘ノ場所ニ於テハ走力ヲ遲緩ニシテ通行スヘシ

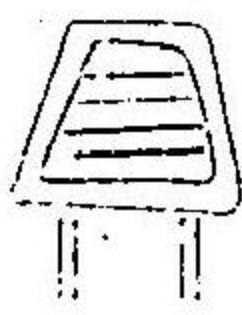
第五條 日本西洋兩形船ノ別ナク出船ノ前水量深淺ニ應シ荷物増減積載スヘシ萬一場所ニ依リ船体進止自由ナラサルトキハ速ニ解テ履ヒ荷物ヲ積取り或ハ陸揚等ヲナシ毫モ停船スヘカラス

第六條 水量淺少ノ場所ニ至リテハ汽船ハ其川底土砂ノ浚疏スルヲ待テ或ハ堀立河身修繕ノ個所ヲ砂却セシムル等ノコトアルヘカラス

第七條 日本形川船乗組船頭以下ノモノ尙舊來ノ弊習ニ狎レ甲乙二船ヲ繫合シ流レテ下リ或ハ其他通船ニ障礙トナルヘキ處所ヘ繫留スルトノコトアルヘカラス

第八條 筏ハ長拾五間幅貳間ヲ限ルヘシ但シ筏ヲ解キ陸揚ケセムトスルトキハ通船ノ妨トナラサル様注意スヘシ

第九條 江戸川筋ニ於テハ舟筏通行ノ際縣下東葛飾郡市川村地先水底電信沈架線貳拾間以内(水底線ハ



ノ目標アルヘシ)及堤防竝ケレツク等ニ掉ヲ突掛ケ又ハ繫留等ヲナスヘカラス

第十條 諸船竝ニ筏等行途フトキハ互ニ左方ニ避クヘシ尤日本船ハ進止自由ナラサルニツキ特ニ遠近ノ場所ヨリ避行シ夜中ハ提燈等現出シ或ハ時機ニヨリ大聲ヲ發シ精々避應ノ方法ニ盡カスヘシ但シ互ニ左方ニアケ難キ場合ニ在テハ其便宜ニ從フモ妨ケナシ

第十一條 官許ノ証ナクシテ銃砲彈藥等譯テ禁制ノ物品ヲ採取、其他不正ノ所業ヲナスモノト見認ムルトキ

ハ其最寄警察署又ハ分署ヘ密告スヘシ

第十二條 江戸利根兩川航通スル諸船河水八合以上ニ増加ノ節ハ航行ヲ差止ムヘシ

(本條ハ十二年八月甲第六十九號ヲ以テ追加)

第十三條 前各條ヲ犯シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

# 茨城縣

## ○汽船營業取締規則

(明治三十二年九月  
茨城縣令第五六號)

改正  
(明治三十三年縣令第七號  
明治三十七年縣令第三八號)

第一條 本則ニ於テ汽船營業ト稱スルハ河川湖沼ニ於テ汽船ヲ以テ乘客又ハ貨物ヲ運航スルモノヲ云フ

第二條 汽船營業ヲナサントスルモノハ住所氏名生年月日(法人ニアリテハ其名稱事務所々在地代表者氏名)

ヲ記シ左ノ事項ヲ具シ定業場所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其増減變更ヲナサントスルトキ亦同シ

一 發着場所及寄航場地名並ニ發着時間

二 航行度數

四 船舶ノ數(船舶ヲ使用スルモノハ其數  
並ニ乘客定員ヲ記スヘシ) 船舶ノ名稱及船舶ノ檢査証ノ寫前項法人ヨリ爲ス願書ニハ其定款ヲ添付スヘシ

第三條 他府縣ニ於テ許可ヲ受ケタル汽船營業者ニシテ管内ヲ航行スルモノハ左ノ事項ヲ記載シ船舶檢査證

ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 船名及船主氏名

二 本縣内發着場並ニ其發着時間

三 航行度數

四 乘客貨物ノ運賃額

五 船舶ノ數

第四條 全一航路ニ營業者二人以上アルトキハ左ノ例ニ依リ汽船ノ發着時間ニ間隔ヲ置クヘシ

一 航路十海里以内 三十分間以上

二 航路十海里以外 一時間以上

第五條 同一寄航場ニ於テ二船以下相會シタルトキハ其著船前後ニ依リ十分間ヲ經テ發船スヘシ

第六條 正當ノ理由ナクシテ發船時間ヲ變更スヘカラス

第七條 正當ノ理由ナクシテ營業許可ノ日ヨリ百八十日以内ニ開業セサル者並ニ三十日以上ヲ休業スルモノハ免許ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 汽罐並汽機船體ニ異狀ヲ生シタルトキハ其使用ヲ停止シ速ニ其原因及模様ヲ詳記シ定繫場所轄警察官署ヲ經縣廳ニ届出ヘシ

第九條 汽船ニシテ曳船ヲ使用スルモノハ二船以上ヲ連續スルコトヲ得ス

但汽機汽罐並ニ船體ノ構造堅牢ニシテ二船以上曳クニ堪ヘルト認メタルトキハ三艘以内ニ限り特ニ許可スルコトアルヘシ

第十條 第九條但書ニ依リ曳船ノ數ヲ増加セントスルトキハ其船名船數及乘組員ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出スヘシ

第十一條 左ノ各項ニ係ルモノハ他ノ乗客ト其室ヲ異ニスルニアラサレハ乘載スルヲ得ス

時間ヲ具シ定繫場所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 檢査施行細則第八十條賃錢發着時間發着所及寄港場ハ之ヲ詳記シテ船內客室ノ見易キ所ニ掲クヘシ

第十三條 機關室其他危險ノ場所ニハ標札ヲ掲ケ濫リニ乗客ヲ出入セシムヘカラス

第十四條 強テ客ニ乗船ヲ勸メ又ハ客引ヲ出スヘカラス

第十五條 河川湖沼出水ノ爲メ堤防缺損ノ虞アル場所及堤防修築收利工事中又ハ船舶幅輦ノ地ヲ航行スルトキハ前後二十間以内ハ速力ヲ最低度ニ減スヘシ

第十六條 定期寄港地外ニ於テ濫リニ積卸ヲナシ又ハ故ヲニ航路ヲ變シ他船ノ航行ヲ妨害スヘカラス

第十七條 船體及汽機汽罐ハ毎月二回以上機關室客室及其他ノ室内ハ時々清潔ニスヘシ

第十八條 汽船ハ別紙圖式ノ噴火止ヲ設クヘシ

第十九條 暴風出水等ノ場合ニ於テ警察官吏ニ於テ危險ト認メタルトキハ一時航行ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條ノ各條ニ違背シタルモノ若ハ第十九條ノ停止中ニ私ニ航行シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

一 八種傳染病者

二 看護人ノ附添ナキ瘋癲者及醉狂者

三 乗客ヲ汚濁シ又ハ危險ノ虞アル物品

四 獸畜類

第十二條 檢査施行細則第八十條賃錢發着時間發着所及寄港場ハ之ヲ詳記シテ船內客室ノ見易キ所ニ掲クヘシ

第十三條 機關室其他危險ノ場所ニハ標札ヲ掲ケ濫リニ乗客ヲ出入セシムヘカラス

第十四條 強テ客ニ乗船ヲ勸メ又ハ客引ヲ出スヘカラス

第十五條 河川湖沼出水ノ爲メ堤防缺損ノ虞アル場所及堤防修築收利工事中又ハ船舶幅輦ノ地ヲ航行スルトキハ前後二十間以内ハ速力ヲ最低度ニ減スヘシ

第十六條 定期寄港地外ニ於テ濫リニ積卸ヲナシ又ハ故ヲニ航路ヲ變シ他船ノ航行ヲ妨害スヘカラス

第十七條 船體及汽機汽罐ハ毎月二回以上機關室客室及其他ノ室内ハ時々清潔ニスヘシ

第十八條 汽船ハ別紙圖式ノ噴火止ヲ設クヘシ

第十九條 暴風出水等ノ場合ニ於テ警察官吏ニ於テ危險ト認メタルトキハ一時航行ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條ノ各條ニ違背シタルモノ若ハ第十九條ノ停止中ニ私ニ航行シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 從來ノ營業者ハ明治三十二年十月二十日マテニ本則ニ依リ更ニ願届出ノ手續ヲナスヘシ  
第二十二條 從來營業者ニシテ第十八條ノ裝置ナキモノハ明治三十二年十月二十日迄ニ設備スヘシ

○舢船營業取締規則

(明治四十年五月  
縣令第三十八號)

第一條 舢船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ出願シ許可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一 舢船發着場並ニ往復水路ヲ表示シタル圖面

二 營業ヲ爲ス河海ノ名稱及水深

三 船夫ノ定員

四 船体漕具ノ種類及員數搭載斤量乘客定員

第二條 營業者族籍住所氏名ヲ變更シ又ハ休業若ハ廢業シタルトキハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

營業者所在不明トナリ又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル死亡届出義務者ニ於テ事實ヲ知りタル五日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第三條 船体ハ所轄警察署ノ検査ヲ受ク検査証ノ交付ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ検査証ハ船体ノ見易キ場所ニ釘付スヘシ

第四條 船体ハ毎年七月所轄警察署ノ検査ヲ受クヘシ

第五條 舢船發着ノ地點ハ乗降ニ便ニシテ且ツ危險ヲ防止スル爲相當設備ヲナスヘシ

前項ノ設備ハ所轄警察署ノ検査ヲ受クヘシ

第六條 十六才未満ノモノ白痴瘋癲者及身体虛弱者ハ船夫トシテ使用スルコトヲ得ス

第七條 舢船營業者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 故ナク出船ヲ拒ミ又ハ遅延セサルコト
- 二 定限ヲ超過シ乗客又ハ貨物ヲ搭載セサルコト
- 三 何等ノ名義ニ拘ハラス所定貨錢以外ノ金錢ヲ請求スルコト

四 舢船發着場並舢船ニハ夜間燈火ヲ點スルコト

第八條 警察官吏ハ何時ニテモ船体及發着地點ノ設備ヲ検査シ修繕ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 警察官吏ハ暴風出水其他ノ事由ニ依リ必要ト認ムルトキハ搭載人員ノ制限船夫ノ増員出船停止若ハ臨時出船ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 營業者本則ニ違反シ又ハ公安風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官署ニ於テ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止シ若ハ船夫ノ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 許可ヲ受ケスシテ舢船營業ヲ爲シタル者
- 二 許可ヲ受ケスシテ第一條第一項各號ノ事項ヲ變更シタルモノ
- 三 第十條ノ停止命令ニ従ハス營業ヲナシ又ハ船夫解雇ノ命ニ従ハサルモノ
- 四 第二條乃至第七條ニ違背シタル者
- 五 第八條第九條ノ命令ニ従ハサル者

六 本則ニ基ク警察官吏ノ検査ヲ拒ミタル者  
 第十二條 營業者ハ船夫カ本則ニ違反シ又ハ本則ニ依リテナシタル命令ニ従ハサルトキハ自己ノ指揮ニ出サ  
 ルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

附 則

本則ハ明治四十年六月十六日ヨリ施行ス

○ 船隻營業取締規則施行手續

(明治四十年七月十二日 茨城縣訓令乙一五二號)

- 第一條 規則第三條ノ検査証ハ左ノ様式ニ依リ製作スヘシ
- 第二條 規則第十條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ其事由ヲ詳具シ第四部長ニ稟議スヘシ但船夫ノ解雇ヲ命ス  
ル場合ハ此限リニ在ラス
- 第三條 左ノ場合ニ於テハ直ニ警察部長ニ報告スヘシ
  - 一 規則第四條ノ定期検査ヲ終リタルトキハ其検査成績
  - 二 規則第八條規則第九條ノ命令ヲ爲シタルトキ

木製長五寸

第 四 寸
第 號
住所
氏名
船体検査証
警察官署
烙 印

# 琦 玉 縣

## ○ 汽船營業取締規則

(明治四十四年四月二十五日 琦玉縣令第三十三號)

- 第一條 本則ニ於テ汽船營業トハ蒸氣、石油發動機其ノ他機械力ニ依リ運轉スル船舶ヲ以テ乗客又ハ貨物ノ  
運送若ハ曳船ヲ業トスルモノヲ云ヒ船員トハ船長以下ノ乗組員ヲ云フ
- 第二條 汽船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ第三號乃至第八號ノ事項ヲ  
變更セントスルトキ亦同シ
  - 一 本籍、住所、職業、生年月日但法人ニ在リテハ其名稱定款及業務代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月  
日
  - 二 營業事務所及出張所所在地
  - 三 營業ノ種別
  - 四 航路ノ圖面及里數
  - 五 船舶ノ發着場寄航場ノ地名及其ノ發着時間若シ發着時間ヲ豫定シ得サル事情アルトキハ其ノ事由
  - 六 各航路ニ用ユル各船舶ノ種類、員數、原動力、船名、噸數
  - 七 乗客貨物ノ運送賃又ハ曳船賃
  - 八 舢又ハ棧橋ヲ使用スル場所及其ノ賃錢
  - 九 河川若ハ其ノ敷地ニ固着シテ工作物ヲ施設セントスルトキハ其ノ許可書ノ寫

營業ヲ繼承セントスルトキハ其事由ヲ記シ讓渡人連署ノ上前項第一號ノ事項ヲ届出ヘシ

第三條 未成年者、禁治産者ノ爲ス願届書ニハ法定代理人ノ連署、準禁治産者、妻ノ爲ス第二條ノ願書ニハ保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス但民法第十七條ノ場合ハ此限りニアラス

第四條 本則ニ依リ知事ニ提出スル願届ハ事務所ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第五條 營業者船長又ハ機關手ヲ雇入レントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

一 本籍、住所、氏名、生年月日

二 履歴ノ概要

前項以外ノ船員ヲ雇入レントスルトキハ前項第一號ノ事項ヲ具シ營業事務所ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ其者ノ死亡解雇若ハ所在不明トナリタルトキ又全シ

第六條 營業者ハ左記各號ノ一ニ該當スル事項アルトキハ三日以内ニ知事ニ届出ヘシ但第三號ノ場合ハ船名噸數船舶検査証書又ハ鑑札ノ寫ヲ添ヘ第八號ノ場合ハ戶籍法第二百二十六條ノ届出義務者之ヲ爲スヘシ

一 開業セントスルトキ

二 増設延長又ハ變更ニ係ル航路ヲ開始セントスルトキ

三 船舶ノ使用ヲ開始セントスルトキ

四 休業又ハ廢業シタルトキ

五 航路又ハ寄港場ヲ廢止シタルトキ

六 船舶又ハ舳、棧橋ノ使用ヲ廢止シタルトキ

七 第二條第一號第二號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ

八 法定代理人又ハ保佐人ヲ變更シタルトキ

九 營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ

十 第五條第一項ニ依リ届出タル船員ノ死亡解雇若ハ所在不明トナリタルトキ

第七條 營業者ハ左記各號ノ設備ヲ爲シ使用前所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ其ノ改造修繕ヲ爲シタルトキ亦同シ

一 乗客乗降ニ用ユル棧橋ノ兩側ニハ堅固ナル高サ曲尺三尺以上ノ欄干ヲ設クルコト

二 乗客ノ用ニ供スル甲板ニ船舷ナキモノハ其ノ周圍ニ高サ一尺五寸以上ノ堅固ナル欄干ヲ設クルコト

三 船舶ノ煙突ニハ噴火止ノ装置ヲ爲スコト

前項ノ制限ハ相當ノ事由アリト認めタル場合ハ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ

第八條 左記第一號、第二號ノ場合ニ於テハ發船場、第三號、第四號ノ場合ニ於テハ寄航場又ハ著船場ノ所轄警察官署ニ遲滞ナク届出ヘシ

一 臨時發船ヲ爲サントスルトキ

二 定期ノ發船ヲ休止シタルトキ

三 船舶内ニ於テ死傷其他異變アリタルトキ

四 船舶内ニ於テ傳染病豫防法ニ依ル傳染病又ハ獸疫豫防法ニ依ル獸疫發生シタルトキ

前項第四號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ隔離シテ消毒法ヲ行ヒ警察官吏ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ乗客ヲ乗降セシメ若ハ貨物ノ搭載陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 營業ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 同一ノ場所ニ於ケル船舶ノ發着ハ他ノ船舶トノ間ニ十分間以上ノ時間ヲ存スルコト
- 二 船舶ハ日出前日没後ハ右舷ニ綠燈左舷ニ紅燈前面ニ白燈ヲ掲クルコト
- 三 乘客、貨物ノ運送貨、解、棧橋ノ賃錢ハ船舶ノ發着場寄港場及船舶ノ各客室ニ之ヲ揭示スルコト
- 四 機關室其他危險ノ場所ニ故ナク乘客ニ出入セシメサルコト
- 五 乘客ノ定員ヲ超過セサルコト
- 六 故ナク乘客ノ乗降又ハ貨物ノ搭載陸揚ヲ拒ムヘカラサルコト
- 七 船舶發着場又ハ寄港場以外ノ場所ニ於テ乘客ヲ乗降セシメ若ハ貨物ノ搭載陸揚ヲ爲スヘカラサルコト
- 八 乘客又ハ荷主ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス定額賃錢以外ノ金錢ヲ請求スヘカラサルコト
- 九 強テ乗船ヲ勸メサルコト
- 十 船舶内ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 十一 第八條第一項第四號ノ患者死者又ハ病獸ヲ乗船セシメサルコト
- 十二 監護人ナキ精神病者又ハ嫌疑スヘキ疾患ナル者若ハ亂醉者ハ他ノ乘客ト室ヲ異ニスルニアラサレハ乗船セシメサルコト
- 十三 死體家畜其ノ他危險ナル動物又ハ惡臭ヲ發シ若ハ他物ヲ汚漬スル虞アル物品ハ乘客並ニ他ノ貨物ト室ヲ異ニスルニアラサレハ搭載セサルコト
- 十四 濫リニ機關力ヲ増加シ他ノ船舶ト競争ヲ爲サ、ルコト
- 十五 狹隘屈曲又ハ船舶幅濶ノ場所ヲ航行シ若ハ他ノ船舶ニ近接シタルトキハ汽笛ヲ鳴シ徐行スルコト
- 十六 多數ノ人員又ハ貨物乗載セル船舶ニ行達ヒ若ハ之ヲ追越サントスルトキハ汽笛ヲ鳴シ其ノ船舶ノ前

後二十間以上ヲ徐行スルコト

十七 曳船ハ二艘以内ニシテ曳綱ノ長サハ第一船ハ五十尺以内第二船ハ十五尺以内ナルコト

十八 運賃ヲ受領シタルトキハ發着地名運賃額ヲ記載シタル乗船券ヲ乘客ニ交付スルコト

第十條 警察官吏ハ臨時船舶ノ検査ヲ爲スコトアルヘシ

第十一條 航行危險ナリト認メタル船舶ハ其ノ使用ヲ停止シ又ハ制限若ハ修繕ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 警察官吏ハ強風、出水、船体ノ異常其他ノ事故ニ因リ支障又ハ危險アリト認メタルトキハ船舶ノ發着時間ヲ伸縮シ若ハ航行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ若ハ停止スルコトアルヘシ

一 故ナク營業許可ノ日ヨリ百八十日以内ニ開業セサルトキ

二 故ナク三十日以上休業シタルトキ

三 本則ニ違犯シ若ハ營業上不適當ト認メタルトキ

四 法定代理人又ハ夫ノ許可若ハ保佐人ノ同意ヲ取消サレタルトキ

第十四條 故ナク三十日以上發船セサル航路アリタルトキハ其ノ航路ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條 船員ニシテ不適當ト認メタルトキハ其ノ解雇ヲ命シ又ハ其ノ者ノ就業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十六條 本則第二條乃至第九條第十一條乃至第十五條ノ命令ニ違犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十七條 第十六條ノ罰則ハ營業者カ十四才未滿又ハ禁治産者ナルトキハ之ヲ法定代理人ニ法人ナルトキハ

業務代表者ニ之ヲ科ス

第十八條 營業者ハ家族雇入其ノ他從業者ノ所爲ト雖モ自己ノ指示ニ出サルノ故ヲ以テ其責ヲ免ル、コトヲ



得ス但船長又ハ其ノ他ノ船員ニシテ本則ニ違犯シタルトキハ此限りニアラス  
第十九條 本則第六條第四號第五號第六號及第七條乃至第十二條ハ他府縣ノ營業者ニシテ埼玉縣下ニ航路ヲ  
有スル者ニ之ヲ適用ス

附 則

第二十條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 明治十三年二月甲第十六號汽船航行取締規則ハ之ヲ廢止ス

# 福島縣

## ○若松港取締規則

(明治三十七年十二月二十五日  
縣令第五十九號)

若松港取締規則左ノ通り定ム

第一條 若松港ヲ分テ内港本港及外港トシ其區域左ノ如シ

一 金毘羅山下ノ標柱ト牧山鼻標柱トノ連結線以西港界線マテノ水面ヲ内港トス

二 若松町渡船場ノ標柱ヨリ河斛島(通稱中ノ島)西端ヲ經テ戸畑町渡船場ノ標柱ニ至ル連結線以西金毘羅  
山下標柱ト牧山鼻標柱ト連結線マテノ水面ヲ本港トス

三 若松町渡船場ノ標柱ヨリ河斛島西端ヲ經テ戸畑町渡船場ノ標柱ニ至ル連結線以東港界線マテノ水面ヲ  
外港トス

第十條 本港ヲ更ニ左ノ二區ニ分チ第一區内白色ノ浮標ヲ以テ圍マレタル以内ヲ汽船(總噸數七十噸未滿ノ)小蒸汽船ヲ  
除クノ碇泊所トシ其ノ他ノ部分及第二區ヲ總噸數七十噸未滿ノ汽船及帆船雜種船ノ碇泊所トス

一 第一區ハ航路ノ以南本港ト内港及本港ト外港トノ限界線及陸岸ニヨリ圍マレタル區域内

二 第二區ハ航路ノ以北陸岸ニヨリ圍マレタル區域内

第三條 港界内ノ航路ハ黒赤色ノ浮標ニ依リ區劃シタル水面ヲ以テ本航路トス

若松町ヨリ戸畑町ニ接続スル國通筋渡船及若松町宇辨財天海岸並ニ若松稅關支署側面波止塲ヨリ往復スル

小蒸汽船小廻船ノ航路其ノ他艀船ノ碇繫場出入口ハ航路ヲ開キ置クヘシ

第四條 總テ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外外航路内ニ碇泊若ハ停船スルコトヲ得ス

- 一 港内ノ工事ニ從事スル船舶
- 二 沈没品ノ引揚ニ從事スル船舶
- 三 遭難船舶ノ救助ニ從事スル船舶
- 四 事變ノ爲メ運轉自由ヲ得サル船舶

前項第一號乃至第四號ニ掲クル船舶(總噸數十噸未満積石噸數百石未満ヲ除ク)航路内ニ碇泊若ハ停船中ハ海上衝突豫防法第四條第一項ノ規定ニ依リ船燈又ハ形象ヲ掲クヘシ

第五條 着港シタル船舶(總噸數百噸以上積石噸數千石以上)ハ其ノ船ノ種類、船名、船主、國籍、船籍港名、總噸數、登簿噸數、發港地名、寄港地名及發航地年月日時ヲ記シ出港ノトキハ船名及出港年月日時出向地名ヲ記シ船長又ハ其ノ代理者ヨリ所轄警察署ヘ届出ヘシ

定期ニ航海スル船舶ハ豫メ前項ノ届出ヲナシ以後之ヲ省略スルコトヲ得

第六條 入港セントスル汽船(總噸數百噸以上)ハ突堤終端沖ニ於テ晝間ニ在ラハ國旗及信號符字ヲ掲ケ夜間ニ在テハ汽笛長聲ヲ三發スヘシ但定期郵便船ハ晝間會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

前項ノ國旗及信號符字又ハ會社旗ハ汽船ノ着港ヲ所轄警察署ニ届出タル後ニアラサレハ之ヲ引キ下スコトヲ得ス

出港セントスル汽船ハ其ノ旨所轄警察署ニ届出且出帆旗ヲ引揚ケヘシ

第七條 總テ船舶ハ港界内ニ於テ特ニ規定アル場合ノ外猥リニ汽笛ヲ吹鳴スヘカラス

第八條 入港セントスル船舶ハ「ヤード」ヲ旋回シ「ヂブ、ブーム」ヲ引入レ端艇ヲ取入ルヘシ但シ他ノ船舶ノ

障礙トナラサル場合ハ此限ニアラス

前項ノ船舶ハ兩船首錨及船尾ニ豫備錨ノ準備ヲ爲スヘシ

第九條 總テ船舶ハ外港ヲ除クノ外双錨ヲ投シテ碇泊スヘシ

本港第一區ニ於テ繫船浮標ニ繫留スル汽船ハ其ノ船首ヲ繫クヘシ  
此ノ場合ハ前項ニ依ルヲ要セス

第十條 港界内ニ於テハ荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラス船舶ニ於テ石炭荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸シスルトキハ其ノ海中ニ脱落セサル様豫メ必要ノ防備ヲ爲スヘシ

第十一條 港ノ妨害トナルヘキ難破物又ハ海中ニ投棄若ハ脱落シタル物料ハ當該船舶又ハ其ノ所有者ニ於テ直ニ之ヲ取除クヘシ

第十二條 燈船、燈臺、浮標、又ハ立標ニハ鏈、綱、其ノ他ノ船具ヲ繫留スヘカラス

第十三條 港内ニ於テハ汽船ハ他船ニ妨害ヲ加フルカ如キ速力ヲ以テ航行スヘカラス

又帆船ハ帆ヲ減シテ徐行シ若ハ曳船ヲ使用スヘシ

第十四條 艀船ハ港界内ニ在テハ四隻以上連結シテ並行スルコトヲ得ス

第十五條 總テ船舶ハ港界内ニ於テ他船ノ航行及投錨ヲ妨ケ又ハ前路ヲ横切ルコトヲ得ス

第十六條 荷船端艇又ハ小蒸汽船ハ止ムヲ得サル場合ノ外他船ノ後部ニ接シテ繫留スヘカラス

第十七條 船舶港界ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打チ鳴スヘシ但晝間ハMNノ信號ヲ掲

ケ夜間ハ斷ヘス紅燈ヲ上下スヘシ

第十八條 港界内ニ於テハ海上衝突豫防法ノ規定ニヨリ信號ニ用ユル場合ノ外銃砲及煙火等ヲ發スルヲ得ス

第十九條 常用ニ超過シ爆發物及容易ニ燃燒スヘキ物料(爆發物ト稱スルハ「プラスチック、セラチン」彈藥包、爆發管「ダイナマイト」烟火、無烟火藥導火管「セリグナイト」「ナイトログリセリン」火藥、綿火藥、雷管ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物料ト稱スルハ生石油(「ピルマ」油「ラングリン」油「ロツク」油ヲ包含ス)石油「ナフタ」的列並底油、依的兒、偏蘇爾、石油偏陳、「アセトン」酒精及硫化炭素ノ類其他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ云フ)ヲ積載スル船舶ハ外港ニ於テ航路ヲ避ケ碇泊スヘシ但特ニ警察官ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニアラス

前項ノ船舶港界内ニ碇泊シ又ハ航行スルトキハ晝間ハB信號旗夜間ハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ掲クヘシ

第二十條 港界内ニ於テ曳船ヲ爲ス汽船ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 被曳船カ航洋船ナルトキハ一隻
- 二 前項以外ノ船舶ナルトキハ其積量二十萬斤以上ニ在ラハ三隻其以下ニ在テハ二列五隻單列ノトキ又同

第二十一條 前條曳船ニ要スル曳綱ノ長サハ曳船ト被曳船第一船トノ距離ヲ十六尋以内トシ其ノ以下相互間ノ距離ヲ十二尋以内トス

第二十二條 小廻船ハ汽船ノ船側ニ接シテ四隻以上並列スヘカラス

第二十三條 港界内航路ニ於テハ漁業ヲナスコトヲ得ス

第二十四條 警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ碇泊中ノ船舶ニ臨檢シ又ハ一時船舶ノ航行ヲ停止セシムルコトアルハシ

第二十五條 第三條第二項第四條第九條第十條第十一條第十三條第十四條第十五條第十九條第二十條ニ違背シ

又ハ第廿四條ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命令ニ從ハサル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第廿六條 第五條第六條第八條第十二條第十六條第十八條第二十二條第二十三條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第廿七條 船舶ニ在テハ海員ノ所爲ト雖モ船長若ハ船長ノ事務ヲ行フモノ其責ニ任ス

附 則

第二十八條 明治卅三年縣令第三七號若松港灣取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

# 宮 城 縣

## ○小形汽船取締規則

(明治十九年十月  
宮城縣令第四一號)

- 第一條 小形汽船ニシテ旅客ヲ登載シ航運ノ業ヲ爲サントスル者ハ左ノ明細書ニ檢査證書寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 第二條 小形汽船ノ乗客取扱ノ業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第三條 廢業移轉改名等其他明細書面ト異動ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ依リ其都度届出ヘシ
- 第四條 乗客ノ賃錢ハ相當ノ額ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ但シ賃錢表ハ船内及切符賣捌所等見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ
- 第五條 航行定日發着時限及發着地寄港ノ箇所等豫メ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
- 第六條 發着定期及發着地寄港ノ箇所等臨時之ヲ變更シ又ハ代船ヲ用ユルトキハ其ノ出發定期前ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出可シ
- 第七條 汽船出入ノ際ハ左ノ例ニ依リ汽笛ヲ發聲スヘシ
- 一 出發信號 三聲 一聲 二十秒時以内
  - 一 到着信號 二聲 同
- 第八條 航行中速力ヲ競争シ又ハ寄港地ニ於テ故ナク時間ヲ經過スヘカラス若シ天災等止ヲ得サル事故アリ時間ヲ經過スルトキハ最寄警察署分署巡查派出所若ハ巡行巡查ニ届出ヘシ

第九條 航行中寄港地外ニ於テ旅客貨物ヲ搭載シ其他乗客ヲ其約束外ノ地ニ上陸セシムヘカラス

第十條 定額外賃錢其他種々ノ名義ヲ以テ金錢ヲ請求ス可カラス

第十二條 他船ト衝突シ若クハ暗礁ニ觸レ其他事變アリタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十三條 乗客ノ員數ハ船主又ハ船長ニ於テ毎月取調翌月五日限り所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十四條 警察官吏ハ取締上必要ト認ムルトキハ臨時乗船スルコトアルヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ其證票ヲ所持スヘシ

第十五條 本則第十四條ヲ除キ他ノ各條ニ違背シタル者ハ一日以上ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上二圓九拾五錢

以下ノ科料ニ處ス

○遊覽船營業取締規則

(明治三十六年十二月 宮城縣令第五一號)

第一條 本則ハ土地ノ風光ヲ觀覽スル公眾ヲ乗船セシメ營業スル者ニ適用ス

第二條 遊覽船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

一 出願者、本籍、住所氏名生年月日(共同團體ニ在リテハ其代表者)

二 船體ノ種別長幅及船名

三 營業スヘキ航路ノ區域

四 乗客ノ定員

五 水手ノ員數但營業者自ラ水手ヲラントスル者ハ其旨ヲ記スヘシ

第三條 船體ハ堅牢ニシテ左ノ船具ヲ備フヘシ

一 舵檣、櫂、錨、鋼類、帆(帆柱其他附屬品共)竿、日覆、雨覆、垢取、救命環其他必要ノ器具

第四條 船内中客席ニ屬スル内面ハ適當ナル板ヲ以テ内張ヲ爲スヘシ但シ内張ハ取外シ自由ナルヲ要ス

第五條 左ノ場合ニ在リテハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

一 廢業又ハ廢船シタルトキ

二 水手解雇シタルトキ

三 轉居改氏名ノトキ

第六條 營業ニ使用スル船ハ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其證印ヲ受クヘシ

船體ノ新造改造又ハ買受讓受ケテナシタルトキ亦同シ

第七條 船體及附屬品ハ毎年二回(四月十月)所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其證印ヲ受クヘシ

第八條 營業者ニ於テ水手ヲ雇入レントスルトキハ所轄警察署ニ届出免許證ヲ受クヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ水手タルコトヲ得ス

一 強盜又ハ強姦等ノ罪ニ依リ處罰セラレタルモノ

一 婦女若ハ年齢二十歳以下六十歳以上ノ男及傳染病若ハ嫌疑スヘキ疾病ニカ、リ居ルモノ

第九條 水手ハ毎年一回(六月)免許證ヲ提供シ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其證印ヲ受クヘシ

第十條 免許證ヲ貸與シ又ハ検査證ヲ轉用スヘカラス

第十一條 賃錢ハ一定ノ額ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 營業者ハ木札ノ賃錢牌ヲ作り所轄警察官署ノ烙印ヲ受ケ船體客席ニ釘付スヘシ

前項ニ準シ停船場見易キ位置ヘ賃錢牌ヲ掲グヘシ

- 第十三條 夜間航行中ハ燈火ヲ点スヘシ
- 第十四條 營業者ニ於テ取締人ヲ選定シタルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ取締人ニシテ不適當者ト認ムルトキハ認可ヲ與ヘス又ハ改選セシムルコトアルヘシ
- 第十五條 船ノ避讓ハ總テ左舷ニ避クヘシ
- 第十六條 停船場ハ所轄警察官署ニ於テ之ヲ指定ス
- 第十七條 營業者及水手ハ就業中左ノ事項ニ違背スヘカラス
  - 一 一定員外ノ客ヲ乗船セシムヘカラス
  - 二 乗客ノ承諾ナクシテ他船ヘ乗換ヘ又ハ濫リニ停船シ又ハ降船ヲ求ムヘカラス
  - 三 故ナク出船ヲ拒ミ又ハ遅引スヘカラス
  - 四 乗客ノ指示セサル宿屋等ヘ案内スヘカラス
  - 五 強テ乗船ヲ勸誘シ又ハ侮慢ノ舉動ヲナスヘカラス
  - 六 停船場以外ニ船ヲ繋クヘカラス
  - 七 裸體又ハ見苦シキ服裝ヲ爲シ若クハ醉體ヲ顯スヘカラス
  - 八 濫リニ競漕ヲナスヘカラス
  - 九 乗客ニ對シ名義ノ如何ニ拘ラス規定ノ賃錢以外ニ金品ヲ請求スヘカラス
- 第十八條 水手就業中ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ但夏期ハ總テ白色ヲ用ユルヲ得
  - 一 着服ハ紺色筒袖半纏及股引
  - 二 體操帽子又ハ饅頭笠

第十九條 營業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ六ヶ月以内營業ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 本則ニ違背シ處罰セラレ尙ホ改悛ノ狀ナキトキ
  - 二 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認メタルトキ
- 第二十條 水手本則ニ違背シ又ハ就業上不適當ト認メタルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ
- 第二十一條 本則ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

○運河取締規則 (第二十二年五月十一日 縣令第四四號)

- 第一條 本則ニ於テ運河ト稱スルハ野蒜東名及貞山ノ各運河ヲ云フ
- 第二條 運河内通行ノ船舶ハ幅員十八尺載貨吃水四尺以内ノモノタル可シ
- 第三條 運河通航ノ解筏ハ幅員十八尺以内ノモノタルヘシ但シ夜中ハ通航ヲ許サス
- 第四條 運河ヲ通航スル汽船ハ一時間五海里以内ノ速力ヲ用ヒ其橋梁閘門ヲ通過スルトキハ一分時間三十間以内ノ速力ヲ用フ可シ但シ橋梁閘門渡船場ニ近ク時ハ汽笛ヲ鳴ラシテ其航通ヲ報ス可シ
- 第五條 船舶解筏ハ到達ノ順序ニ依テ閘門ヲ通過ス可シ但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニアラス
  - 一 官船
  - 二 郵便物ヲ搭載シタル船
  - 三 爆發物火藥類ヲ搭載シタル船
- 第六條 船舶解筏ヲ閘門橋梁堤塘護岸ニ衝突シ若ハ之ヲ毀損ス可ラス

ニ於テ航行若ハ繫留スル船舶解後ハ岸邊ニ沿ヒ他船ノ通開ヲ防ク可カラス

第八條 一定ノ繫留場又ハ物揚場外ニ於テ船舶解後ヲ繫キ若ハ乘客貨物ノ揚卸ヲ爲ス可カラス  
但船體破損又ハ天災等ニ際シ止ムヲ得サル場合ニ於テハ他船通航ノ妨害トナラサル場所ニ一時繫留スルコトヲ得

第九條 運河ニ於テハ船舶解後ヲ二艘若ハ二箇以上ヲ併列シテ通航スルヲ得ス

第十條 運河ノ浚渫若ハ堤護岸ノ修築ニ際シ通航スル船舶解後ハ工事ノ妨害ナキ様注意シ但シ汽船ニ在テハ

第四條ノ速力ヲ半減シ進行ス可シ但シ工事ノ都合ニ依リ臨時通航ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 運河内ニハ砂石塵芥若ハ燼灰等投棄ス可カラス

第十二條 運河通航ノ船舶解後浚渫船若ハ他ノ船舶解後ニ近クトキハ汽笛ヲ鳴シ又ハ喚呼シテ其通行ヲ報ス可シ

第十四條 本則第二條乃至第十三條ノ各條ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

# 岩手縣

## ○河川運漕取締規則

(十七年甲第五十三號  
ヲ以テ改正岩手縣)

第一條 管船河川ニ於テ船舶ヲ運轉シ賃金ヲ收テ旅人物貨ヲ運漕スル業者ハ第一號式ニ倣ヒ郡役所ヘ願出免許ヲ受クヘシ

第二條 運漕業者ハ最寄組合ヲ定メ規約ヲ結ビ取扱所ヲ設立シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 前條組合中ヨリ頭取一名ヲ公選シ取扱所ノ事務ヲ總理セシムヘシ

第四條 運漕取扱所ハ第二號式ノ鑑札ヲ製シ免許ヲ得タルニ渡シ營業人ハ其鑑札ヲ船ノ中梁ニ釘付スヘシ

第五條 運漕取扱所ハ本川筋運漕取扱所及陸送業者ト聯合ノ規約ヲ結ビ組合ノ利害ニ關スル事件アルトキハ組合ヲ召集シテ之ヲ評決セシメ縣廳ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

第六條 運漕取扱所ハ組合營業人ト協議シ取扱規則及手数料ノ割合ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 運漕取扱所ニ於テ出張所ノ設立ヲ要スルキハ縣廳ヘ具申シ認可ヲ受クヘシ其認可ヲ受ケタルキハ組

頭ヲ選定シ人名ヲ届出ヘシ

第九條 運漕取扱所ハ運漕規則賃錢定額發着日限等ヲ揭示シ又第四號式ノ標牌ヲ戸前ニ掲ケ置クヘシ

第十條 第二條第三條ノ協議ヘサルカ又ハ其協議ヲ認可シカダキ事由アルトキハ縣廳ニテ取扱所設置ヲ命シ頭取ヲ特選スルコトアルヘシ

第十一條 組合營業者ノ物貨取扱方ハ回漕貨物取扱條例ニ準據スヘシト雖モ取扱所ハ營業人ヲ監督シ若シ營

業人ノ不注意ニ依リ貨物ヲ紛失シ若クハ損傷スルトキハ該取扱所其責ニ任スヘシ

第十二條 運漕取扱所ニ於テ物貨ヲ積出スルハ送狀ヲ發シ又陸揚スルハ其物品ヲ検査シ且發着船場ノ取扱所ニ之ヲ報告スヘシ

第十三條 組合營業人物貨運漕ノ依頼ヲ受ケタルトキハ送狀ヲ取扱所ヘ差出シ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 組合營業人物貨ヲ陸揚スルハ其所在取扱所ヘ送狀ヲ差出シ檢閲ヲ經テ陸揚スヘシ

第十五條 運漕營業人航行ノ途中取扱所設立ナキ場所ニ於テ臨時運漕ノ取扱依頼ヲ受ケ又ハ陸揚スルトキハ最寄取扱所ニ於テ第十二條若ハ第十三條ノ手續ヲ履行スヘシ

第十六條 他管ノ運漕業者ト雖モ本縣内ニ於テ物貨ヲ積出スルハ第十二條第十四條ノ手續ヲ履行スヘシ

第十七條 他管人民ト雖モ此規則ニ從ヒ組合ニ加入スルコトヲ望ムモノハ之ヲ許スヘシ

第十八條 汽船ヲ以テ第一條ノ業ヲ營ム者ハ組合ヲ定メ頭取ヲ擇フノ限ニアラスト雖モ運漕取扱所陸運營業

ト聯合ノ規約ヲ結ヒ上航下航日數ニ依テ賃金ヲ定メ輸出入物貨ヲ毎月縣廳ニ報告スル等ハ本則ニ從フヘシ

第十九條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

號式

河川運送營業願

何年何月何日製造

一船名

何石積 長 何間

(定期ノ運漕ヲナスモノハ左ノ一項ヲ加フ)

何郡 何村

船頭

(汽船ハ噸數ヲ記載スヘシ)

誰

何所ヨリ 定期 運漕

何所ニテ 何日 何時

毎月 何日 何時

出帆 午前 何時

着船 同

右ハ御本縣運漕取締規則ニヨリ何組ニ加入シ其規約相守(自己ノ持船又ハ誰々ノ借船)運漕營業仕度右御許可ノ上ハ深切ニ營業仕荷物紛失等無之様精々注意可仕候間願意御許可被成下度此段奉願上候以上

年月日

何郡 何村

營業人

頭取

誰 某

誰 々

郡長 宛

(戶長與書式之ヲ略ス)

第二號式

記

何所取扱所

何船

一 壹艘雇切

壹間ニ付

上航金

何程

一 荷物壹駄(四十貫目)

同

同

一 乘客壹人

同

同

但シ荷物四十貫目以下壹貫目ニ付何程乘客ノ十歳未滿何程



一 自何地至何地上り下り幾日ニシテ達スル者ハ何割増幾日何割増幾日已上ハ平常賃金ノ通但急行賃金ノ増額ハ豫メ約定シ其三日若ハ二日ノ約定ニシテ風水等ノ都合ニ依リ早着スルモ其約定賃金ノ外ハ増加セズ

右ノ通貨金相定メ申度候間御認可被下度此段奉願上候已上

年月日 何郡何町 某  
 頭取 某  
 郡長宛  
 運漕營業鑑札雛形  
 堅四寸

何號	何郡何町	某
幅	運漕營業人	某
三	同	某
〇何丸	船頭	某
寸		
年月日	何川岸運漕取扱所	

# 青森縣

## ○通船營業取締規則 (明治三十九年七月二十九日 縣令三五五號)

- 第一條 通船營業ト稱スルハ港灣ニ碇泊スル艦船ニ旅客貨物ヲ運漕スル營業ヲ云フ
- 第二條 通船營業者ノ使用スル船舶ヲ左ノ二種ニ區別ス
- 一 客 船 (旅客ヲ乗載スルモノ)
  - 一 荷 船 (貨物ヲ運漕スルモノ)
- 第三條 通船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 族籍住所氏名年齢法人ニ在リテハ其代表者ノ住所氏名年齢
  - 二 未成年者ニアリテハ後見人ノ連署
  - 三 營業ノ場所
  - 四 船ノ種類(客船、荷船ノ別)員數第七號書式構造明細書
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出更ニ證印ヲ請フヘシ
- 一 轉居、改氏名、檢査證、鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
  - 二 檢査證鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ字體不明印章磨滅シタルトキ
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署又ハ巡查部長派出所若クハ巡查駐在所へ書面又ハ口頭ヲ以テ届出テ證印消除ヲ請フヘシ

但營業者死亡シタルトキハ相續人ヨリ届出ヘシ

- 一 廢業シタルトキ
- 二 廢船シタルトキ
- 三 舢舨流失沈没又ハ破壊シタルトキ
- 四 舢舨ヲ貨渡シ賣渡シ又ハ讓與シタルトキ
- 五 船夫失踪逃亡又ハ死亡若ハ解雇シタルトキ

第六條 營業者船夫ヲ雇入レタルトキハ住所氏名年齢ヲ所轄警察署ニ届出テ一人毎ニ鑑札用(附録第一號雜形)ノ木札ヲ差出シ其證ヲ受クヘシ

營業者船夫ヲ兼ネタルトキ又同シ

第七條 乘客賃金ハ同業者協議ノ上其額ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 舢舨ハ堅牢ニシテ簀板ヲ備ヘ荷舢舨ニハ重量吃水線ヲ劃スヘシ

第九條 舢舨ハ使用前所轄警察官署ニ届出テ検査證用(附録第二號雜形)木札ヲ差出シ其證ヲ受クヘシ検査ヲ受ケ若クハ検査證アル舢舨ト雖モ破損ヲ生シ危險ト認ムルモノハ使用スルコトヲ得ス検査證ハ船内見易キ所ヘ釘付スヘシ

第十條 客舢舨ノ乘客定員ハ(艦梁ヨリ舢梁マテノ間)四平方尺毎ニ一人トス

但シ十歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歳未満ノ者ハ定員外トス

第十一條 客舢舨ニハ乘客定員票賃金票ヲ第三號第四號雜形ニ據リ調製シ所轄警察署ノ證印ヲ受ケ船内見易

キ場所ニ釘付スヘシ

第十二條 舢舨ニハ晝間附録第五號雜形ノ標旗ヲ船尾高サ三尺以上夜間ハ第六號雜形ノ標燈ヲ船首高サ三尺以上ニ掲クヘシ

第十三條 舢舨屬具ハ毎年一回(四月)所轄警察官署ノ指定シタル場所ニ於テ検査ヲ受ケ其證印ヲ受ク可シ證

印ヲ受ケサル鑑札及検査證ハ無効トス

第十四條 乗船若ハ積荷ヲ求ムルモノアルトキハ正當ノ事由ナクシテ出船ヲ拒ムヘカラス

第十五條 舢舨ハ豫メ順番ヲ定メ置順次發船スヘシ乘客若クハ荷主ヨリ特ニ指定アルトキハ此限ニアラス

第十六條 長大ナル貨物ヲ搭載シ爲メニ舢舨ヲ見透シ得サルトキハ舢部ニ見張人ヲ置クヘシ

第十七條 石油酒精硫磺樟腦其他發火シ易キ物品ヲ運送スルトキハ赤色ノ標旗ヲ船内見易キ場所ニ掲出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成規ノ燈火ヲ除クノ外喫煙其他火氣ヲ取扱フヘカラス

第十八條 荷舢舨ハ吃水線ヲ超ヘテ積荷ヲ爲シ客舢舨ハ定員外客ヲ乗載スヘカラス

第十九條 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス定額外ノ賃金ヲ請求スヘカラス

第二十條 検査證鑑札若ハ標旗標燈ハ貸與又ハ轉用スヘカラス

第二十一條 船夫ハ就業中見苦シキ服装ヲ爲スヘカラス

第二十二條 船夫ハ就業中鑑札ヲ携帶シ警察官吏ニ於テ見ンコトヲ求メタル時ハ速ニ之ヲ示スヘシ

第二十三條 強テ客ヲ誘引シ又ハ船客船員ノ承諾ヲ得スシテ手荷物其他ノ貨物ニ接觸スヘカラス

第二十四條 乘客又ハ荷主ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他船ニ移シ若クハ故ナク停船スヘカラス

第二十五條 警察官吏ハ風浪其他必要ト認ムル場合ニ於テハ舢舨ノ使用ヲ一時停止シ若クハ其乗載ヲ制限シ又ハ船夫ノ増員ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條 營業者ニシテ本則ニ違犯シ又ハ不正ノ行爲アリタルト認メタルトキハ所轄警察官署ニ於テ營業ヲ停止シ又ハ許可ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ

船夫ニシテ前項ノ行爲アリト認メタルトキハ所轄警察官署ニ於テ其業務ヲ行フ事ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第廿七條 土地ノ狀況ニ依リ必要ト認メタルトキハ所轄警察官署ニ於テ營業組合ヲ設ケシムルコトアルヘシ  
營業組合ヲ設ケタルトキハ組合規約ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更増減シタルトキ亦同シ

第廿八條 本則ニ違背シタル者又ハ第廿五條ノ命令ニ從ハサル者若クハ第廿六條ニ依リ停止ノ命ヲ受ケ私ニ其業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第廿九條 本則ハ當分ノ内青森野邊地大湊ニ施行ス

第三十條 法人ニシテ本則ニ違犯シタルトキハ其代表者其責ニ任ス

○船舶取締規則

(明治三十三年七月三日  
縣令第五四號)

明治二十九年(十二月)本縣令第二十八號船舶使用取締規則ヲ船舶取締規則トシ同規則第一條第二條ヲ左ノ通り改ム

- 第一條 左ニ掲クル船舶ヲ所有スルトキハ此規則ニ依ル可シ但シ他ノ規則ニ規定ナキモノハ此規則ヲ適用ス
- 一 航行ノ用ニ供セサル船舶
- 二 登簿噸數五噸未滿若ハ積石五十石未滿ノ帆船
- 三 櫓權ヲ以テ運航シ若ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運行スル船舶

第二條 第一條ニ掲クル船舶ヲ所有スルモノニシテ本管内ニ定繫場ヲ定ムルトキハ其所在地ノ郡市役所ニ願出テ鑑札ノ下付ヲ請フ可シ

第三條 船體ヲ變更シ積量若ハ間數ニ異動ヲ生シタルトキハ定繫場所在地ノ郡市役所ニ願出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第四條 免稅ノ船舶ハ其用途ヲ詳記シ其所在地ノ郡市役所ノ願出免稅ノ烙印ヲ受クヘシ

第五條 免稅船ヲ有稅船ニ有稅船ヲ免稅船ニ變更シタルトキハ其所在地ノ郡市役所ニ願出鑑札ノ下付又ハ免稅ノ烙印ヲ受クヘシ

第六條 船舶ヲ賣買讓與シタルトキハ雙方連署シ買受人讓受人ノ定ムル定繫場所在地ノ郡市役所ニ願出鑑札ノ書換ヘテ受クヘシ

第七條 定繫場ヲ變更シタルトキハ其所在地ノ郡市役所ニ願出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ  
定繫場ノ他管ニ係ルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 第一條第二ニ掲クル船舶ニ係ル鑑札ハ航行又ハ回漕ノトキ之ヲ携帯シ全條第一及第三ニ掲クル船舶ニ係ル鑑札ハ適宜見易キ箇所ニ釘付スヘシ

第九條 船舶所有者鑑札ノ亡失若ハ毀損シタルトキハ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ改氏名代替及船名ヲ改メタルトキ亦同シ

船舶破壞喪失解散ニ歸シタルトキハ郡市役所ニ届出所有鑑札ハ之ヲ返納スヘシ

第十條 船舶所有者ニシテ定繫場所在地ニ居住セサルモノハ納稅代納人ヲ立テ其市役所又ハ町村役場ニ届出ツヘシ

第十一條 郡市役所ニ差出スヘキ願届ハ第一號乃至第八號様式ニ依ル可シ但郡ニ在テハ所轄町村役場ヲ經由スヘシ

二市町村ニ掛ルトキハ買受人讓受人又ハ轉居地ノ所轄町村役場ヲ經由スヘシ

第十二條 縣稅檢査員ニ於テ船舶又ハ鑑札ノ檢査ヲ爲ストキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 第二條ヲ犯シタルモノ又ハ免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタルモノハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處シ

第三條第四條第六條乃至第八條及第十條第十二條第九條第一項ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

下ノ科料ニ處ス

附 則

第十四條 此ノ規則ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第十五條 此ノ規則ニ牴觸スル本縣從前ノ令達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

# 山形縣

## ○酒田港水路教導假規則

(明治二十四年九月五日 縣令第六十號)

第一條 酒田港ニ於テ水路教導ノ營業ヲ爲サント欲スルモノハ此規則ニ依ルヘシ

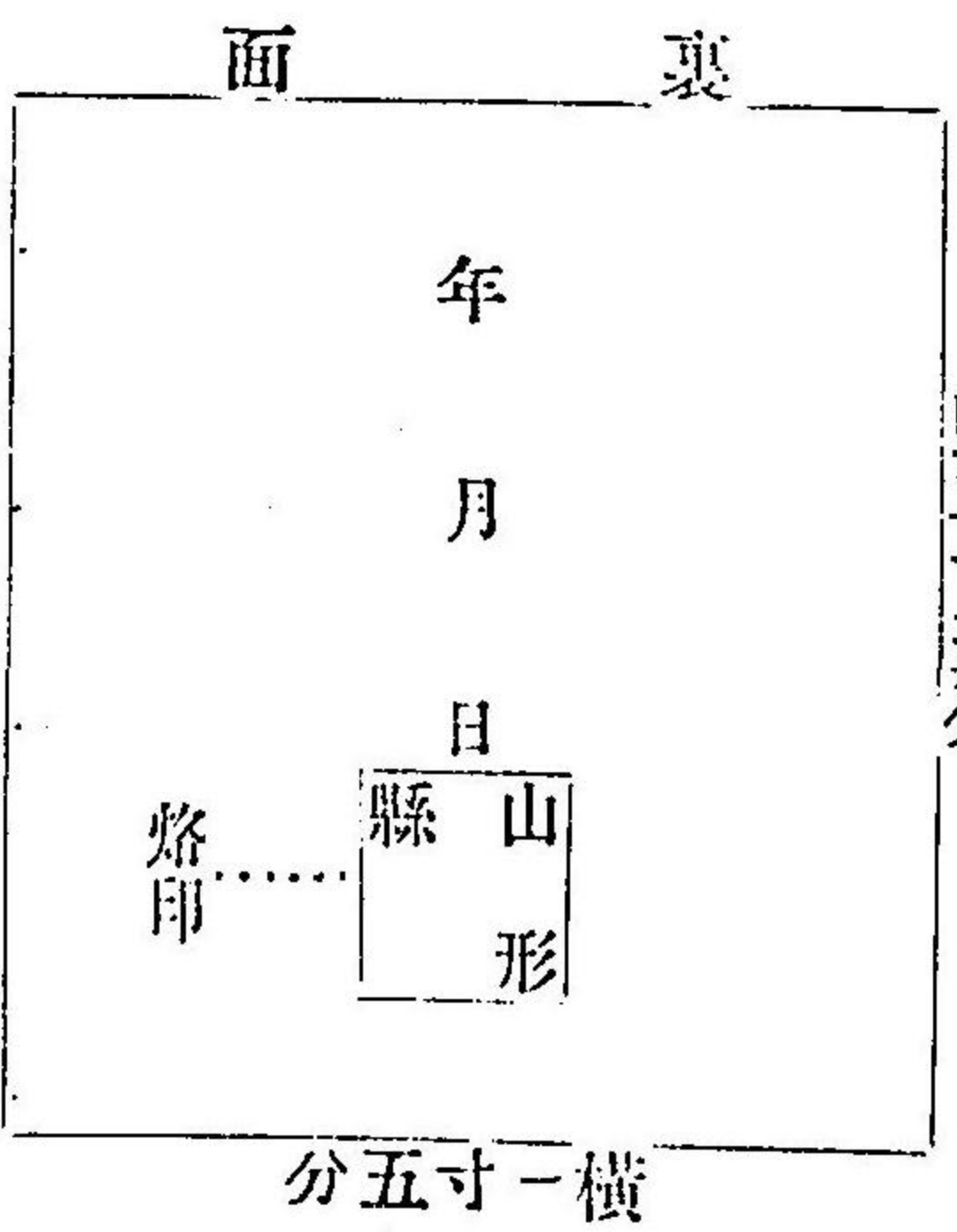
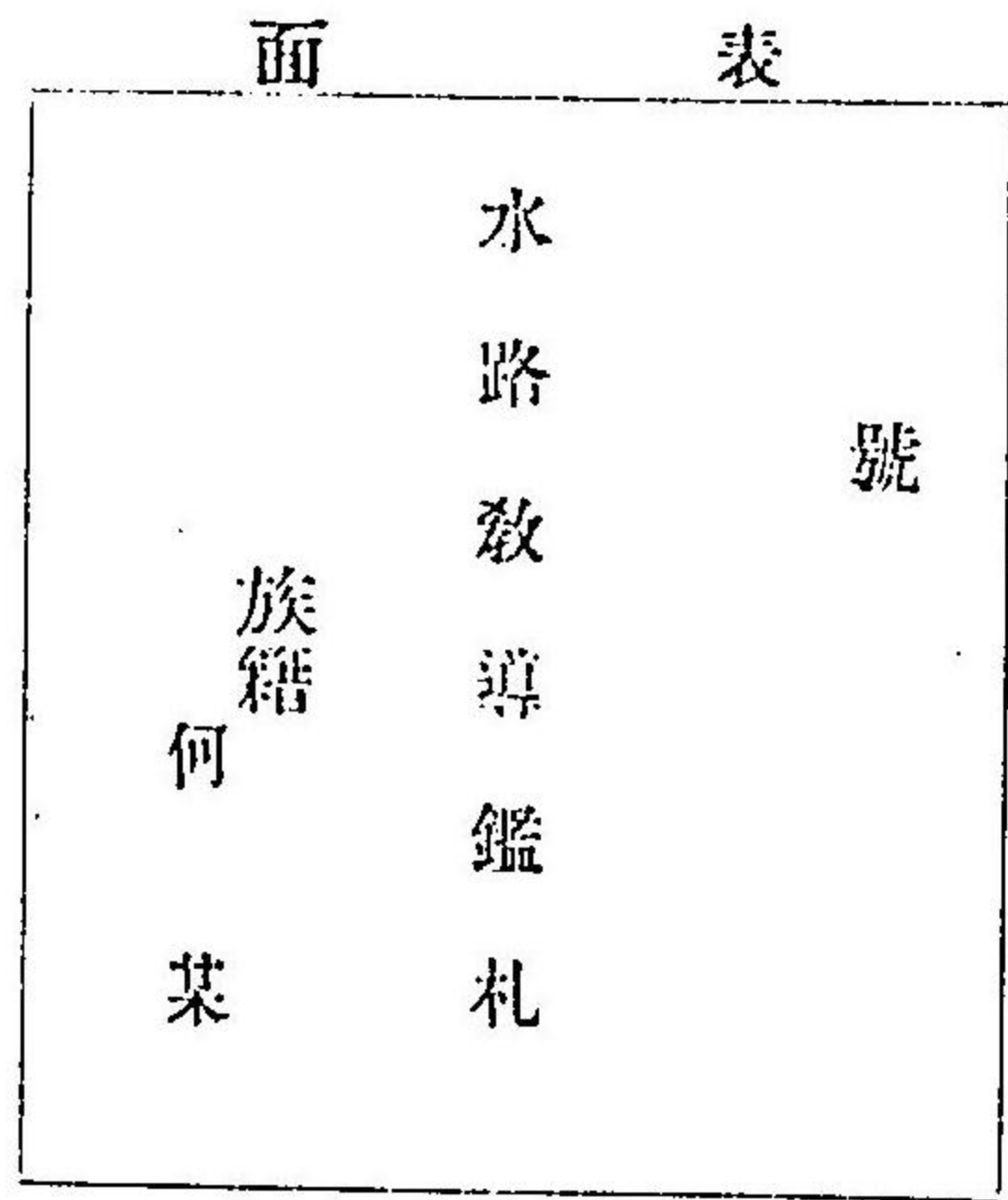
第二條 酒田港水路教導區域ハ沿岸ヲ距ルコト凡三里間トス

第三條 水路教導營業者ハ年齡二十五才以上ニ達シ品行方正ニシテ酒田港ニ於テ三年以上水上ニ關スル業務ヲ執リ且水路教導區域内ニ在ル海底ノ深淺並ニ危險ノ場所ヲ曉知シ水路教導ニ適スル者ト認メタル者ニ限

ル

第四條 水路教導ニ適スル者ト認メタル者ニハ左記ノ鑑札ヲ附與ス但該鑑札有效期限ハ滿三ケ年トス

鑿二寸五分



第五條 水路教導許可ノ後滿三ケ年ニ至リ引繼キ營業ヲ爲サント欲スル者ハ鑑札書換ヲ出願スルヲ得但品行不正ナルカ又ハ職務ニ堪ヘサル者ト認メタルトキハ許可セサルコトアルヘシ

第六條 水路營業鑑札ハ他人ヘ貸與シ又ハ讓與スルヲ許サス犯ス者ハ其鑑札ヲ取上クヘシ

第七條 水路教導者其職務ニ堪ヘス又ハ品行不正ト認メタル者若ハ故ナク水路教導ノ依頼ニ應セサル者又ハ依頼ナキニ水路教導ヲ爲サント強フル者ハ其鑑札ヲ引上クヘシ

第八條 水路教導者ハ日本形西洋形ヲ問ハス船主又ハ船長ノ依頼ニ應シテ手数料ヲ領收シテ水路教導ヲ爲スヲ得但手数料ハ左ノ金額ヲ超過スヘカラス

一 日本形船舶五十石未満 金 六 錢

一 全 五十石以上百石迄 金 十二 錢

但百石以上十石ヲ加フル毎ニ金二錢ヲ増加スルヲ得

一 西洋形船舶登簿噸數十噸未満十噸迄 金 拾 貳 錢

但十噸以上一噸ヲ加フル毎ニ金貳錢ヲ増加スルヲ得ルモ貳圓以上ハ超過スヘカラス

第九條 水路教導者ハ毎日水路ノ深淺ヲ測量シ港内樞要ノ位置ニ教導船ヲ繫泊シ又ハ沿岸ニ船見櫓ヲ設ケ入港船舶ノ認識ヲ便スルカ爲メ晝間ハ明治十年一月海軍省甲第一號達ニ依リ白紅ノ旗章ヲ翻揚シ夜間ハ海上衝突規則第九條ニ依リ點燈スヘシ

第十條 水路教導者二人以上同時ニ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲ爲ストキハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其手数料ヲ領收スルヲ得

# 新潟縣

## ○汽船營業取締規則

(明治三十二年十一月五日  
新潟縣令第百一十一號)

第一條 汽船營業トハ汽船ヲ以テ平水又ハ沿海航路ニ依リ管内ノ河川港灣及沿岸ニ於テ乘客貨物ノ運航ヲナス者ヲ云フ

第二條 汽船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ詳記シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 營業者ノ住所氏名年齢

二 業務擔當者ノ住所氏名年齢

三 營業ノ本支店所在地々名及定繫場

四 發着及寄港場ノ地名及其發着日時

五 船舶名(數航路ヲ設クルトキハ每航路ニ供スル船舶名)

六 航路及航行ノ度數

七 船舶検査証寫

八 船長運轉手機關手ノ免狀寫數船舶アルトキハ各其寫

九 乘客貨物ノ運賃額

第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル後全條第三號定繫場第四號第六號第九號ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度願出許可ヲ受クヘシ

全條第一號第二號第三號ノ本支店第五號第七號第八號ニ異動ヲ生シタルトキハ三日以内ニ届出ヘシ

廢業廢航シタルトキハ三日以内ニ縣廳ニ休業シタルトキハ即日所轄警察官署ニ届出ヘシ

第六條 正當ノ事由ナクシテ營業許可ノ日ヨリ百八十日以内ニ開業セサル者並ニ三十日以上休業シタル者ハ許可ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 廢船休船其他事故ノ爲メ各發船特限ニ應スヘキ船數ヲ欠キ若ハ支航路ヲ有スル者ニシテ三十日以上出船セサル航路アルトキハ其發船特限又ハ航路ノ許可失効ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 左ノ各號中第一ニ係ルモノハ使用セントスルトキヨリ少クモ一時間前ニ第二ニ係ルモノハ歸着シタルトキヨリ一時間以内ニ所轄警察官署若ハ警察官吏ニ届出ヘシ

一 甲航路ノ船舶ヲ一時乙航路ニ使用スルトキ

二 發船途中ヨリ引歸リタルトキ

第九條 乗客ヲ運航スル汽船ニハ取締人ヲ置キ常時乗込マシメ乗客ノ接遇貨物ノ取扱其他船中ノ取締ヲ爲ス

ハシ

取締人ノ氏名ハ發着場及寄港場所轄警察官署ニ届出ヘシ  
取締人ハ乗客ヲシテ識別シ易カラシムル爲メ一定ノ服装ヲ爲サシムヘシ

第十條 下級ノ乗客ハ上級ノ乗客ノ室ニ入ラシムヘカラス但船内取締人ニ於テ上級乗客ノ認諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第十一條 乗客貨物ノ運賃並ニ發着時間ハ船内客室貨物取扱所及切符賣捌所ニ揭示スヘシ

第十二條 乗客ヲ運航スル汽船ニシテ甲板ニ船舷ノ設ケナキモノハ其周圍ニ高サ二尺五寸以上ノ鐵製欄干ヲ設ケヘシ

但河航汽船ハ此限ニ在ラス

第十三條 客室ノ等級各室定員及取締人氏名並ニ第十八條ノ規定ハ室内見易キ所ニ揭示スヘシ

第十四條 出船時限ハ航路ニ支障アラサル限リハ何等ノ事情アルモ之ヲ延引スヘカラス

航船ニ支障ヲ生シ當日ノ出帆ヲ休止又ハ出船時限ヲ延引セントスルトキハ少クモ二時間前ニ發船地所轄警察官署又ハ警察官吏ニ届出ヘシ

第十五條 經濟ヲ異ニスル營業者ニ於テ全一航路ニ向ヒ着發場又ハ寄港場ヲ出船セントスルトキハ先發船ヨリ一時間ヲ隔ツニアラサレハ後發船ヲ出スコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ二隻以上全時ニ出船ノ準備整ヒタルトキハ入港ノ前後ニ依リテ出船シ同時ニ入港シタルトキハ警察官吏ノ指示ニ從フヘシ

第十六條 郵便物ヲ搭載シタル汽船ハ前條ノ規定ニ拘ハラズ定期ノ時限ニ出船スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ他ノ汽船ハ其前後一時間ヲ隔ツニアラサレハ全一ノ航路ニ向ツテ出船スルコトヲ得ス

第十七條 海航汽船ニ在テハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日ニ至ル期間ニ限リ船長ヨリ豫メ發着場及寄港場所轄警察署ニ願出認可ヲ受ケタルモノニ限リ第十五條第十六條第二項ノ制限ニ拘ハラズ出船シ第十四條第二項ノ届出ヲ省略スルコトヲ得

但警察官署ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ナリトモ認可ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 汽船ニ乗載スル乗客荷物ニ就テハ左ノ規定ニ從フヘシ  
一 傳染病患者ハ乗載セシムヘカラス

- 二 看護人ナキ瘋癲者乗客ノ厭惡スヘキ疾病者ハ他ノ乗客ト其室ヲ異ニスルニアラサレハ乗載スヘカラス
- 三 獸畜類並ニ汚染ノ虞アル物品ハ一定ノ場所ニ乗載シ他ノ貨物ト混同スヘカラス
- 四 船内通路ニ供スヘキ場所ニ器具貨物ヲ置クヘカラス
- 五 惡臭ヲ放チ又ハ汚染ノ虞アル物品ハ近傍ニ置クヘカラス
- 六 客室内ニハ手荷物ノ外貨物ヲ置クヘカラス
- 七 甲板上ニハ貨物ヲ搭載スヘカラス但警察官吏ノ認可ヲ得タル物品ハ此限りニ在ラス
- 八 發船限一時間以内ニアラサレハ乗客ヲ乗載スヘカラス
- 九 貨物ハ乗客ニ先チ陸揚スヘカラス
- 第十九條 河川港内ニ限リ航行スル汽船ノ煙突ニハ金屬製ノ噴火止ヲ設クヘシ
- 第二十條 石油ノ殘滓ヲ燃料ニ供セントスル者ハ消烟器ヲ設ケ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二十一條 河航汽船ハ左ノ場合ニ於テハ汽力ヲ緩クシ除行スヘシ
  - 一 河川ニ關スル工事施行中ノ場所ヲ通過スルトキ
  - 二 他ノ船舶ニ行違ヒタルトキ
- 第廿二條 乗船切符ニハ各等毎ニ番號ヲ付シ乗客ノ住所氏名年齢ヲ記載シ之ヲ乗客名簿ニ登簿シタル後ニアラサレハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス但河航汽船ニアリテハ此限ニ在ラス
- 前項ニ乗客名簿ハ切符賣捌人ニ於テ乗船切符ハ營業者ニ於テ六ヶ月間保存スヘシ
- 第廿三條 火藥類及發火性ノ物品ヲ搭載セントスルトキハ豫メ品名數量及揚陸地名ヲ搭載地所轄警察署ニ届出ヘシ

第廿四條 航行中船内ニ八種傳染病患者若クハ疑似患者アリタルトキハ直ニ相當ノ豫防消毒ヲ行ヒ速ニ最近寄港地警察官吏又ハ町村吏員ニ届出ヘシ

此場合ニ於テハ警察官吏若クハ町村吏員ノ指揮アルニアラサレハ乗客及貨物ノ陸揚ヲ爲シ又ハ他船ト交通ヲ爲スヘカラス

第廿五條 乗船ヲ勸ムル爲メ船名又ハ出船時間ヲ偽リ若クハ客引ヲ出スヘカラス

第廿六條 私ニ貸錢ヲ増減シ又ハ景物等ヲ分ツヘカラス

第廿七條 何等ノ方法ヲ問ハス自己ノ發船ニ乗載セシムル目的ヲ以テ他ノ汽船ニ乗船セントスルモノヲ抑止スヘカラス

第廿八條 河川増水ノ場合ハ警察官吏ニ於テ出船又ハ航行差止ムルコトアルヘシ

第廿九條 乗客貨物ハ發着場又ハ寄港場以外ニ於テ上下又ハ揚卸ヲ爲スコトヲ得ス但臨時沖懸リ又ハ瀬取りヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

第三十條 乗客ヲ搭載セル河航汽船ニ在テハ二隻以上ノ曳船ヲ爲スヘカラス但曳船專業ノ海船ハ此限ニアラス

第卅一條 乗客ヲ搭載セル海航汽船ニ在テハ難破救護ノ爲ニスルノ外乗客貨物搭載セル船ヲ曳クヘカラス

第卅二條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ船中ニ醫師ヲ雇入又ハ消毒藥消毒器具ノ設備ヲ命ス

第卅三條 客室ノ裝飾及敷物等ニ汚損アリタルトキハ速ニ修繕シ室内及便所ハ日々掃除シテ清潔ニスヘシ

第卅四條 汽船内ニ於テ飯食物雜貨等ヲ販賣シ又ハ販賣セシメントスルトキハ販賣者ノ住所氏名ヲ發着場所

轄警察官署ニ届出ヘシ

但寄港場ニ於テ乗客ノ需メニ依リ一時船内ニ入テ販賣スル者ハ此限ニアラス

第卅五條 別條ノ販賣者ニハ乗客ノ需メサル飯食物又ハ雜貨等ヲ強ヒセシムヘカラス

第卅六條 汽船ヲ以テ曳船ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 汽船名

二 船舶検査証書寫

三 發着場所及其時間

四 曳船ノ數

第卅七條 本則第四條第六條ノ規定ハ前條ノ營業者ニモ之ニ準用ス

第卅八條 暴風雨其他航路支障ヲ認メ乗客貨物ノ検査ヲ必要アリト認メタルトキハ警察官吏ニ於テ一時其出

船ヲ差止ルコトアルヘシ

第卅九條 警察官吏ニ於テ取締上必要アリト認ムルトキハ臨時乗船スルコトアルヘシ

第四十條 本則ニ依リ縣廳ニ差出スヘキ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第四十一條 左記ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

一 本則第二條及第三十六條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲナシタルモノ

二 許可ヲ受ケスシテ定繫場發着場並ニ其發着日時航路及航行度數乗客及貨物ノ運賃額ヲ變更シタル者

三 本則第五條第八條乃至第十四條第十六條第二項第十七條乃至第二十七條第二十九條第三十條第三十一

條第三十四條第三十五條ニ違背シタル者

四 本則第十五條ノ指示及第二十八條ノ命令ニ從ハサルモノ

第四十一條ノ二 營業者無能力者ナルトキハ此罰則ヲ其法定代理人ニ適用ス

營業者ハ其從業者ニシテ其業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其責ヲ免

ルコトヲ得ス法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則

ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス法人ヲ罰スル場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第四十二條 從來許可ヲ得タル營業者ハ本則第二條第三十六條ノ條件ヲ詳記シ明治三十三年十一月二十日限

リ縣廳ニ届出ツヘシ

○ 舢船營業取締規則

(明治三十三年十二月廿二日 縣令第三百二十號)

第一條 舢船營業トハ小廻船ヲ以テ繫泊船ニ乗客ノ送迎又ハ貨物ノ積入陸揚ヲ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 舢船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 營業ノ場所

二 舢船構造並ニ其數

三 乗客貨物ノ揚卸場

四 船夫ノ氏名

五 舢船繫留場

六 乗客ノ送迎料並ニ貨物ノ運搬料

第三條 舢船ノ船夫ヲラントスルモノハ住所氏名年齢ヲ記載シ所轄警察官署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

舢船營業者自ラ船夫ノ業ヲ採ラントスルトキ亦同シ

第四條 左ニ該當スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ若ハ現ニ刑事被告人タル者ハ舢船營業又ハ船夫ヲ爲スコトヲ得

但警察官署ニ於テ處刑滿期改悛ノ狀アリト認ムル者ハ此限ニ在ラス



- 一 乗客ヲ毆打シ又ハ誘拐シタル者
- 二 貨物、手荷物ヲ竊取シ又ハ寄托中費消シタルモノ
- 三 密ニ輸入出入ヲ爲シ又ハ爲サントシテ刑ノ處分ヲ受ケタルモノ
- 第五條 許可ヲ受ケタル後前條ニ該當スル者ハ當然許可ノ效ヲ失ヒ船夫ニアリテハ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第六條 舢舨ハ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケタルモノニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
- 第七條 舢舨ノ検査ハ定期臨時ノ二種トス
- 定期検査ハ毎年四月臨時検査ハ新造改造又ハ警察官署ニ於テ必要アリト認めタルトキ之ヲ行フモノトス
- 第八條 乗客ノ送迎貨物ノ運搬料ハ揚卸場見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 第九條 舢舨検査證ハ船内見易キ箇所ニ釘付スヘシ
- 第十條 營業者ハ別紙雛形ニ依リ舢舨毎ニ標旗ヲ建テ夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ
- 第十一條 舢舨營業者ニ於テ船夫ヲ雇入レ又ハ解雇シ若クハ其儘逃亡シタルトキハ三日以内ニ届出ツヘシ
- 第十二條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ届出鑑札又ハ検査証ノ書換若ハ再渡ヲ請ヒ又ハ之ヲ返納スヘシ
  - 一 族籍氏名ノ變更又ハ住所ヲ轉シタルトキ
  - 二 鑑札又ハ検査証ヲ毀損遺失シタルトキ
  - 三 舢舨ヲ賣渡シ讓渡又ハ解船雇船シタルトキ
- 四 廢業シタルトキ
- 第十三條 乗客貨物ノ航路ニ支障アルトキ又ハ高浪ノ場合ノ外許可以外ノ場所ニ揚卸スルコトヲ得ス但外國船又ハ外國通航内國船ヨリ貨物ノ陸揚ヲナシ又其船積ヲ爲ストキハ稅關官署ノ指定シタル場所ニ於テスヘシ

- 第十四條 乗客貨物ノ取扱ヲ鄭重ニスルハ勿論老幼婦女ノ乗船スルトキハ努メテ保護ヲ加フヘシ
- 第十五條 乗客送迎料ハ乗船所又ハ上陸後之ヲ請求シ舢舨内ニ於テハ請求スルコトヲ得ス
- 送迎料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ金錢物品ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第十六條 船夫執務中ハ免許鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第十七條 船夫ハ執務中ハ勿論其寄場ニ於テハ決シテ裸体等ノ醜体ヲ顯ハスヘカラス
- 第十八條 積量過分ノ乗客荷物ヲ搭載スルコトヲ得ス若シ警察官吏ニ於テ危險ノ虞アリト認めタルトキハ之ヲ制限シ又ハ發船ヲ差止ムルコトアルヘシ
- 第十九條 本令第二條第三條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條第十七條ニ違背シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第二十條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

# 岐阜縣

## ○ 乘客船營業取締規則

(明治二十八年五月  
岐阜縣令第二十七號)

乘客船營業取締規則左ノ通り定ム但横越渡船營業者ハ本則ニ依ルノ限リニ在ラス

第一條 乘客船營業(賃金ヲ得テ荷物及人ヲ乗船セシムル者モ含蓄ス)ヲ爲サムトスル者ハ族籍住所氏名年齢及左ノ各項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ

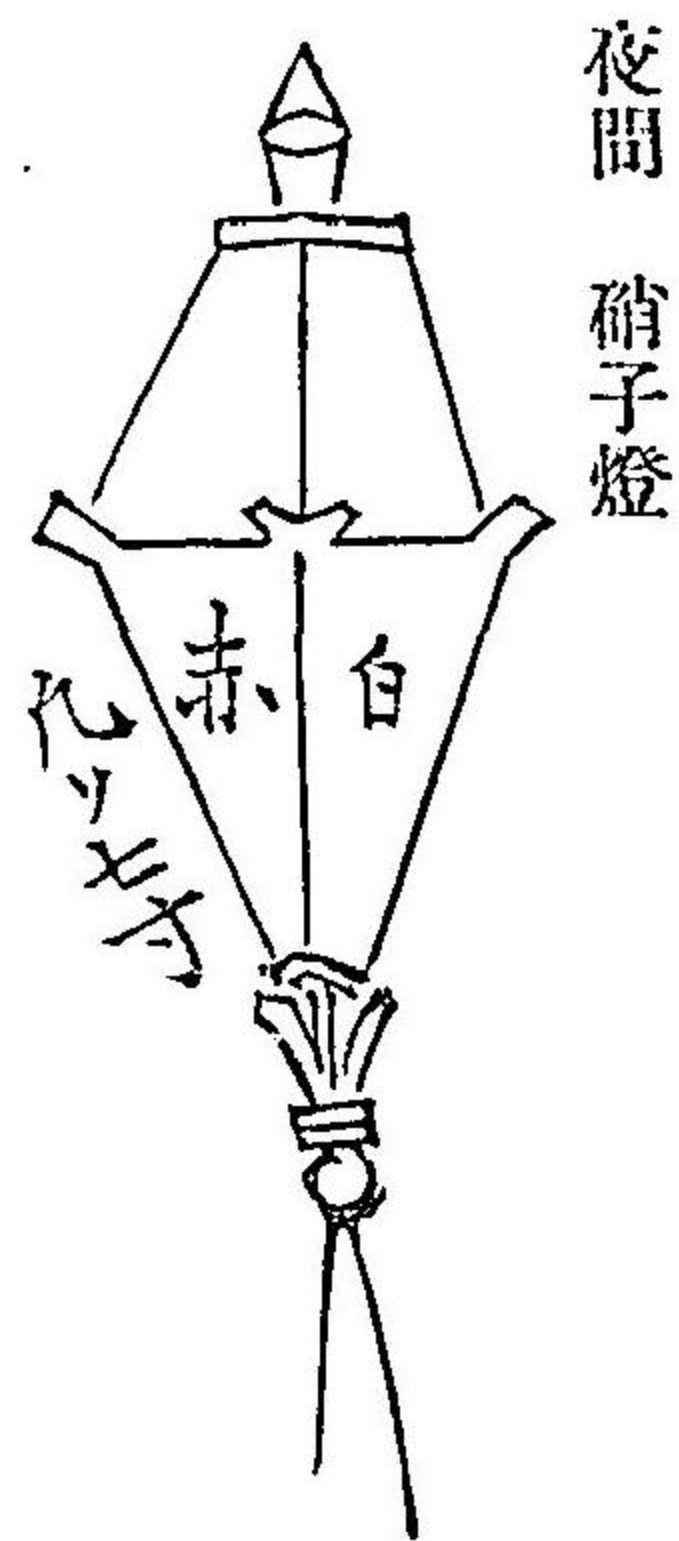
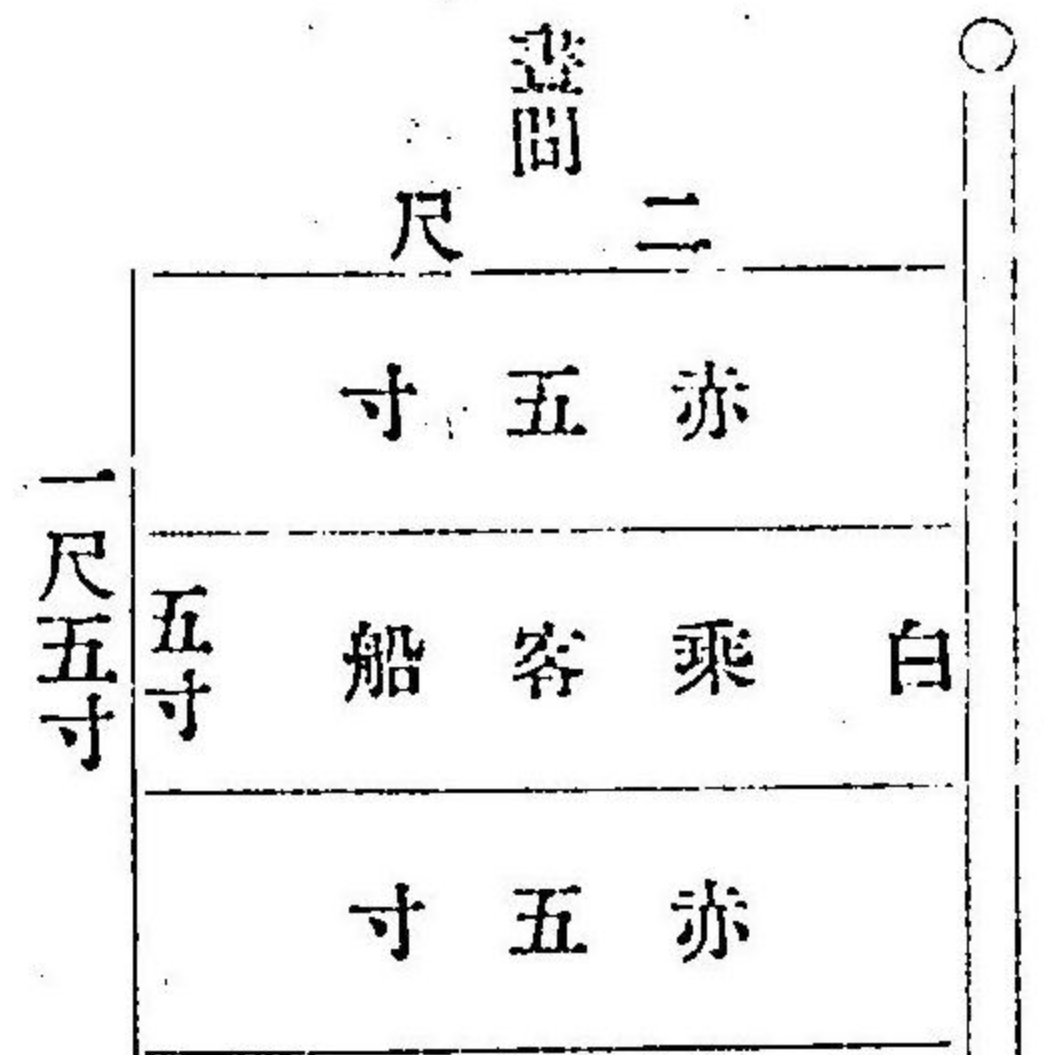
- 一 船 籍
- 一 乘客船ノ種類及容積
- 一 定 繫 場
- 一 航 通 スヘキ川名
- 一 發着寄繫ノ場所及航回数
- 一 乘載定員(一坪ニ付八人以内貨物ハ十五貫ヲ以テ一人ニ積算ス)
- 一 船夫ノ定員
- 一 賃 錢

第二條 營業者ハ船夫ヲ雇入レタルトキ又ハ異動アリタルトキハ其ノ住所氏名年齢ヲ所轄警察署ニ届出ヘシ

第三條 營業者ハ毎年八月所轄警察官署ニ届出テ船体ノ検査ヲ受ケ其証印ヲ受クヘシ  
新ニ營業セントスル者又ハ船体ヲ買受ケ讓受ケ修繕ヲ加ヘタルトキハ其都度船体ノ検査ヲ受ケ其証印ヲ受

クヘシ

- 第四條 廢業又ハ廢船シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署ニ届出テ検査証印ノ削除ヲ請フヘシ
- 第五條 營業者ハ乗客ヲ取扱フヘキ場所及船体ニハ發着寄繫ノ場所日時及定員賃錢ヲ揭示シ置クヘシ
- 第六條 發着寄繫ノ場所外ニ於テ乗客ヲ乗降セシムヘカラス
- 第七條 營業者ハ舳ニ左ノ標識ヲ掲クヘシ



- 第八條 營業者ハ乗客ヲ取扱フヘキ場所及船中ニ乗客人名簿ヲ備置キ乗客ノ住所職業氏名及年齢發着寄繫ノ場所日時ヲ記載シ警察官吏ノ点檢ニ供スヘシ
- 第九條 出水大風等ノ爲メ危險ナリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ航行ヲ止ムルコトアルヘシ
- 第十條 何等ノ名義ヲ以テスルモ定員外ノ人ヲ乗載シ若ハ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス
- 第十一條 本則第一條乃至第八條第十條ニ違反シタル者及第九條ニ依ル停止ノ命令ニ従ハサル者ハ三十日未

滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

本則ニ規定シタル違犯行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ前項ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

- 第十二條 營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ科料ノ刑ヲ法定代理人ニ適用ス但其營業ニ關シ成年者ト全一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス
- 法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ従事者法人ノ業務ニ關シ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル科料ノ刑ヲ法人ニ適用ス
- 法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

# 富山縣

## ○汽船營業取締規則

(明治三十四年四月五日)  
富山縣令第四三號

- 第一條 汽船營業トハ近海航路ニ依リ管内ノ港灣及沿岸ニ於テ乘客貨物ノ運航ヲナスモノヲ云フ
- 第二條 汽船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ詳記シ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
  - 一 營業者ノ住所氏名年齢
  - 二 營業擔當者ノ住所氏名年齢
  - 三 營業ノ本支店所在地地名及定繫場
  - 四 發着場及寄港場ノ地名並ニ其發着日時
  - 五 航路及航行ノ度數
  - 六 船舶檢査証書及ヒ船籍証書ノ寫
  - 七 船長運轉手機關士ノ免狀寫
  - 八 速 力
  - 九 乘客及貨物ノ運賃定額
- 第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル後同條第三號定繫場第四號第五號第八號第九號ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度願出テ許可ヲ受クヘシ
- 同條第一號第二號第三號ノ本支店第六號第七號ニ異動ヲ生シタルトキハ三日以内ニ届出ヘシ

第四條 廢業廢航シタルトキハ三日以内ニ縣廳ニ休業シタルトキハ即日所轄警察官署ニ届出ヘシ

第五條 營業者他府縣ニ居住スルトキハ本縣内ニ代理者ヲ置キ其住所氏名ヲ縣廳ニ届出ヘシ

第六條 正當ノ事由ナクシテ營業許可ノ日ヨリ百八十日以内ニ開業セサルモノハ許可ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 乗客ヲ運航スル汽船ニハ取締人ヲ置キ常時乗込マシメ乗客ノ接遇貨物ノ取扱其他船中ノ取締ヲナサシムヘシ

取締人ノ氏名ハ發着場及寄港場所轄警察官署ヘ届出ヘシ

第八條 取締人ハ乗客ヲシテ識別シ易カラシムル爲メ一定ノ服裝ヲナサシムヘシ  
下級ノ乗客ハ上級乗客ノ室内ニ入ラシムヘカラス

但船内取締人ニ於テ上級乗客ノ認諾ヲ得タルトキハ此限りニ在ラス

第九條 乗客貨物ノ運賃並ニ發着時間ハ船内ノ客室又ハ貨物取扱所及切符賣捌所ニ揭示スヘシ

第十條 客室ノ等級各室ノ定員及取締人氏名並ニ第十五條ノ規定ハ室内見易キ所ニ揭示スヘシ

第十一條 出船時限ハ航路ニ支障アラサル限ハ何等ノ事情アルモ之ヲ延引スヘカラス  
航路ニ支障ヲ生シ當日ノ出航ヲ休止又ハ出船時限ヲ延引セントシ若クハ發船途中ヨリ歸港シタルトキ休止

延引ハ二時間前ニ歸港ハ一時間内ニ發船地ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十二條 經濟ヲ異ニスル營業者ニ於テ同一航路ニ向ヒ發着場又ハ寄港場ヲ出船セントスルトキハ先發船ヨリ一時間ヲ隔ツルニアラサレハ後發船ヲ出スコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ二隻以上同時ニ出船ノ準備整ヒタルトキハ入港ノ前後ニ依リ出船シ同時ニ入港シタルト

キハ警察官吏ノ指示ニ從フヘシ

第十三條 郵便物ヲ搭載シタル汽船ハ前條ノ規定ニ拘ハラス定期ノ時限ニ發船スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ他ノ汽船ハ其前後一時間ヲ隔ツルニアラサレハ同一ノ航路ニ向ヒ出船スルコトヲ得ス

第十四條 毎年十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間ニ限り船長ヨリ豫メ發着場及寄港場所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受ケタルモノニ限り第十二條第十三條第二項ノ制限ニ拘ハラス出船シ第十一條第二項ノ届出ヲ省略スルコトヲ得

但警察官署ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ認可ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 汽船ニ乗載スル乗客貨物ニ就テハ左ノ規定ニ從フヘシ

- 一 八種傳染病患者ハ乗載セシムヘカラス
- 二 相護人ナキ精神病者又ハ乗客ノ厭忌スヘキ疾病者ハ他ノ乗客ト其ノ室ヲ異ニスルニアラサレハ乗載スヘカラス
- 三 獸畜類並ニ汚染ノ虞アル物品ハ一定ノ場所ニ乗載シ他ノ貨物ト混同スヘカラス
- 四 船内ノ通路ニ供スヘキ場所ニ器具貨物ヲ置クヘカラス
- 五 惡臭ヲ放チ又ハ汚染ノ虞アル物品ハ客室ノ近傍ニ置クヘカラス
- 六 客室内ニハ手荷物ノ外貨物ヲ置クヘカラス
- 七 甲板上ニハ貨物ヲ搭載スヘカラス但警察官吏ノ認可ヲ得タル物品ハ此限りニアラス
- 八 發船時限前一時間以内ニ在ラサレハ乗客ヲ搭乘セシムヘカラス
- 九 貨物ハ乗客ニ先チテ陸揚ヲ爲スヘカラス

第十六條 乗船切符ニハ各等毎ニ番號ヲ付シ乗客ノ住所氏名年齢ヲ記載シ之ヲ乗客名簿ニ登録シタル後ニアラサレバ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

前項ノ乗客名簿ハ切符賣捌人ニ於テ乗船切符ハ營業者ニ於テ六ヶ月間保存スヘシ

第十七條 火柴類及ヒ發火性ノ物品ヲ積載セントスルトキハ豫メ品名數量及陸揚地名搭載ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十八條 航行中船内ニ八種傳染病患者若ハ其ノ疑似患者アリタルトキハ直ニ相當ノ豫防消毒ヲ行ヒ速ニ最寄警察官吏又ハ町村吏員ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ警察官吏若クハ町村吏員ノ指揮アルニアラサレハ乗客及ヒ貨物ノ陸揚ヲ爲シ又ハ他船ト交通ヲナスヘカラス

第十九條 乗船ヲ勸ムル爲メ船名又ハ出船時間ヲ詐リ若ハ客引ヲ出スヘカラス

第二十條 私ニ賃錢ヲ増減シ又ハ景物等ヲ頒ツヘカラス

第二十一條 何等ノ方法ヲ問ハス自己ノ汽船ニ乗載セシムルノ目的ヲ以テ他ノ汽船ニ乗船セントスル者ハ抑止スヘカラス

第二十二條 乗客貨物ハ發着場又ハ寄港場以外ニ於テ上下又ハ揚卸ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 乗客ヲ搭載セル汽船ニ在リテハ難破救助ノ爲ニスル乗客荷物ヲ搭載スル船ヲ曳クヘカラス

第二十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ船中ニ醫師ヲ備入又ハ消毒藥及ヒ消毒器具ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 客室ノ裝飾及ヒ敷物等ニ汚損アルトキハ速ニ修理シ室内及ヒ便所ハ日々掃除シテ清潔ナラシムヘシ

第二十六條 汽船内ニ於テ飯食物雜貨等ヲ販賣シ又ハ販賣セントスルトキハ船長ヨリ販賣者ノ住所氏名ヲ發着場所轄警察官署ニ届出ヘシ但寄港場ニ於テ乗客ノ需メニ依リ一時船内ニ入り販賣スルモノハ此限りニ在ラス

第二十七條 前條ノ販賣者ニハ乗客ノ需メサル飯食物又ハ雜貨等ヲ強シムヘカラス

第二十八條 暴風雨其他航路ノ支障ヲ認メ又ハ乗客貨物ノ検査ヲ必要ナリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ一時其ノ出船ヲ差止ムルコトアルヘシ

第二十九條 警察官吏ニ於テ取締上必要ナリト認ムルトキハ臨時乗船スルコトアルヘシ

第三十條 本則ニ依リ縣廳ニ差出スヘキ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第三十一條 本則第二條第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十六條第十九條第二十條第二十一條ニ違背シタルトキハ其營業者若クハ其業務擔當人ヲ又同則第八條第十一條第十二條第十三條末項及第十五條第十七條第十八條第二十二條第二十三條第二十六條第二十七條ニ違背シタルトキハ其船長ヲ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第三十二條 明治二十七年八月縣令第四十七號汽船營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○ 舩船營業取締規則

(明治三十三年九月七日 富山縣令第六十九號)

第一條 舩船營業トハ船舶ニ客ヲ送迎シ又ハ貨物ノ積卸ヲ爲ス營業ヲ謂フ

第二條 舩船營業ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲クル各號ヲ記シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

- 一 營業者族籍、住所、氏名、年齢
  - 二 營業所ノ位置
  - 三 舩船定繋場
  - 四 舩船ノ數
- 第三條 營業者ハ舩船使用前所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ其改造シタルトキ亦同シ
- 第四條 舩体ハ堅牢ニシテ重量吃水線ヲ劃シタルモノニ限ル
- 第五條 舩体ニハ検査済ヲ証スル爲舩船一艘毎ニ第一號様式ノ木札ヲ所轄警察署ニ差出シ其ノ木札ニ檢印ヲ受ケ舩内ニ釘付スヘシ
- 第六條 舩船ハ其ノ舩体應分ノ人員ヲ豫定シ之ヲ第二號様式ノ木札ニ記載シ舩内見易キ場所ニ釘付スヘシ
- 第七條 營業者ハ第三號様式ノ標旗ヲ調製シ舩船就業中ハ舩艦見易キ箇所ニ掲クヘシ
- 第八條 舩船ハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ヲ備ヘ置クヘシ
- 第九條 舩体及附屬品ハ毎年一回所轄警察官署ノ指定シタル日時場所ニ於テ検査ヲ受ケ舩体検査証ニ檢印ヲ受クヘシ其ノ檢印ナキ舩船ハ使用スルコトヲ得ス
- 第十條 舩船ニ破損ヲ生シタルトキハ速ニ修理ヲ加フヘシ
- 第十一條 營業者ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出テ又ハ木札ヲ差出シ更ニ檢印ヲ受クヘシ
- 一 族籍、住所、氏名其他身上ニ異動アリタルトキ
  - 二 廢業廢舩シタルトキ又ハ賣渡シ讓渡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ記スヘシ

- 三 舩体検査証ヲ毀損亡失又ハ流失シタルトキ
  - 四 營業ニ從事セシムル舩夫ヲ解雇シタルトキ
- 第十三條 舩船内ハ日々清潔ニ掃除スヘシ
- 第十四條 舩船ハ水路又ハ航路ヲ妨グル場所ニ繋留スヘカラス
- 第十五條 貨物ハ所轄警察官署ニ於テ指定シタル場所ノ外積入及陸揚スルコトヲ得ス
- 第十六條 舩船ノ舩船ニ對スルトキハ船員ノ指揮ニ從ヒ且先着ノ船ヨリ順次揚卸ヲナシ紛雜ヲナスヘカラス
- 第十七條 舩船貨物ヲ搭載シタルトキハ燈火ノ外火氣ヲ取扱フヘカラス
- 第十八條 客及ヒ貨物ノ取扱ハ丁寧親切ニスヘシ
- 第十九條 故ナク客及ヒ貨物ノ運漕揚卸ヲ拒ムヘカラス
- 第二十條 舩船ハ客及貨物搭載中ハ舩夫故ナク其ノ舩ヲ離ルヘカラス
- 第二十一條 營業者ハ舩船賃ノ定額ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
- 定額賃金表ハ様式ニ準シ營業所及舩場ヘ掲示スヘシ
- 第二十二條 何等ノ何義ヲ以テスルモ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス
- 第二十三條 舩船ハ吃水線ヲ超ユル貨物ヲ搭載又ハ定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス但十二才未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ四才未滿ハ定數外トス
- 第二十四條 舩夫ハ袒裸体又ハ腰臂部ヲ顯スヘカラス
- 第二十五條 營業者二人以上若クハ會社組織ニシテ二會社以上アル地ニ在テハ同業者合体ノ組合ヲ設ケ客及ヒ貨物取扱ノ規約ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ其規約ヲ變更シタルトキ亦同シ但同業者ハ組

合ニ加盟スヘシ

三九八

第廿六條 本則第二條第三條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十四條第十五條及第十九條乃至第二十四條ニ違背シ又ハ第六條第七條第十三條ニ違背シテ命ニ從ハサル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第廿七條 本則施行前ニ營業スル者ハ明治三十三年九月三十日迄ニ願出許可ヲ受クヘシ

## 滋 賀 縣

### ○ 汽船營業取締規則

(明治三十年三月  
滋賀縣令第十五號)

第一條 本則ニ於テ汽船營業ト稱スルハ汽船ヲ以テ湖川ニ於テ旅客貨物ノ運送ヲ營業スルモノヲ云フ

第二條 汽船營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 第一號乃至第三號ノ増減變更ヲ要スルモ亦同シ

一 發着及寄港場ノ地名 二 發着場及寄港場發着時間 三 旅客貨物ノ運賃額 四 船舶検査證書謄本

第三條 汽船營業ノ許可ヲ受ケタルモノ開業セントスルトキハ五日以前所轄警察署又ハ分署ヲ經テ知事ニ届出ヘシ

第四條 正當ノ事由ナクシテ汽船營業ノ許可ノ日ヨリ百八十日以内ニ開業セサル者ハ許可ノ效ヲ失フモノトス

汽船營業者正當ノ事由ナクシテ三十日以上休業スルトキハ營業許可ノ效ヲ失フモノトス

第五條 休業廢業若ハ廢船シタルモ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ知事ニ届出ヘシ

第六條 各航路ニ對シ十日以上出船セサルトキハ其發船時間廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 他船ト一時間以上同航路又ハ鉞盤ノ三十二分ノ四點間以内ノ航路ヲ取り航行スル汽船ハ二十分時間

以上ヲ同壹時間以上ヲ時間以内ノモノハ十五分時以上ヲ隔ツルニアラサレハ發船スルヲ得ス

但シ遭難船救助ノ官命學術研究又ハ遊覽ノ爲メ發船ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

三九九



第八條 左ノ各號ニ該當スルモノハ即時所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

但シ第二號ハ借主ノ族籍氏名乗船人員借用ノ目的貨料及發船時間豫定時間第三號以下ハ其事由ヲ簡略ニ記載スヘシ

一 官命ニ依ラスシテ遭難者救助ノ爲發船シタルトキ

二 學術研究遊覽ノ爲貸與シタルトキ

三 休航シタルトキ

四 事故ノ爲メ定時ニ發船シ得サルトキ

五 發船後途中ヨリ歸船シタルトキ

六 寄港ノ場所ニ着船セザルトキ

七 船舶検査證書記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ

第九條 上甲板ニ貨物ヲ積載スヘカラス

但シ輕量ニシテ大體積入ルモノ又ハ損傷等ノ虞アル物品ニシテ艙内ニ積入レ難キモノハ此限ニ在ラス

第十條 旅客定員ニ滿チタル場合ニ於テ殘餘ノ旅客ヲ他船ニ移シ之ヲ曳船トナスヘカラス

第十一條 左ノ各號中第一號第二號ニ係ルモノハ他ノ旅客ト其室ヲ異ニシ第三號第四號ニ係ルモノハ客室及

他ノ貨物等ト適宜ノ間隔ヲ設ケ搭載スヘシ

一 瘋癲病ノ疑アルモノ 二 旅客ノ厭惡スヘキ病者又ハ亂醉者 三 獸類 四 旅客及貨物ヲ汚漬スヘ

キ虞アル物品

第十二條 旅客及手荷物ノ運賃定額及發着時間ハ每客室内旅客ノ見易キ場所ニ掲ケヘシ

第十三條 事故ノ爲メ定時ニ發船又ハ寄港場ニ着船シ得スト認ムルトキハ其旨ヲ旅客ノ見易キ場所ニ揭示ス

ヘシ

第十四條 強テ旅客ニ乗船ヲ勸メ又ハ乗船ヲ勸誘セシムルノ手段ヲ爲スヘカラス

第十五條 機關室其他危險ノ虞アル場所ノ扉及柵欄等ハ開放シ置クヘカラス又其場所ニ標札ヲ掲ケ旅客ノ出

入ヲ禁スヘシ

第十六條 航行中他船ト競争ヲナシ又ハ事由ナクシテ停船スヘカラス

第十七條 暴風出水ノ場合及其他必要ト認ムルトキハ其事由ヲ示シ一時進行ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 船内ニ於テ點燈ノ爲メ石炭、油、其他揮發性ノ油類ヲ用フヘカラス

第十九條 運航中旅客盜難ニ罹リ又ハ物品ヲ紛失シタルトキハ旅客上陸前船長ヨリ着船地ノ警察官ニ届出ヘ

シ

第二十條 旅客員數貨物ノ數量及運賃ハ第一號様式ニヨリ毎月分取調翌月拾五日限り報告スヘシ

第二十一條 左ニ掲ケル諸項ノ一ニ該當スルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ營業シタルモノ

一 第四條ニヨリ效力ヲ失ヒタル後營業ヲナシタルモノ

一 第六條第十七條ノ命令ニ違背シタルモノ

一 第七條第十條ニ違背シタルモノ

第二十二條 第三條第八條第九條第十一條第十四條第十六條第十八條第十九條ニ違背シタルモノハ一日以上十

日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス



第七條 前條小渡船乗客人員ハ舳船梁ヨリ艦梁マテノ間面積一坪六尺四尺八人ヨリ超過スヘカラス

第八條 早船及ヒ小渡船ノ賃錢ハ最寄同業者ニ於テ協議ノ上相定メ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ變更シタルトキ亦同シ

但早船出船時刻ヲモ届出ヘシ

第九條 早船及小渡船營業者免許證ヲ毀失シ其免許證ニ列記シタル條件ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出訂正又ハ再渡ヲ請ヒ廢業ノ節ハ其旨届出免許證返納スヘシ

第十條 乗客及物貨ヲ取扱フハ懇切ヲ旨トシ若シ渡航中異變アルトキハ最寄警察署又ハ分署巡査駐在所若クハ巡行ノ警察官ヘ申出指揮ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ成ルヘク乗客及物貨ノ上陸ヲ止メ置クヘシ但難破ノ節ハ難破船規則ニ從フヘシ

第十一條 渡湖中他船ト速力ヲ競争シ其他危險ノ所爲ヲ爲スヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ運航ヲ爲スヘカラス

第十二條 強テ乗船ヲ勸メ又ハ乗客ニ對シ定額以上ノ賃錢ヲ請求シ或ハ客引ヲ出シ若ハ人力車夫等ト申合其他種々ノ手段ヲ以テ乗客ヲ誘引スルコトヲ得ス

第十三條 早船營業者ニシテ運送間屋旅籠屋等ヘ手数料等ヲ付與スルコトアルモ運賃定額ノ一割ヨリ超過スルコトヲ得ス

第十四條 警察署ハ時々船体其他附屬品等ヲ検査シ船体ニ破損所アルカ又ハ本則ニ違背シタル虞アルトキハ時宜ニ依リ臨時運航ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條 官許ヲ得ス營業シ又ハ停止中私ニ運航シ若クハ此規則第三條第四條第五條第七條第八條第九條第

十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ違背罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ

### ○疏水運河通船取締規則

(明治廿八年三月 縣令第一三號)

第一條 疏水運河ニテ旅客ヲ乗載シ通船ノ營業ヲ爲サントスルモノハ京都市參事會ノ承認ヲ受ケタル書面ヲ添付シ左ノ事項ヲ記載シテ大津警察署ニ願出船毎ニ許可証ヲ受クヘシ

一 船ノ種類間數及鑑札番號

一 乗客定員

第二條 營業者ハ船夫ノ族籍住所氏名年齢ヲ詳記シ大津警察署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第三條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ大津警察署ニ届出許可証又ハ鑑札ノ書換再渡ヲ請ヒ若クハ之ヲ返納スヘシ

一 轉居改氏名其他記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

一 遺失毀損又ハ其ノ文字不分明ニナリタルトキ

一 廢業廢船若ハ使用ヲ停止シタルトキ

一 船夫ヲ解雇シ又ハ失踪シ死亡シタルトキ

第四條 船夫ハ就業中鑑札ヲ携帯シ警察官又ハ乗客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ之ヲ示スヘシ

第五條 鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第六條 船体ハ堅牢ニシテ容席ニハ風雨ヲ防クニ足ルヘキ設備ヲナスヘシ

第七條 隧道内ニ運航中ハ便宜ノ船燈ニケ以上ヲ点用スヘシ

第八條 他船ト行違ノトキハ右ニ避クヘシ隧道内ハ適宜信號ヲ爲シ衝突ヲ警防スヘシ

第九條 衝突其他異變アリタルトキハ一面相當ノ處置ヲ爲シ速ニ所轄警察署其他巡查駐在所派出所等へ申出

指揮ヲ受クヘシ

第十條 乗客定員ハ舳梁ヨリ艦梁迄面積一坪ニ付キ八人ノ割合ヲ超過スヘカラス但十二才未満ノモノハ二人

ヲ以テ一人ニ算シ三才未満ハ員外トス

第十一條 乗客ノ賃金ハ豫メ之ヲ定メ大津警察署へ届出ヘシ其變史シタルトキ亦同シ

第十二條 許可証乗客定員及賃金表ハ船内見易キ場所へ釘付スヘシ

第十三條 左ニ掲クルモノハ乗載スルヲ得ス

一 汚穢物其他ノ臭氣ヲ發スルモノ又ハ汚染ノ虞アルモノ

一 八種傳染病者及保護人ナキ瘋癲者又ハ醉狂者

第十四條 乗客定員三分ノ二以上ノ客アルトキハ正當ノ事由ナクシテ出船ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 客引ヲ出シ又ハ強テ乗船ヲ勸メ若クハ乗船客ニ對シ定價以上ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第十六條 船体脆弱ニシテ危険ノ虞アルモノハ修繕ヲ命シ又ハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十七條 本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條ヲ

犯シタルモノハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス

附 則

第十八條 本則ハ明治卅八年四月一日ヨリ施行ス

第十九條 從來ノ營業者ハ本則第一條第二條ノ手續ニヨリ明治二十八年三月卅一日迄ニ届出許可証又ハ鑑札

ヲ受クヘシ

# 京都府

## ○河港汽船取締規則

(明治三十四年六月  
府令第四八號)

- 第一條 汽船ヲ以テ河港内ヲ限航運爲セントスル者ハ每船明細書ヲ添ヘ所轄警察署ニ届出ヘシ其船數ヲ増加セントスルトキ又同シ
- 第二條 荷客ノ運賃ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察署ニ届出ヘシ其變更セントスルトキ亦同シ
- 第三條 前條ノ運賃ハ荷取扱所及每船見易キ處ニ揭示スヘシ此定額ヲ超過シタル運賃ヲ請求スヘカラス
- 第四條 乗客切符ニハ運賃ノ實價ヲ記入スヘシ又假切符ヲ使用スヘカラス
- 第五條 每船客室毎ニ等級及定員ヲ記入シタル標札ヲ掲クヘシ  
但十二才未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三才未滿ハ定員外トス
- 第六條 乗船ヲ勸ムル爲ニ客引人ヲ用ユヘカラス又正當ノ事由ナクシテ旅客ノ乗込ヲ拒ムヘカラス
- 第七條 淀川航運ノ汽船ハ各一時間以上ヲ隔ツニアラサレハ出發スヘカラス  
但シ臨時警察官署ノ認可ヲ受タルモノ及方向ヲ異ニシ進發スルモノハ此限ニアラス
- 第八條 淀川航運汽船ノ出發時限ハ所轄警察署ニ於テ臨時指定ノ期間出發六時以前ニ船中荷取扱所ニ揭示スヘシ
- 但出發六時前未タ其地ニ在ラサル船ハ着船ノトキ之ヲ掲クヘシ
- 第九條 汽笛ハ航行中霞霧降雪等ニテ針路分明ナラサルカ又ハ渡場橋下河角等ニテ他船ノ注意ヲ要スルトキ

ハ時々五秒時以内ノ發聲ヲ爲スヘシ其他ノ場合ニ在テハ發着ノ際十秒時以内ノ發聲一度若クハ二度ノ外濫リニ發スヘカラス

第十條 二艘以上全一ノ航路ヲ進行スルトキハ後船ハ前船ヨリ一丁以上ノ距離ヲ保持スヘシ若シ後船ノ速力前船ニ乗越エントスルトキハ前船ニ其旨ヲ通シ双方避讓ノ後進行スヘシ

但淺隘ニシテ通路ヲ避讓シ難キ場合ハ適宜ノ場所ニ至ルヲ待ツヘシ又川筋ニ於テ行逢フトキハ上り船ヨリ航路ヲ譲リ下り船ハ上り船ノ避讓ヲ認メタル後通過スヘシ

第十一條 航行中ハ舵手ノ外水先案内人ヲ船首ニ置キ絶エス進路ニ注意スヘシ  
又日没後ハ海上衝突豫防規則ニ規定スル船燈ヲ点用スヘシ

第十二條 河内運航ノ汽船ハ河水増長シテ危險ト認ムルトキハ航行ヲ制止スルコトアルヘシ

第十三條 他船ト衝突シ又ハ其他ノ事故ニ依リ危害ヲ生シタルトキ或ハ橋梁水刎抗等ニ觸レ之ヲ毀損シタルトキハ最寄警察官署又ハ町村役場ヘ届出ツヘシ

第十四條 廢業又ハ汽船ノ使用ヲ廢止シタルトキ又毎船ノ明細書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十五條 警察官吏ハ航運視察ノ爲メ臨時乗船スルコトアルヘシ

第十六條 本則第一條乃至第十一條第十三條ニ違背シ又ハ第十二條ノ制止ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十七條ニ依リ罰セラルヘシ

### ○通船營業取締規則

(明治四十年八月二十三日)

#### 總 則

第一條 本則ニ於テ通船營業ト稱スルハ主トシテ櫓權ヲ以テ運航スル船ヲ使用シ河川港灣ニ於テ運漕ノ業ヲ營ムモノヲ謂フ

第二條 他府縣ニ於テ通船營業ノ許可又ハ船夫鑑札、船體檢査証ヲ受ケタル者ハ航路ノ管内ニ直接聯通スル場合ニ限り本則ニ依リ許可又ハ船夫鑑札ノ船體檢査証ヲ受クルヲ要セス乗客ノ定員、貨物ノ積量及運賃ニ就テモ亦同シ

#### 第一章 營 業 者

第三條 通船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ第二號第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 族籍住所氏名年齢

二 船ノ種類及艘數

三 定繫場及航路區域

船カ他人ノ所有ニ係ルトキハ船主ノ承諾書又ハ航路カ疏水連河ナルトキハ京都市ノ許可書寫ヲ前項ノ願書ニ添付スヘシ

第四條 營業者ハ毎年所轄警察署ノ指定シタル期日及場所ニ於テ船體檢査ヲ受クヘシ  
所轄警察署ニ於テ必要ト認ムルトキハ船ノ改造修繕ヲ命シ又ハ其使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五條 營業用ノ船ハ所轄警察官署ニ於テ検査証ヲ受ケタル後ニ非サレハ使用スヘカラス船体ノ改修ヲ爲シタルトキ亦同シ

第六條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但第二號ノ場合ハ検査証ノ書換又ハ再下付ヲ請ヒ第三號ノ場合ハ検査証ヲ返納スヘシ

一 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ住所以外ニ營業所ヲ設ケ若クハ之ヲ廢止シタルトキ

二 船体検査証ヲ亡失毀損シ又ハ其記載ノ事項ニ異動ヲ生シ若クハ文字不明トナリタルトキ

三 廢業又ハ船ノ使用ヲ廢シタルトキ

營業者死シ又ハ失踪シタルトキハ前項ノ例ニ依リ戸籍法届出義務者ヨリ届出全時ニ船体検査証ハ返納スヘシ

第七條 營業者ハ乗客ノ定員、貨物ノ積量及運賃ヲ定メ營業開始前ニ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ變更セザルトスルトキ亦同シ

前項ノ定員、積量、運賃及船体検査証ハ船内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第八條 營業者ハ船夫鑑札ヲ受有セル者ニ船夫ノ業ヲ執ラシムヘカラス但十六才未滿ノ者ヲ助手ニ使用スルハ此限ニアラス

第九條 營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任ス

第二章 船 夫

第十條 船夫ヲラントスル者ハ其族籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ營業者ニシテ船夫ノ業ヲ執ラントスルモノ亦同シ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船夫タルコトヲ得ス

一 醉狂又ハ暴行ノ癖アル者

二 十六歳未滿ノ者

三 瘋癲白痴者

四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ改悛ノ情ナキ者

第十二條 鑑札面ニ異動ヲ生シ又ハ亡失毀損若クハ其記載文字不明トナリタルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ニ届出書換又ハ再下付ヲ請フヘシ

船夫廢業又ハ死亡失踪シタル時ハ速ニ届出同時ニ鑑札ヲ返納スヘシ但死亡失踪ノ場合ハ戸籍法届出義務者ニ於テ其手續ヲナスヘシ

第十三條 船夫ハ毎年四月十月ノ兩度所轄警察官署ニ出頭シ鑑札ノ照査ヲ受クヘシ

前項ノ期間ニ鑑札ノ照査ヲ受ケサルトキハ廢業シタルモノト見做ス

第十四條 船夫ハ就業中鑑札ヲ携帯シ警察官吏ノ求メアリタルトキハ之ヲ示スヘシ  
鑑札ハ他人ニ貸與スヘカラス

第十五條 酩酊シテ就業シ又ハ見苦敷服裝ヲナスヘカラス

第十六條 乗客ハ懇切ニ接遇シ苟モ輕忽侮慢ノ行爲アルヘカラス

第十七條 河川堤防ニ設ケタル水制工測量標、量水標、護岸、根固抗又ハ橋脚塵障抗、燈臺其他浮標等ニ船ヲ繋クヘカラス

第十八條 他船ト行逢フトキハ右ニ避クヘシ若シ淺隘等ニテ避讓スルコト能ハサル場合ハ避クルニ便宜ナル

船ヨリ航路ヲ讓ルヘシ

第十九條 前船徐航シ後船之ヲ乗越エントスルトキハ後船ヨリ其意ヲ告知シ前船ハ左ニ避ケ後船ハ其右ヲ通過スヘシ

第二十條 濃霧降雪等ニシテ航路分明ナラサルトキハ衝突豫防ノ爲適宜ノ方法ニ依リ信號スヘシ

第二十一條 夜中航行ノ際ハ適宜ノ船燈ヲ点用スヘシ隧道進行中ハ晝夜ニ拘ハラス点燈スヘシ

第二十二條 他船ト衝突シ又ハ其他ノ事故ニ依リ危害ヲ生シタルトキ若ハ橋脚、水刳抗浮標等ヲ毀損シタルトキハ速ニ最寄警察署又ハ巡查派出所若クハ巡查駐在所ニ届出ツヘシ

### 第三章 營業者及船夫ニ通スル規定

第二十三條 船内ハ常ニ清潔ニシテ客室ニハ風雨ヲ防クニ足ル設備ヲナスヘシ

第二十四條 船體檢査証ハ他船ニ轉用シ又ハ他人ニ貸與スヘカラス

第二十五條 客引ヲ出シ若ハ強テ乗船ヲ勸メ認可以外ノ運賃ヲ請求スヘカラス

第二十六條 船客及貨物ノ積量ハ認可以外ニ搭載スヘカラス但シ認可以内ト雖警察官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時制限スルコトアルヘシ

第二十七條 故ナク出船ヲ拒ミ又約束以外ノ地ニ於テ貨物ノ積卸ヲナシ若クハ乗客ノ意ニ反シテ上陸セシメ又ハ他船ニ轉乗セシムヘカラス

第二十八條 暴風雨出水激浪或ハ降雪結氷等ノ爲メ警察官吏ニ於テ危險ノ虞アリト認ムルトキハ運航ヲ制止スルコトアルヘシ

第二十九條 左ニ列記スルモノハ乗載スヘカラス

一 癩病其他全乗者ノ厭忌ノ感ヲ起サシムヘキ疾患者

二 保護人ナキ瘋癲人及亂醉者

三 同乗者ニ不快ヲ感セシムヘキ不潔ノ容裝ヲナシタル者

四 臭氣ヲ發散シ其他全乗者ノ迷惑トナルヘキ物件ヲ携帯スル者

第三十條 營業者又ハ船夫本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトアルヘシ

### 第四章 罰 則

第三十一條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第三十二條 明治二十八年三月府令第三十號諸川通船營業取締規則ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

第三十三條 從來ノ通船營業者及船夫ハ明治四十年九月一日迄ニ本則ニ依リ手續ヲナスヘシ



## 岡山縣

### ○渡航通船業取締規則

(明治三十一年三月三十日  
岡山縣令第十六號)

第一條 渡航業トハ海上ニ於テ和船ヲ以テ旅客ヲ運送スルノ業ヲ謂ヒ通船業トハ渡津業ヲ除クノ外河川ニ於テ和船ヲ以テ旅客ヲ運送スルノ業ヲ謂フ海上ニシテ滿潮時ニ於ケル兩岸ノ距離百間以内ノ箇所ハ渡津業ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 渡航ハ通船業ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ  
二項乃至四項ヲ變更セントスルトキハ其都度届出認可ヲ受クヘシ

- 一 族籍住所氏名年齢
- 二 船數並ニ種類名稱及客室ニ供スル船室ノ坪數
- 三 發着及寄港ノ場所
- 四 賃錢額

第三條 營業用ノ船体船具ハ豫メ所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ請ヒ一艘毎ニ一個ノ検査證ヲ受ケ船内見易キ所ニ釘付スヘシ

船体船具ハ毎年一回(三月)所轄警察署又ハ分署ニ届出テ検査ヲ請フヘシ  
検査證ヲ受ケサル船体ハ營業上使用スルコトヲ得ス

第四條 住所移轉氏名變更其他検査證記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ検査証ヲ毀損亡失シタルトキハ

五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ願出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第五條 川船ニ旅客ヲ乗載シテ海上ヲ渡航スヘカラス

第六條 乗客ノ定員ハ客席一坪ニ付キ十人ヲ超過スヘカラス但十二歳以下ハ二人ヲ一人ニ算シ五歳以下ハ定員外トス

第七條 航船又ハ通船ニハ渡航ニ通船ニ熟練シタル成年以上ノ船頭及十六年以上ノ水夫一人以上ヲ乗組マシムヘシ但シ航路平穩距離最近ノ地ニ渡航スルモノニテ水夫ノ乗組ヲ省略セントスルモノハ豫メ營業人ヨリ其ノ實況ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第八條 渡航船ニハ夜間成規ノ點燈ヲ怠ルヘカラス

第九條 暴風洪水其他危險ノ虞アル場合ハ出船スヘカラス

第十條 警察官吏ハ臨時船内又ハ船體船具ヲ検査シ危險ノ虞アリト認ムルトキハ特ニ乗客ノ員數ヲ制限シ又ハ出船ヲ停止シ或ハ船體船具ノ修繕ヲ命ジ若ハ其ノ使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ船頭水夫其ノ技ニ堪ヘスト認ムルトキハ交換ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一 傳染病患者保護ナキ瘋癲人又ハ亂醉者ヲ乗載セシムヘカラス
- 二 船内ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ
- 三 何等ノ名義ヲ以テスルモ賃錢外ノ金品ヲ受クルヲ得ス
- 四 乗船ヲ勸誘スル爲メ客引ヲ出シ又ハ僞言ヲ構フヘカラス
- 五 乗船約束後正當ノ理由ナクシテ出船ヲ遅延シ又ハ運航中故ナク停船シ或ハ乗客ノ承諾ヲ得スシテ約束

外ノ地ニ上陸セシムヘカラス

六 旅客ヨリ乗船ノ求アリタルトキハ正當ノ事由ナク拒ムコトヲ得ス

第十二條 運航中災害ニ罹リ若ハ乗客ニ異狀アリタルトキハ船頭ヨリ速ニ最寄ノ警察分署又ハ派出所ニ其顛末ヲ届出ヘシ

第十三條 第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シ又ハ第十條ノ命令ニ従ハサルトキハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 營業上ニ就テハ家族又ハ船頭水夫其他雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任ス

第十五條 臨時同行者ヲ募集シ自ラ渡航又ハ通船ヲ爲ス非營業者ト雖モ第一條第二條第三條第四條第七條第

十四條ヲ除ク外本則ヲ適用ス

本則ハ船頭若シ在ラサルトキハ水夫ノ任ニ當ル者ヲ以テ其責ニ任ス

附 則

第十六條 從來海上ニ於テ旅客ヲ運送スルモノニ對シ縣廳ニ於テ許可シタルモノハ本令施行ノ日ヲ以テ免許ノ效ヲ失フモノトス

第十七條 本則ニ依リ願出又ハ検査ノ請求ヲナス場合ハ營業ノ種類ニ依リ警察官署ノ所轄左ノ區別ニ依ル可シ

- 一 渡航業ニ係ルモノハ其船舶碇繋地ノ所轄水上警察署又ハ分署
- 二 通船業ニ係ルモノハ本人住所々轄警察署又ハ分署

# 愛媛縣

## ○渡海船營業取締規則

(明治三十三年三月廿八日  
愛媛縣令三十八號)

- 第一條 渡海營業トハ日本形五十石未満ノ小廻船ヲ以テ客ヲ乘載シ渡海ヲ營業トスルモノヲ云フ
- 第二條 渡海船營業ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ出願免許ヲ受クヘシ
- 一 住所、氏名、年齢
  - 二 航路
  - 三 船名
- 第三條 營業者ハ船夫ノ住所氏名年齢ヲ記シ出願鑑札ヲ受クヘシ
- 第四條 渡船ハ使用前船鑑札寫ヲ添ヘ届出船體検査證ヲ受クヘシ
- 第五條 毎年一回指定シタル期日場所ニ於テ船體及船具ノ検査ヲ受ケ検査證ニ檢印ヲ受クヘシ但必要アル時ハ臨時検査ヲ施行スルコトアルヘシ
- 第六條 警察官吏ニ於テ船體船具破損朽敗セルモノト認ムルトキハ修繕ヲ命シ若ハ使用ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第七條 左ノ事項ハ五日以内ニ届出鑑札及船體検査證ヲ返納又ハ書換若クハ再渡ヲ請フヘシ
- 一 住所、氏名ヲ變更シタルトキ
  - 二 鑑札又ハ船體検査證ヲ毀損亡失シタルトキ

- 三 廢業又ハ渡船ノ使用ヲ廢止シタルトキ
- 四 船夫ノ解雇又ハ失踪死亡シタルトキ
- 第八條 賃并ニ乗載定員ハ届出認可ヲ受クヘシ
- 第九條 左ノ事項ハ船内見易キ箇所ニ掲クヘシ

一 船體検査證

二 船 賃

三 乗載定員

- 第十條 船夫就業中ハ鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第十一條 船内ハ時々掃除シ清潔ナラシムヘシ
- 第十二條 船内ニ左記錐形ノ標旗ヲ掲ケ夜間ハ定規ノ點燈ヲナスヘシ
- 第十三條 乗客ハ丁重ニ取扱ヒ老幼婦女等ニ對シテハ特ニ保護ヲ加フヘシ
- 第十四條 本則ノ願届ハ警察官署ニ之ヲナスヘシ
- 第十五條 本則第二條第三條第四條第七條第八條乃至第十三條ニ違背シ又ハ正當ノ理由ナクシテ第五條ノ検査ヲ受ケス若ハ受ケ條認可ノ事項ニ違ヒタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十六條 祭典等ニ際シ賃錢ヲ受ケ臨時出船スルモノハ本則第二條第五條ヲ除キ其他ノ條項ヲ適用ス



○通船營業取締規則

(明治三十三年三月廿七日  
愛媛縣令第四十號)

第一條 通船營業テナサントスルモノハ左記ノ事項ヲ具シ届出ヘシ

一 住所、氏名、年齢

二 營業ノ場所

三 商 號

第一條ノ二 船夫ヲ使用スルモノハ其族籍住所氏名年齢ヲ届出一人毎ニ船夫鑑札ヲ受クヘシ營業者自ラ船夫ヲ兼テタルトキ亦同シ

第二條 通船ハ使用前船鑑札寫ヲ添ヘ届出船體検査證ヲ受クヘシ

第三條 毎年一回指定シタル期日場所ニ於テ船体及船具ノ検査ヲ受ケ検査證ニ捺印ヲ受クヘシ  
但必要ナル時ハ臨時検査ヲ施行スルコトアルヘシ

第四條 警察官吏ニ於テ船体船具ノ破損朽損セルモノト認メタルトキハ修繕ヲ命ジ若ハ使用ヲ禁止スルコトアルヘシ

第五條 左ノ事項ハ五日以内ニ届出船体検査證船夫鑑札ハ返納又ハ書換若ハ再渡ヲ請フヘシ

一 住所氏名ヲ變更シタルトキ

二 船体検査證又ハ船夫鑑札ヲ損亡失シタルトキ

三 廢業又ハ通船ノ使用ヲ廢止シタルトキ

四 船夫ノ解雇又ハ失踪死亡シタルトキ

第六條 通船賃並ニ乗載定員ハ届出許可ヲ受クヘシ

第七條 左ノ事項ハ船内見易キ箇所ニ掲クヘシ

一 船体検査證

二 通船賃

三 乗載定員

第七條ノ二 船夫從業中ハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第八條 營業者二名以上ノ場所ニアリテハ警察官吏ノ認ムル處ニ依リ出船ノ方法順序ヲ指定セシムルコトアルヘシ

第九條 通船内ニ於テ旅舍或ハ乗車等ヲ勸誘シ又ハ無斷ニ手荷物等ノ運送ヲナスヘカラス

第十條

船内ハ時々掃除シ清潔ナラシムヘシ

第十一條 乗客ヲ丁重ニ取扱ヒ老幼婦女等ニ對シテハ特ニ保護ヲ加フヘシ

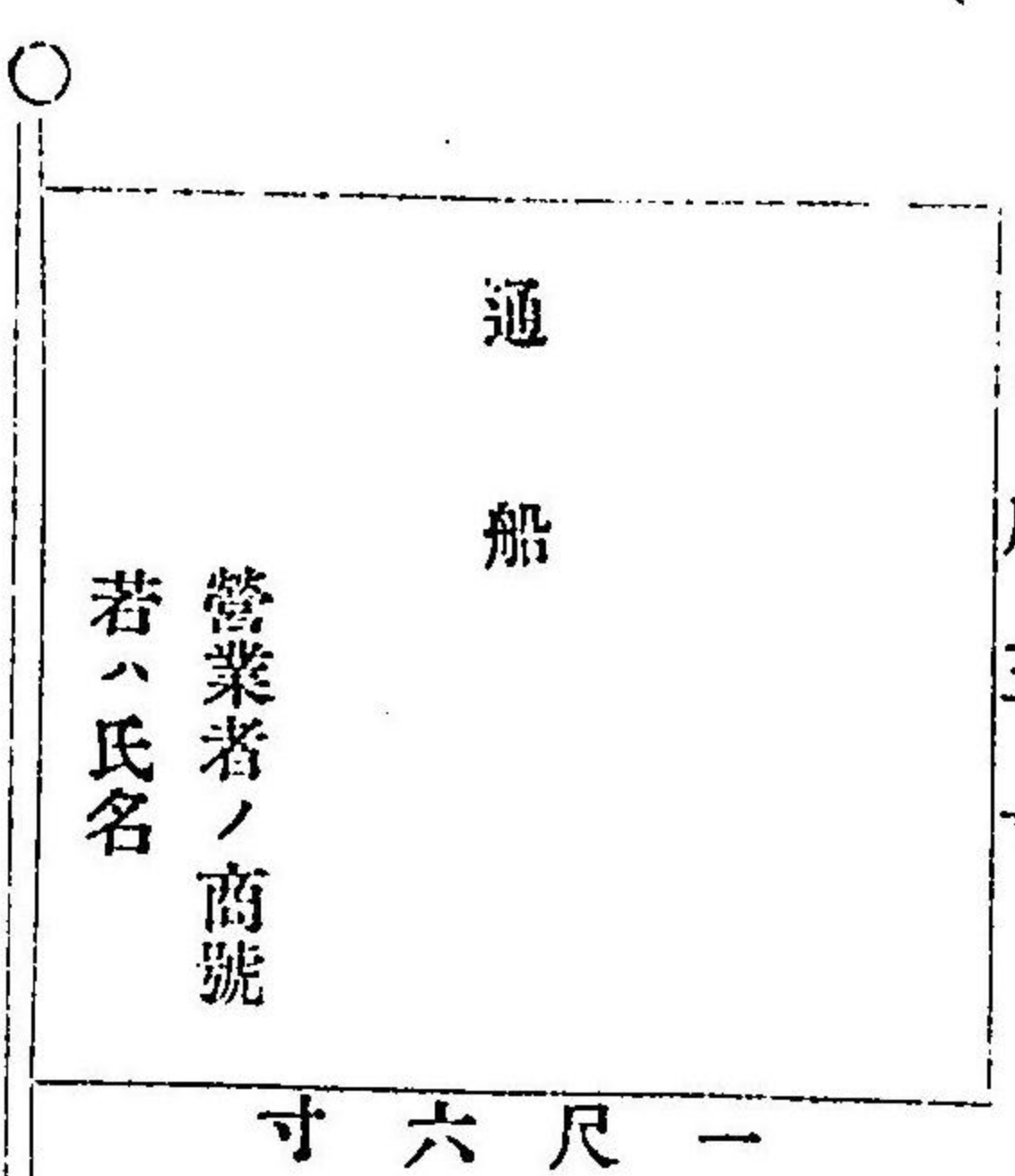
第十二條 通船ハ左記雛形ノ標旗ヲ掲ケ夜中ハ白燈ヲ点スヘシ

第十三條 本則ノ願届ハ所轄警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 本則第一條第一條ノ二第二條第五條第六條第七條第七條ノ二第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シ若ハ正當ノ理由ナクシテ第五條ノ検査ヲ受ク又ハ第六條ニテ認可セシ事項若ハ第八條ノ指示ニ違ヒタル時ハ七日以下ノ拘留又ハ一圓七十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 附 則 艦船縦覧等ニ際シ賃錢ヲ受ケ臨時通船ヲ出スモノハ本則第一條第三條ヲ除キ其他ノ條項ヲ適用ス

一尺三寸



○渡船營業取締規則

(明治三十三年三月廿七日)  
愛媛縣令第三九號

四二六

- 第一條 渡船營業者ヲ爲サントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察官署へ願出免許ヲ受クヘシ
- 一 住所、氏名、年齢
  - 二 渡船場ノ名稱及位置
  - 三 賃錢額
- 第二條 左ノ各項ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署へ届出ヘシ
- 一 廢業
  - 二 轉居又ハ改氏名
- 第三條 左ノ各項ハ所轄警察官署へ届出テ認可ヲ受クヘシ
- 一 營業ニ供スル船
  - 二 川留ノ水量
  - 三 渡船乗載人員
- 第四條 毎年一回警察官署ノ指定シタル期日ニ於テ船体ノ検査ヲ受クヘシ  
必要ト認ムル時ハ臨時検査ヲ行フコトアルヘシ
- 第五條 警察官吏ニ於テ船体船具破損朽敗セルモノト認メタル時ハ修繕ヲ命ジ若ハ使用ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第六條 渡船場ニハ水量標ヲ設置スヘシ
- 第七條 川留ノ水量ニ違シタル時ハ渡船ヲ出スヘカラス
- 第八條 渡船ニハ乗載人員ヲ木標ニ記載シ船内見易キ場所ニ釘付シ置クヘシ
- 第九條 渡船場ニハ賃錢標ヲ揭示スヘシ
- 第十條 急速出船ヲ求ムルモノアリタルトキハ速ニ之ニ應スヘシ
- 第十一條 謂レナク渡船ヲ出サス又ハ定員外ニ乗載セシメ若クハ定額以外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス
- 第十二條 本則ニ違背シタルモノハ五日以下ノ拘留又ハ一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

四二七

# 大分縣

## ○西洋形船舶取締規則

(明治二十四年四月六日  
大分縣令甲第二十號)

- 第一條 西洋形近海航路又ハ平水航路ノ汽船ヲ以テ本縣ノ港灣ヲ定繫港又ハ寄港トシ海運ノ營業ヲ爲サントスルモノハ每船ノ明細書ヲ添ヘ縣廳ヘ届出ヘシ其船數ヲ増加スルトキ亦同シ
- 第二條 前條海運營業者ニシテ本縣下ニ住居セサルモノハ公務處辨ノ爲メ本縣下ニ代理人ヲ置キ委任狀寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ
- 代理店ニハ看板ヲ掲クヘシ
- 第三條 外國航路又ハ內國航路ノ汽船並ニ西洋形帆船ハ航運ノ模様ニ依リ特ニ命令シテ此規則ノ全部又ハ幾分ヲ遵守セシムルコトアルヘシ
- 第四條 運賃ハ貨物ノ種類客室ノ等級ニ從ヒ之ヲ定メ縣廳ヘ届出ヘシ其變更スルトキ亦同シ
- 第五條 運賃ハ明瞭ニ記載シテ切符賣捌所及船内見易キ箇所ニ掲クヘシ
- 第六條 定額ニ超過シタル運賃ヲ請求スヘカラス
- 第七條 船内各室毎ニ等級及定員ヲ記シタル標札ヲ掲クヘシ但シ十二才未満ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三才未満ハ員外トス
- 第八條 每船定員外ノ乗客ヲ搭載スヘカラス
- 第九條 同一航路ニ向ケ二艘以上全時ニ出港スヘカラス

第十條 乗客及荷物ノ積載及陸揚ヲ爲スハ一定ノ波止場ニ限ルヘシ若シ脚深クシテ波止場ニ寄り難キモノハ豫メ場所ヲ定メ縣廳ニ届出ヘシ

第十一條 乗客ヲ搭載シテ航海スルトキハ他ノ乗客荷物ヲ搭載セル船舶ヲ曳クヘカラス但難船救援ノ爲メニスルトキハ此限リニ在ラス

第十二條 速力ヲ競争シ又ハ寄港場以外ノ地ニ於テ私ニ荷客ヲ搭載シ又ハ約束外ノ地ニ強テ陸揚セシムヘカラス

第十三條 制規ノ手續ヲナサスシテ危害ヲ生スヘキ物品ヲ船積シタルモノト認ムルトキハ其荷造ニ發包セシムルコトアルヘシ

第十四條 火藥類硫黃及發火性ノ物品ヲ搭載スルトキハ豫メ品名數量及積込ノ場所陸揚地ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出火藥類ハ標旗ヲ見易キ箇所ニ建テ其ノ他ハ品名ヲ記シタル標札ヲ掲グヘシ但シ時宜ニヨリ搭載ヲ差止ムルコトアルヘシ

第十五條 甲板積ノ貨物ニシテ過量ト認ムルトキハ減少セシムルコトアルヘシ

第十六條 衝突又ハ暗礁ニ觸レ其他危險ノ事故ニ遭遇シタルトキハ速ニ最寄警察署又ハ分署巡査駐在所又ハ巡行ノ警察官吏又ハ浦役場等へ届出ヘシ

第十七條 海運營業者ハ乗船ヲ勸ムル爲メ客引人ヲ用ユヘカラス

第十八條 廢業又ハ解船若ハ賣却讓與シタルトキ及毎船明細書中變更ヲ生シタルトキハ速ニ縣廳へ届出ヘシ

第十九條 警察官吏ハ警察上必要ナリト認ムルトキハ臨時乗船檢査スルコトアルヘシ又ハ時宜ニ依リ必要ト認ムルトキハ出港ノ許可ヲ伸縮セシムルコトアルヘシ

第二十條 第一條第二條第五條乃至第十二條第十四條第十六條乃至第十八條ニ違背シタル時又ハ第三條第十條第十四條但書第十五條第十九條ノ命令ニ違背シタル者若ハ第十九條警察官吏ノ乗船ヲ拒ミタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

○舢舨營業者取締規則 (明治廿四年四月六日 大分縣令甲第二十一號)

本縣内各港灣ニ於テ西洋形船舶ノ乗客及荷物積卸ノ舢舨營業ヲ爲スモノハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

舢舨賃錢ハ明治二十四年四月三十日迄ニ認可ヲ稟クヘシ

違フモノハ刑法第四百二十七條ニ依リ罰セラルヘシ

- 一 舢舨營業者ハ舢舨ヲ要スヘキ船舶入港ノ信號アリタルトキハ猶豫ナク峻速ニ舢舨ヲ出シ乗客ノ送迎荷物ノ積卸ヲ爲スヘシ

但シ夜間ハ營業者ノ氏名ヲ記シタル提灯(又ハ其他ノ燈器)ヲ點燈携帯スヘシ風日又ハ浪高キ節ニハ每船二名

以上ノ舟子ヲ附スヘシ

- 一 舢舨ノ舟子ハ成年以上ノ男子ニシテ身體強壯操舟ノ術ニ熟シタルモノニ限ルモノトス
- 一 船体ニ不相當ナル過重ノ乗載ヲナスヘカラス
- 一 舢舨賃ハ各港灣ニ於テ賃錢ヲ一定シ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ稟クヘシ認可濟ノ賃錢表ハ船中見易キ處ニ釘付シ置クヘシ
- 一 何等ノ名義ヲ以テスルモ舢舨賃ノ外乗客荷主ニ對シ別ニ金錢ヲ請求スヘカラス



# 長崎縣

## ○汽船營業取締規則

(明治二十五年四月  
縣令第三二號)

第一條 西洋形近海航海(内地近海ヲ限リ航行スルモノ)又ハ平水航船(河港灣内ヲ限リ航行スルモノ)ノ汽船  
ヲ以テ航運ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ其ノ營業者又ハ船長ヨリ定繋場及寄港場ノ所轄警  
察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

- 一 航名
- 二 船主船長運轉手機關手ノ族籍、住所、氏名
- 三 定繋場及各寄港場
- 四 航路ノ定限
- 五 汽機及汽罐ノ種類
- 六 最大氣壓
- 七 一時間速力
- 八 乘客定員及其等級別
- 九 乘客及荷物運賃定額
- 十 發船日時ノ定メタルモノハ其日時

第二條 前條ノ營業者ニシテ本縣下ニ其代理店又ハ代理人ヲ置クトキハ其場所及支配人又ハ代理人ノ住所、

氏名ヲ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ但本文ハ支配人又ハ代理人ヨリ届出ルモ妨ケナシ

第三條 同一ノ航路ニ向ケ三十分時内ニ二艘以上發船スヘカラス但シ特ニ認可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第四條 濫リニ定時ノ發船時間ヲ伸縮シ又ハ他船ト速力ヲ競争スヘカラス

第五條 客室毎ニ等級及旅客定員ヲ記シタル標札ヲ掲ケヘシ

第六條 發船時刻ハ拔船前ニ發船地所轄警察署又ハ警察分署若クハ巡查駐在所ニ届出ヘシ但第一條第十項ニ依リ届出タルモノハ此限ニアラス

第七條 乗客ノ住所氏名等ハ明治廿二年十一月本縣令第八十五號ニ依リ所轄警察署警察分署又ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第八條 火藥類及發火性ノ物品ヲ搭載セントスルトキハ豫メ品名數量及積込ノ場所陸揚地ヲ所轄警察署又警察分署ニ届出且火藥類ハ其標旗ヲ見易キ箇所ニ建テ其他ハ品名ヲ記シタル標札ヲ掲ケヘシ

第九條 明治三十九年九月廿一日縣令第四十五號ヲ以テ刪除

第十條 乗客ヲ搭載シテ航行スルトキハ他ノ荷客ヲ搭載セル船舶ヲ曳クヘカラス

但難破船救護ノ爲又ハ河港内航行ノトキ其他特ニ認許ヲ受ケタルモノハ此限ニ在ラス

第十二條 投錨前拔錨後又ハ寄港場以外ノ地ニ於テ乗客荷物ノ積卸チナスヘカラス

第十三條 乗客ヲ妨害シ又ハ汚漬ノ虞アル物品若ハ畜類等ヲ客室ニ牽入レ又ハ乗載セシムヘカラス

第十四條 左ノ事項ハ速ニ最寄警察署又ハ警察分署若ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ但一項二項ニ係ルモノハ乗客上陸前ニ限ル

一 傳染病ニ罹リ又ハ變死傷アリタルトキ

二 手荷物積荷其他物品ヲ遺失アリタルトキ

三 衝突又ハ暗礁ニ觸レ其他危險ノ事故ニ遭遇シタルトキ

第十五條 警察官吏ハ時宜ニ依リ必要ト認メタルトキハ臨時乗船シ又ハ發船時間ヲ伸縮シ若ハ甲板積ノ貨物過重ト認ムルトキハ減少セシムルコトアルヘシ

第十六條 乗客昇降ノ際ハ懇篤ニ保護チナシ危險ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十七條 客室其他便所等ハ不潔ナラサル様常ニ掃除ヲ爲スヘシ

第十八條 解船又ハ賣却讓與シ又ハ第一條届出ノ事項ニ變史ヲ生シタルトキハ速カニ定繫場及寄港場ノ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十九條 本則ニ掲ケタル届書ニシテ長崎港内ニ係ルモノハ出島水上分署ニ届出スヘシ

第二十條 第一條乃至第四條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條ニ違背シタル者又ハ第十五條ノ命令ニ違背シ又ハ第五條第十六條第十七條ニ違ヒ官ノ督促ヲ受ケ尙ホ之ヲ遵守セサル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

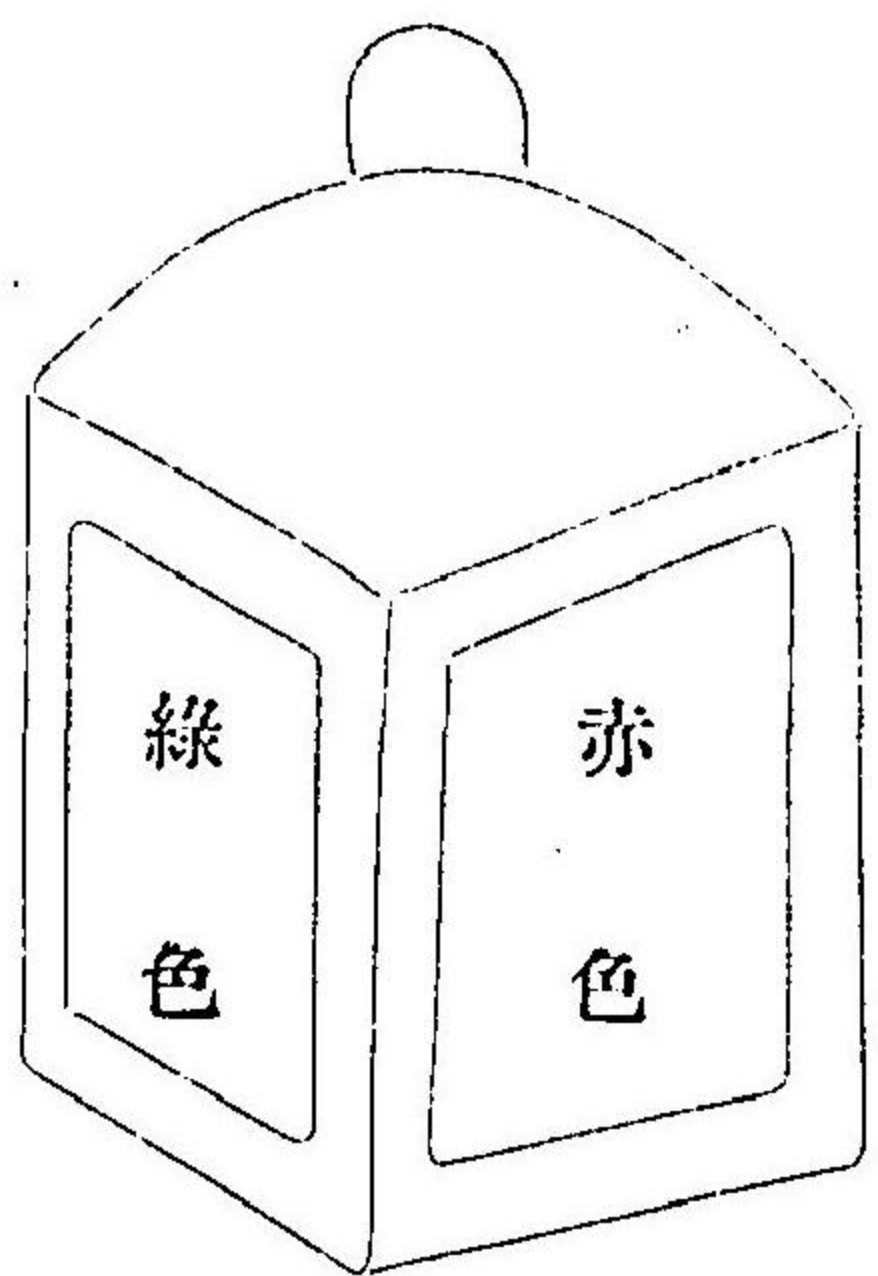
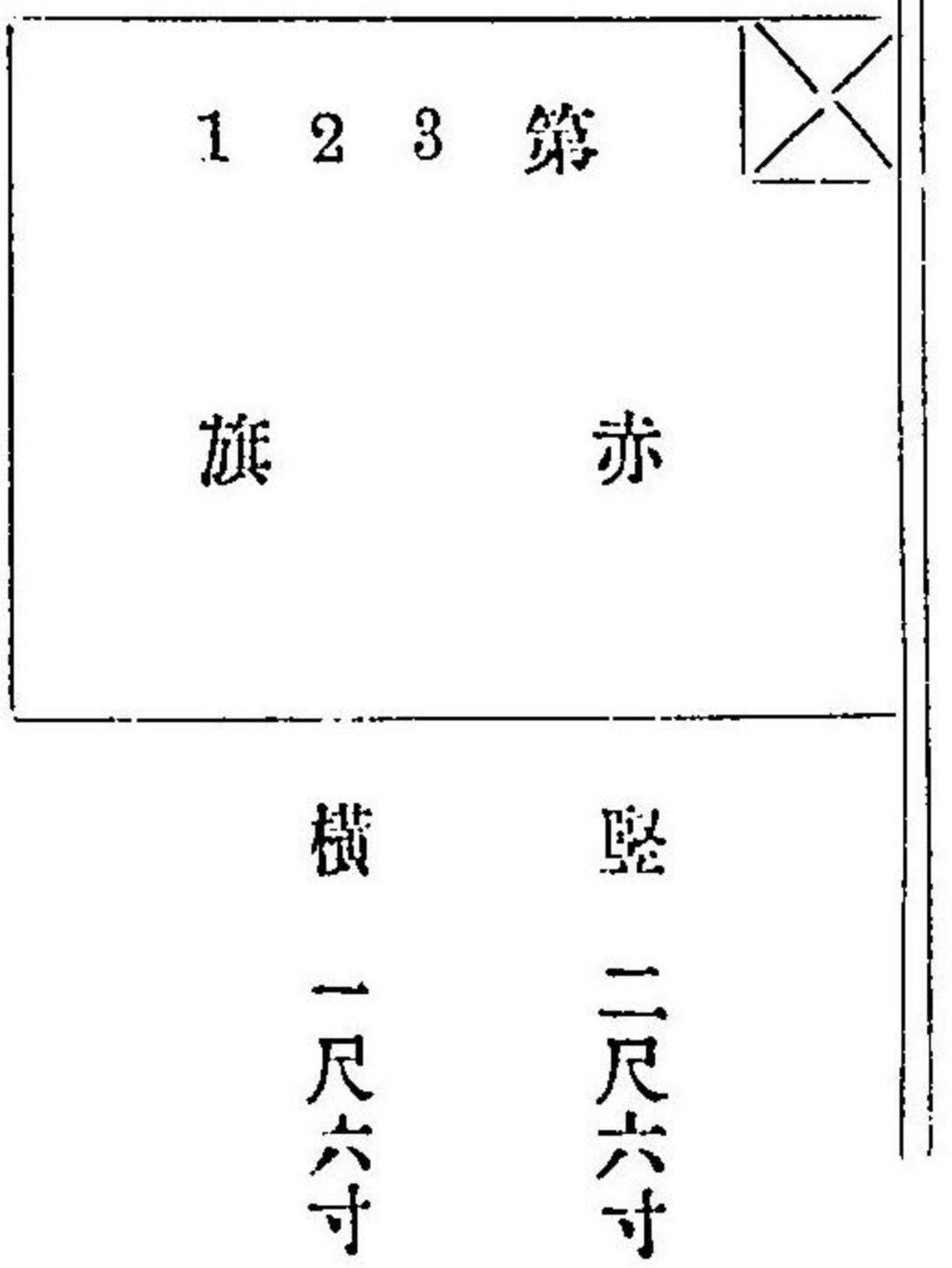
○長崎港船客取締規則

(明治二十二年十二月長崎縣令第九〇號)

第一章 通 則

第一條 船トハ長崎港内ニ碇泊セル内外國船ノ貨物ヲ運搬スルモノヲ云ヒ客船トハ其船客乗組員ヲ送迎スルモノヲ云フ

第二條 營業ニ關スル諸願届ハ總テ出島分署ヘ差出スヘシ但本文ノ願届ニハ取締人ノ加印ヲ要ス  
 第三條 舢船營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ市町村長ノ認印ヲ受ケ營業鑑札及船体檢査證ヲ受ケヘシ  
 第四條 營業鑑札及檢査證ハ賣買讓與若ハ貸借ヲ許サス  
 第五條 舢船客船ハ營業中晝間ハ左ノ雛形ノ標旗ヲ掲出シ尙ホ室内ニ和洋數字ノ番號ヲ記シタル白燈ヲ點ス  
 ヘシ但一日以上雇切リト爲リタルトキハ雇主ノ標旗ヲ掲クルコトヲ得



第六條 左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ届出テ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ乞フヘシ  
 一 轉居改氏名其他鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ  
 二 鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ字体不分明トナリタルトキ  
 第七條 左ノ場合ニ於テハ届書ヲ副ヘ鑑札及檢査證ノ返納ヲ爲スヘシ  
 一 船体ヲ賣買讓與若クハ貸渡シタルトキ

二 廢船若ハ廢業シタルトキ

### 第二章 船体及檢査

第八條 船体ハ堅牢ニシテ左ノ制限ニ適合シタルモノトス

- 一 舢船ハ艙梁ヨリ舢梁迄二間以上中央ノ副員ハ八尺以上ニシテ吃水線ヲ設ケ質板ノ備ヘアルモノ
- 二 客船ハ艙梁ヨリ舢梁迄十尺以上中央ノ副員四尺以上ニシテ覆ヒ(日覆ヒ雨覆ヒ若ハ板屋根ノ類)ヲ設ケタルモノ

第九條 舢船客船トモ新ニ營業ヲ爲サムトスルトキ又ハ毎年二回(三月九月)其船体船具及鑑札標燈標旗(新ニ出願ノ者ハ鑑札及標燈標旗ヲ除ク)トモ出島分署ニ於テ檢査ヲ受ケヘシ但警察官吏ニ於テ本文ノ定期ニ拘ラス臨時檢査スルコトアルベシ

第十條 船体ノ檢査證ヲ受ケタルトキハ船体見易キ所ニ釘付シ置クヘシ

第十一條 客船ニハ屋上ニ大形ノ和洋數字ノ番號ヲ記シ又乗客ノ定員ヲ記シタル木札ニ檢印ヲ受ケ船体見易キ處ニ釘付シ置クヘシ

第十二條 船体危險ナルコトヲ見認メタルトキハ其使用ヲ停止又修繕ヲ命スヘシ但檢査ノ上尙ホ營業ニ堪ヘサル者ハ營業鑑札及檢査證ヲ返納セシム

### 第三章 營業者及船子並服裝

第十三條 舢船客船トモ營業中ハ營業者及船子一名以上乗組ムヘシ但艙梁ヨリ舢梁迄三間幅九尺ヲ超ヘサル舢船及船客十一人乗客以下ノ客船ハ平穩ノトキニ限り船子ナクシテ營業スルヲ得

第十四條 營業者ハ營業中必ス營業鑑札ヲ携帯スヘシ

第十五條 營業者ハ身体強壯ノ男子滿十八年以上六十年未滿ニシテ船客ハ左ノ一項二項三項客船ハ左ノ各項

ニ觸レサル者トス但營業者ニ於テ本條ニ觸ルルトキハ營業免許ノ功ヲ失フモノトス

一 白痴瘋癲人

二 定リタル住所ナキ者

三 強盜盜詐欺取財ニ依リ處刑後三年ヲ經サル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四 強姦略取誘拐ニ依リ處刑後三年ヲ經サル者

第十六條 船子ハ滿十五年以上ノ者ニシテ其業ニ堪ヘ得ル者

第十七條 營業者及舟子營業中着衣ノ襟ニ和洋ニシテ番號ヲ附スヘシ

第四章 就業制限

第十八條 船客船トモ其組合場所ヲ以テ營業所トス但營業區域ハ從來ノ習慣ニ從フ

第十九條 營業者ハ豫メ順番ヲ定メ出船ニ妨ケナキ様装置スヘシ

第二十條 營業者ハ豫メ定リタル順番ニ依リ營業シ代理人其他ノ名義ヲ以テ濫リニ變更スルコトヲ得ス

第二十一條 外國商船又ハ外國渡航ノ日本商船ヘ船客ヲ送迎スルトキハ梅香崎町税關又ハ松ケ枝町税關検査場

ニ至リ税關吏ノ検査ヲ受クヘシ

第二十二條 前條ノ船舶ヘ積卸スル貨物ハ梅香崎税關又ハ松ケ枝町税關検査場ニ回漕シ改濟ノ捺印ヲ受クヘシ

但石灰砂利等豫メ税關ノ許可アルモノハ此限リニアラス

第二十三條 内地各港ニ往來スル西洋形日本船ヘ積卸ノ貨物ハ税關ノ許可ヲ得テ運搬スヘシ

第二十四條 税關ノ許可ヲ得タル貨物ノ外日出前日没後積卸シ又ハ貨物登載夜泊スルヲ得ス

第二十五條 船客船トモ入港船ノ投錨前ニ附着シ又ハ碇泊船ノ錨網等ニ繫船スルコトヲ得ス

第二十六條 船舶ノ昇降場外ヨリ濫ニ昇降シ或ハ船内ニ於テ強テ乗客ヲ誘引シ又ハ乗客船員ノ承諾ヲ得スシテ

其手荷物貨物等ヲ取扱フヘカラス

第二十七條 客船營業者ハ陸地及港外等ニ至リ乗客ヲ誘引スヘカラス

第二十八條 船客ハ貨主客船ハ其一艘ニ充タサル貨物ノ外運送スベカラス但一日以上雇切リトナリ雇主ノ指揮

ニ依ルモノハ此限リニ在ラス

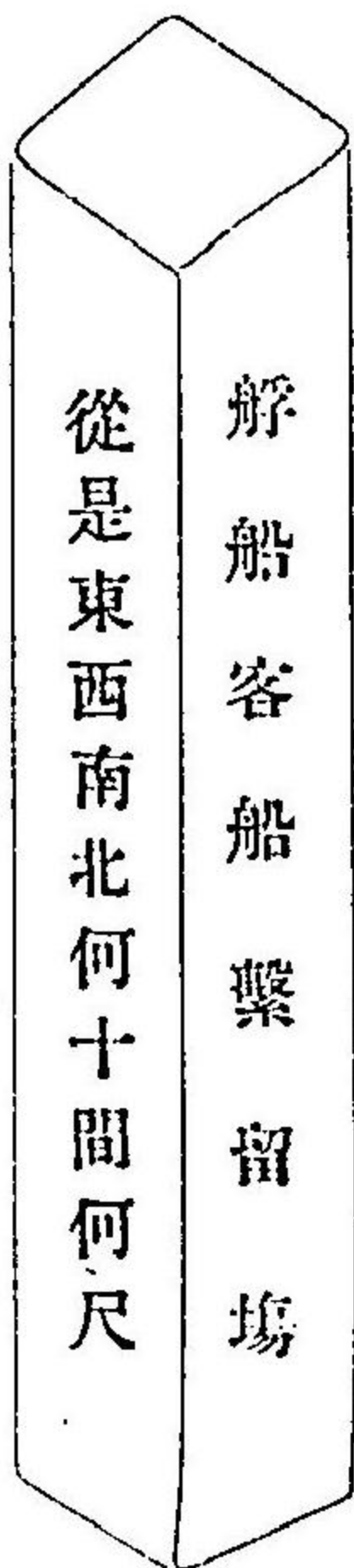
第二十九條 船客ハ貨物積込ニ船客ハ船客乗組中營業者又船子ノ内一名ハ其船内ヲ離ル、ヲ得ス

第五章 繫留場

第三十條 船客ハ海岸川筋客船ハ海岸川筋及各波止場若ハ其近傍ニ於テ繫留場ヲ定メ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 許可ヲ受ケタル繫泊場ハ左ノ錐形ノ標木ヲ建設スヘシ但標木ヲ建設シ能ハサル場所ニハ浮標ヲ設

クルヲ得



第三十二條 船客船トモ休業ノ者ト雖モ繫留場外ニ濫リニ繫留スヘカラス

第三十三條 大波止昇降場外及外國人居留地波止場ハ船客昇降貨物積卸シ又ハ税關吏検査ノ際ヲ除クノ外繫留

スルヲ許サス

第卅四條 外國軍艦近傍へ客待ノ爲メ繫泊スル客船ハ其軍艦ヨリ十五間以上ノ距離ヲ保ツ可シ

第卅五條 舢板客船トモ繫留スルトキハ凡テ他ノ船筏ノ通航ヲ妨ケサル様注意スヘシ

第六章 貨錢及荷客制限

第卅六條 貨物及船客ノ貨錢額ハ和洋兩文字ヲ以テ認メタル貨錢表ヲ製シ客船ハ其船内ニ揭示シ舢板ハ之ヲ所持スベシ

第卅七條 如何ナル場合ト雖モ定額外ノ貨錢ヲ請求スベカラス

第卅八條 貨錢不足ノ爲メ荷船船客ノ手荷物等ヲ差押フヘカラス荷主船客ヨリ其貨錢ニ代與セントスルトキハ出島分署若ハ巡回ノ巡查ニ届出ベシ

第卅九條 客船ハ艦梁ヨリ舳梁迄十尺中央ノ幅員四尺ヲ船客十名ノ定限トシ以上一尺ヲ加フル毎ニ一人ヲ増載スルヲ得十年未滿ハ二名ヲ以テ一名ト見做シ三年未滿ハ定員外トス但手荷物ハ大約十六貫目毎ニ一人ト見做ス

第四十條 舢板ノ脚入ハ吃水線ヲ超ユヘカラス但綿其他輕量ノ者ハ本條ノ制限ニ至ラスト雖モ其積込ヲ制止スルコトアルヘシ

第七章 組合

第四十一條 舢板客船トモ組合ヲ設ケ毎組正副取締各一名ヲ選定シ届出テ認可ヲ受クベシ但居留地第二號ヨリ第八號波止迄ハ一組トス

第四十二條 正副取締其任ニ適セス又ハ不正ノ所爲アルトキハ之ヲ改選セシムヘシ

第四十三條 各組合ニ於テハ左ノ事項ヲ議定シ縣廳ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ

一 組合ノ名稱及其事務所

二 營業上ノ區域及其方法

三 組合營業順序ノ方法

四 貨錢定額

五 加名者退去者ニ關スル方法

六 正副取締ノ權限及其任期並ニ選舉法

七 組合會議ノ方法

八 正副取締手當及組合費收支ノ方法

九 違背者取扱方法

右ノ外營業者ニ於テ必要ト認メタル事項

第四十四條 新ニ組合ニ加入セントスルモノアルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但時機ニ依リ出島分署ニ於テ指定シ組合ニ加入セシムルコトアルヘシ

第四十五條 正副取締ハ左ノ資格ニ適合シタル者ニ限ルヘシ

一 舢板客船トモ其營業者又ハ船主ニシテ營業上ニ關シ處分ヲ受ケ又ハ舢板ニシテ第十五條第四項ニ觸レサル者

二 年齡二十五年以上ニシテ長崎市若ハ西波杵郡上下長崎村戸町村淵村ノ内ニ住居スル者

三 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ差支ナキモノ

第四十六條 組合中前條ノ資格ニ適合スル者ナキトキハ豫メ許可ヲ受ケ選定スルコトヲ得

第四十七條 正副取締ハ營業者規則違背ナキ様取締ヲナシ且左ノ事務ヲ處辨スヘシ

- 一 營業上ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ傳達スルコト
- 二 組合營業上ニ關スル諸願届ニ加印スルコト
- 三 組合營業者名簿ヲ製シ増減變更アル毎ニ加除訂正スルコト
- 四 貨錢表ヲ製シ營業者ニ配付スルコト
- 五 營業者願届ヲ整理スルコト
- 六 繫船場ニ關スルコト
- 七 前各項ノ外臨時發生ノ件

第八章 罰 則

第四十八條 本則第三條第四條第九條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違背シタルモノ若ハ第十二條ニ依リ使用ヲ停止セラレタル船ヲ以テ營業シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十九條 本則第五條第十三條第十八條第十九條第二十條第二十五條第二十六條第二十八條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第五十條 本則第六條第七條第十條第十一條第十四條第二十七條第二十九條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條及第三十七條及第三十一條ノ督促ヲ受ケ之ニ従ハサル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セント欲スルモノハ更ニ願書ヲ出島分署へ差出シ許可ヲ受クヘシ

〇口ノ津解船營業取締規則

(明治十九年六月 布達第三二號)

第一條 外國船并ニ西洋形日本船へ貨物乗客ヲ運搬送迎スル解船並ニ客船ノ營業ヲナサント欲スルモノハ頭取連署係戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察分署へ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ但廢業ノ節ハ其旨届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第二條 解船客船共營業免許ノ上ハ圖面ノ標旗ヲ製シ船艦へ立ツヘシ

第三條 解船並客船營業者ハ同業中組合ヲ立テ及頭取一名ヲ選定シ所轄警察分署へ届出テ認可ヲ受クヘシ

第四條 頭取ハ起業廢業共其願届書ニ連署シ及解船客船營業ニ關スル一切ノ事件ヲ取締規則違犯者ナキ様注意スヘシ

第五條 營業鑑札ハ貸借スヘカラス

第六條 若シ營業鑑札水火盜難等ニ罹ルトキハ其旨速ニ届出テ更ニ鑑札願受クヘシ

第七條 外國渡航ノ西洋形船へ貨物ヲ積卸スル時ハ必ス税關出張所ノ波止場へ廻シ検査ヲ受クヘシ但石炭砂利等豫テ税關ノ認可アルモノハ此限ニアラス

第八條 税關出張所ノ検査ヲ經サル貨物ヲ積込ミタル解船ハ該出張所ノ許可ヲ得ルニアラサレハ夜泊スルヲ得ス

第九條 總テ貨物ヲ積卸シスルハ日出ヨリ日没迄トス但税關出張所ノ許可ヲ受ケタルモノノ運漕ハ此限ニ在ラス

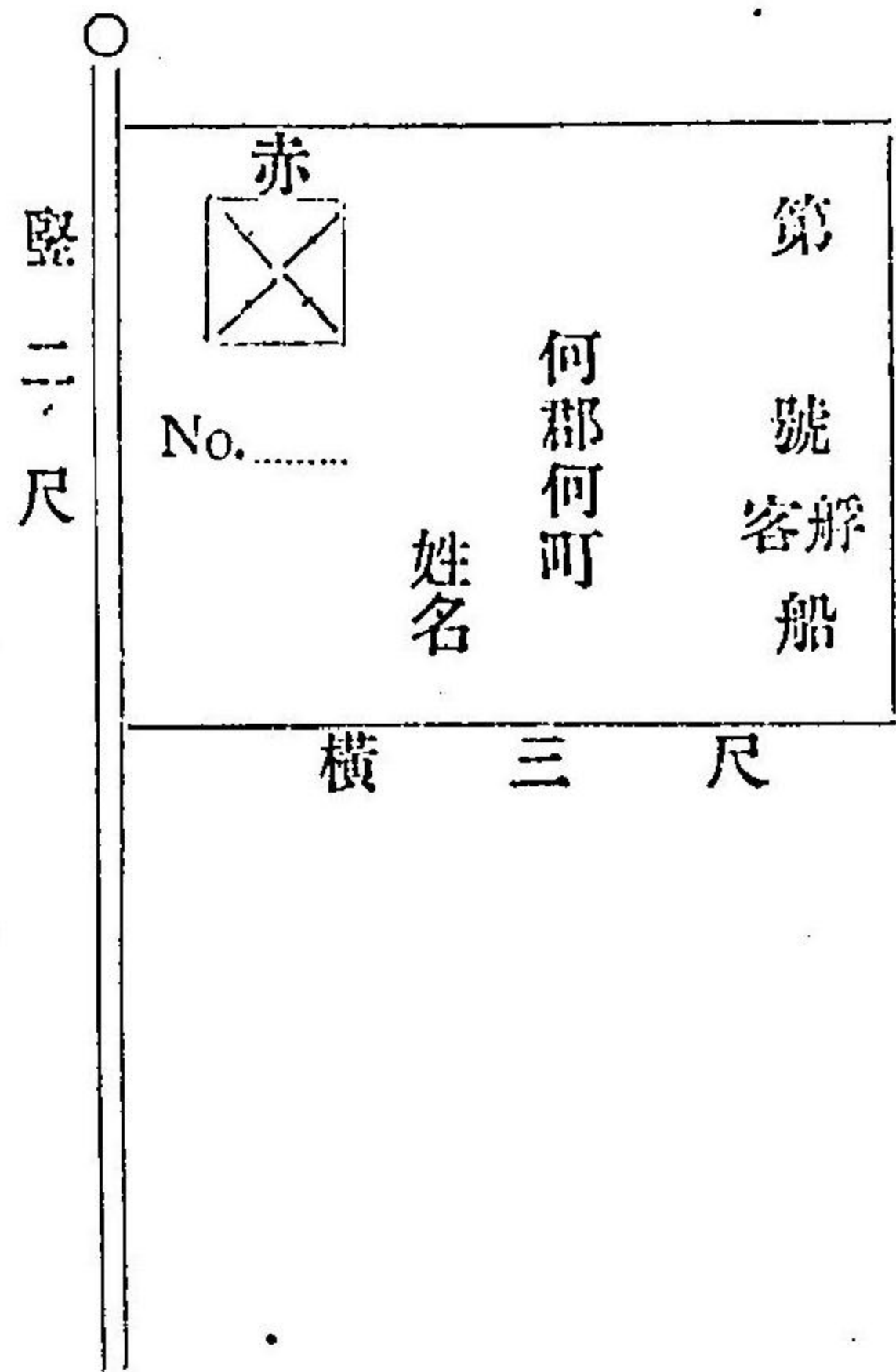
第十條 客船ハ左ノ波止場ニ限り乗客ヲ送迎スヘシ

中町西ノ波止場中町東ノ波止場三井物産會社裏波止場字大泊波止場

第十一條 船客船ハ其賃錢及組合規約ヲ定メ所轄警察署ヲ經由シ縣廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十二條 船客船ハ大切ニ荷物ヲ取扱ヒ客船ハ親切ニ乗客ヲ心付ケ決シテ手荒又ハ怠忽傲慢ノ所爲アルヘカラス

第十三條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ニ依リ處分セラレ尙情狀ニ依リ營業ヲ停止禁止スルコトアルヘシ



# 沖繩縣

## ○通船及廻漕店營業取締規則

(明治三十一年八月二十日 縣令甲第二十八號)

### 第一章 通 船

第一條 通船營業トハ汽船又ハ帆走船貨物運搬船客ヲ送迎スル營業ヲ云フ尤モ臨時寄港ノ外國船乗組人ノ送迎貨物運搬ハ其都度警察官吏ノ指揮ヲ受ケタル者ニ限ルヘシ

第二條 通船營業ヲナサントスル者ハ所轄警察署分署ヘ願出テ取締鑑札ヲ受クヘシ

但強盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者ハ取締鑑札ヲ下付セス又ハ取揚ケルコトアルヘシ

第三條 雇人ヲ以テ營業上使用セントスルモノハ其族籍氏名年齢ヲ詳記シ所轄警察署分署ヘ届出且就業中ハ証票ヲ携帯スヘシ

第四條 營業者ハ組合ヲ設ケ取締一名ヲ公選シ所轄警察署分署ヘ届出許可ヲ受クヘシ但不適當ト認ムルトキハ臨時改選セシムルコトアルヘシ

第五條 取締ハ營業ニ關スル諸規則命令ヲ組合中ニ通知シ其他一切ノ取扱ヲナシ且同業者ノ願届ニ加印スルモノトス

第六條 取締ハ組合名簿ヲ製シ住所氏名年齢ヲ詳記シ其増減毎ニ之ヲ加除スヘシ

第七條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察署分署ノ認可ヲ受クヘシ但組合ニ關スル費用ハ營業者ノ負擔ト

ス

第八條 組合ニ入ラサル者ハ營業ヲ許サス

第九條 通船ニハ標旗ヲ製シ所轄警察署分署ノ檢印ヲ受ケ就業中ハ必ス舳艫ノ最モ見易キ箇所ニ揚クヘシ

但夜間ハ標旗ノ外白色硝子燈ヲ揚クヘシ

第十條 廢業又ハ解雇シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署分署ニ届出取締鑑札ノ返納ト標旗ノ消印ヲ受クヘシ

シ

第十一條 取締鑑札ハ就業中必ス携帯スヘシ

第十二條 取締鑑札及標旗ヲ亡失毀損シ若クハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ再渡又ハ書換ヲ願出ヘシ

第十三條 取締鑑札及ヒ標旗ハ貸借買賣讓與スルヲ許サス

第十四條 貨物ノ積入及陸揚ハ通常乗船場ニ限ルヘシ

但手廻荷物ハ此限ニアラス

第十五條 通船ハ乗客定員及運送賃錢ヲ定メ所轄警察署分署ニ届出認可ヲ受ケ其表札ヲ製シ船内見易キ處ニ

釘付スヘシ

但激浪等ノ際警察官ニ於テ危險ト認ムルトキハ臨時定員ヲ減セシムルコトアルヘシ

第十六條 通船々体ハ毎年一回所轄警察署分署ノ檢査ヲ受クヘシ其期日ハ警察署分署ニ於テ定ムルモノトス

但定期ニ拘ハラス臨時檢査スルコトアルヘシ

第十七條 船体危險ト認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十八條 夜間貨物ヲ積込又ハ陸揚スルトキハ所轄警察署分署又ハ水上警察署ニ届出且場所ニ點燈ヲ揚クヘシ

シ

但手廻荷物ハ此限ニ在ラス

第十九條 本船ニ於テ船客ノ送迎貨物ノ揚載ハ一定ノ場所ニ於テ乗客其他本船ニ對シ妨害ヲナスヘカラス

第二十條 本則第二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾錢以下ノ科

料ニ處ス

第二十一條 本則第三條第十五條第十七條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料

ニ處ス

第二章 回 漕

第一條 刪除

第二條 回漕營業ヲナサントスル者ハ所轄警察署分署ニ願出取締鑑札ヲ受クヘシ

第三條 雇人ヲ以テ營業上使用セントスル者ハ其ノ族籍氏名年齢ヲ詳記シ所轄警察署分署ニ届出且就業中ハ

証票ヲ携帯スヘシ

第四條 廢業又ハ解雇シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署分署ニ届出取締鑑札ヲ返納スヘシ

第五條 取締鑑札ヲ亡失毀損シ若ハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ再渡又ハ書換ヲ願出ヘシ

第六條 取締鑑札ノ貸借買賣讓與ヲ許サス

第七條 船客送迎ノ爲メ本船ニ至リテハ專ラ本船規則ニ依ルヘキハ勿論窓口欄干等ヨリ猥リニ昇降シ若クハ

船客又ハ本船ニ對シ粗暴ノ所爲アルヘカラス

第八條 船客及荷主ノ貨物取扱ハ都テ懇切ヲ旨トシ依囑セサル貨物ヲ妄リニ取扱ヒ又ハ故ナク貨物ノ回漕ヲ



拒ミ或ハ延滞ヲナサシムヘカラス

第九條 船客上陸ノ際欺罔シテ自店ヘ誘引スヘカラス

第十條 船客上陸貨物陸揚ノ際ハ回酒店營業人又ハ証票ヲ携帯スルモノノ外接近スルヲ許サス但警察官吏ノ許可ヲ得ルモノハ此限ニ在ラス

第十一條 營業者ハ船客名簿ヲ製シ書式ニ依リ記載スヘシ

第十二條 本則第二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 本則第三條第六條第七條第八條第九條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第十四條 本則第五條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

拒ミ或ハ延滞ヲナサシムハカラス

第九條 船客上陸ノ際欺罔シテ白店へ誘引スヘカラス

第十條 船客上陸貨物陸揚ノ際ハ回漕店營業人又ハ証票ヲ携帯スルモノノ外接近スルヲ許サス但警察官吏ノ許可ヲ得ルモノハ此限ニ在ラス

第十一條 營業者ハ船客名簿ヲ製シ書式ニ依リ記載スヘシ

第十二條 本則第二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 本則第三條第六條第七條第八條第九條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第十四條 本則第五條第十條第十一條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

# 附 錄

附 錄

開 港 々 々 則

開港々々則施行細則

港務局所屬繫船浮標使用料規程

要 塞 地 帶 法

横須賀軍港境域

吳 軍 港 境 域

佐世保軍港境域

舞鶴軍港境域

馬公要港境域

竹敷要港境域

大湊要港境域

軍港要港ニ關スル制

軍港要港規則

海上衝突豫防法

附 錄

二九 二三 二三 二三 二三 二二 二一 二〇 一九 一四 一四 九 一

# 附 録

## ○開 港 則 (明治三十一年七月 勅令第一三九號)

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

横濱ノ港界ハ十二天(マンダリン、ブラフ)ヨリ燈船マテ夫ヨリ正北ニ向ヒ鶴見川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ含マル

神戸ノ港界ハ脇ノ濱ノ東角ヨリ正南ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ北東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内(明治三十三年勅令  
第二五二號改正)

新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内ニ含マル  
夷港ノ港界ハ椎泊村ヨリ北五十里村外堺マテ引キタル一線ト加茂湖東岸港町ヨリ同湖北西岸加茂村マテ引キタル一線トノ内ニ含マル

大阪ノ港界ハ武庫川口目標(ツリーポイント)ヨリ南微西ニ向ヒ引キタル一線ト大和川口ヨリ引キタル一線ト武庫川口目標(ツリーポイント)ヨリ六海里大和川口ヨリ五海里ノ所ニ於テ相接スル其二線内ニ含マル  
長崎ノ港界ハ小瀬戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ長刀岩マテ夫ヨリ東微南ニ引キタル線以内(明治三十三年勅令  
第二五二號改正)

函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海里ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ含マル  
清水ノ港界ハ真崎ヨリ正北ニ引キタル一線以内(明治三十二年勅令  
第三六〇號追加)

武豊ノ港界ハ布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以内(同上)

名古屋ノ港界ハ西突堤燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内(明治四十年勅令 第三三三號追加)

四日市ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内(明治三十二年勅令 第三六〇號追加)

絲崎ノ港界ハ絲崎ヨリ「カイノ」山ノ巔ニ引タル一線以内(明治三十三年勅令 第二五二號追加)

下ノ關ノ港界ハ彦島弟子待ノ鼻ヨリ巖流島ノ南東端マテ夫ヨリ北東微北ニ向ヒ引キタル一線及彦島海士浦

ノ鼻ヨリ北東ニ引キタル一線以内(明治三十二年勅令 第三六〇號追加)

門司ノ港界ハ白木崎ヨリ北西四鏈ノ所ヨリ門司崎ニ引キタル一線ト正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經

界トナシタル面積内(同上)

若松ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内及平野川口ノ東岸ヨリ北北西ニ引キタ

ル一線以東(明治三十七年勅令 第一〇六號追加)

博多ノ港界ハ殘島ノ北端ヨリ滿切ニ引キタル一線及小戸鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内(明治三十二年勅令 第三六〇號追加)

加)

唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ正東及正西ニ引キタル二線以内(同上)

住ノ江ノ港界ハ船津川口ノ西岸ノ南端ヨリ正西ニ引キタル一線以内(明治三十九年勅令 第九七號追加)

口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間崎ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナ

シタル面積内(明治三十二年勅令 第三六〇號追加)

三池ノ港界ハ北突堤燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内(明治四十一年勅令 第七十五號追加)

三角ノ港界ハ瀬戸ノ鼻ヨリ大矢野島コンビラ鼻マテ際崎ノ鼻ヨリ戸馳島野崎マテ同島兎鼻ヨリ千束島六四

郎鼻マテ夫ヨリ大矢野島塔ケ崎マテ引キタル四線以内(明治三十二年勅令 第三六〇號追加)

嚴原ノ港界ハ虎崎ヨリ耶良崎(一名寢釋迦鼻)ニ引キタル一線以内(同上)

佐須奈ノ港界ハ立場崎ヨリトログ崎ニ引キタル一線以内(同上)

鹿見ノ港界ハ長崎島ヨリ塔崎ニ引キタル一線以内(同上)

那覇ノ港界ハ先原崎ヨリ干ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ干ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線以内

(同上)

濱田ノ港界ハ黒崎ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端(千疊敷鼻)ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内

(同上 明治三十三年 勅令第二五二號改正)

境ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内及外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一

線以東(明治三十二年勅令 第三六〇號追加)

宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置崎ニ引キタル一線以内(同上)

敦賀ノ港界ハ赤崎ヨリ蛭子崎ニ引キタル一線以内(同上)

七尾南ノ港界ハ能登島松ケ崎ヨリ南東ニ引キタル一線以西及屏風崎峽以東(同上)

伏木ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内(同上)

青森ノ港界ハ石山鼻ヨリ正西ニ引キタル一線以内(明治三十九年勅令 第九七號追加)

小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリカヤシハ岬ニ引キタル一線以内(明治三十二年勅令 第三六〇號追加)

釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東(同上)

室蘭ノ港界ハエンルム崎ヨリ大黒島ヲ經テホテイシ崎ニ引キタル一線以内(同上)

大泊ノ港界ハ燈竿ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圍ノ一弧内(明治四十二年勅令第三十七號追加)

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ掲クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ届出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス  
著港届ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後廿四時間内ニ之ヲ差出スヘシ

但シ著港届ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第四條 港長ノ端艇ハ港ノ人口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條 港長ハ其執務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙雛形ノ如キ旗ヲ掲クヘシ港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮カ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ檢査スルコトヲ得

第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障礙スヘカラス

「ヂブ、ブームス」ヲ接キ出シタル船舶ニシテ其「ヂブ、ブームス」カ航海ノ自由ヲ障礙スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ

第七條 港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日没ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第八條 暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ掲ケタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一個又ハ一個以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第九條 常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没ノ間ニハBノ信號日没ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前櫓ノ頂上ニ掲クヘシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス  
港長ハ港界内ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得(明治三十二年勅令第四〇三號追加)

前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス(同上)

第十條 休業中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」倉庫船貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スヘシ

第十一條 船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日没ノ間ニハNMノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ斷ヘス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日没ノ間ニハCノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界内ニ於テ銃砲及烟火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病(虎烈刺、天然痘、黃熱、猩紅熱、ペストノ類)ノアル地ト布告シタル地ヨリ來着シ又ハ航

海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日没ノ間ニハ黃旗ヲ日出ト日没ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連テ前橋ノ頂上ニ掲クヘシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

衛生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄りタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマテ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スヘカラス且當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來着シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ牛羊等又ハ其死體皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サス

第十三條 港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラス

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ防ク爲メ必要ノ豫防ヲ爲スヘシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條 船舶出港セムトスルトキハ其旨港務局ニ届出テ且出帆旗ヲ引揚グヘシ一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ届出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條 一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル

時間内ニ其所存主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壊セシムルコトヲ得

第十六條 港務局ハ定期郵便汽船ノ爲メ適切ニシテ且充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱其他ノ船具ヲ繫クヘカラス

船舶若シ燈船、浮標、立標埠頭及其他ノ造營物ニ乗掛ク又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ満足スヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ刻記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條 各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クヘシ

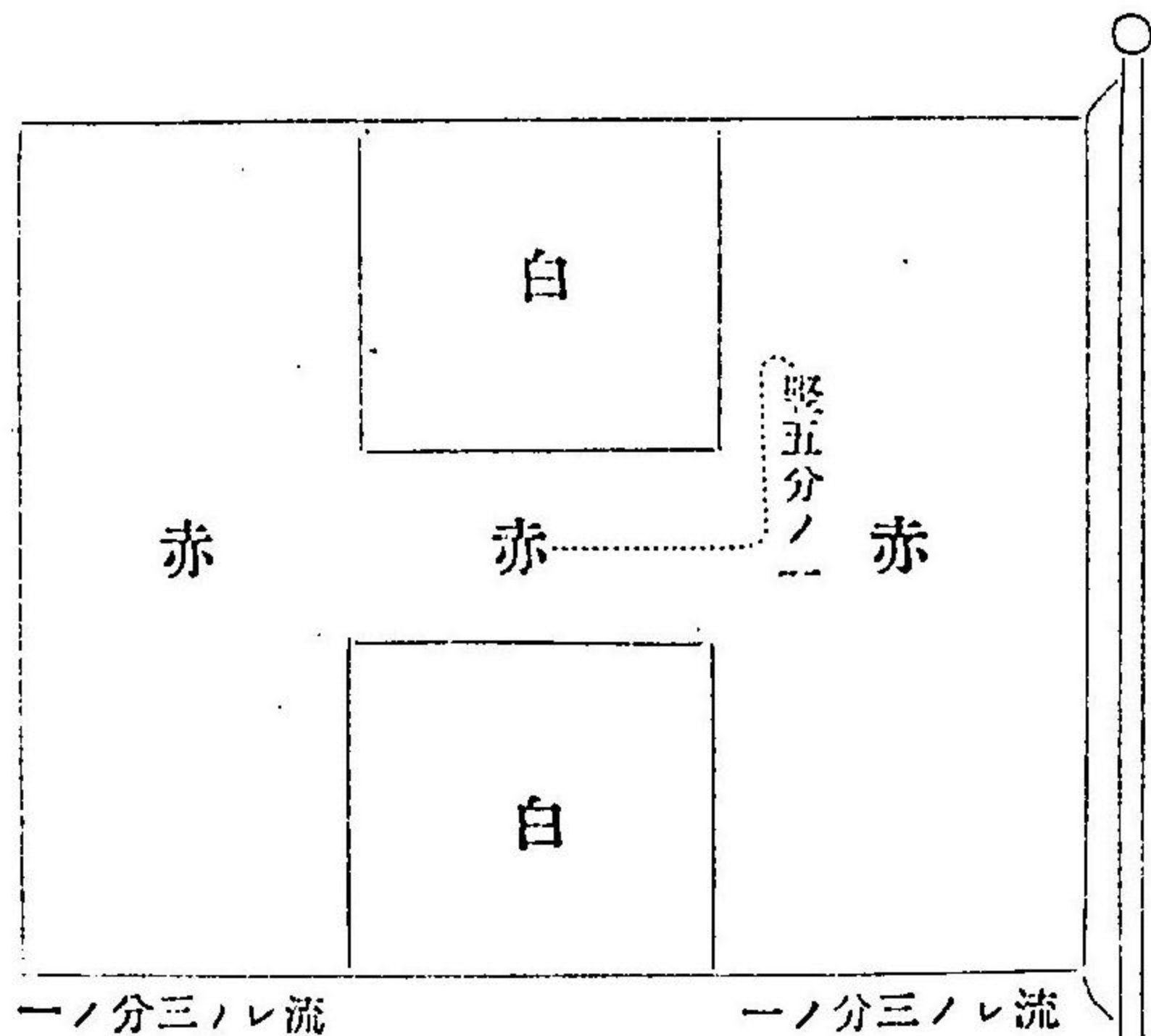
第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第十三條

第一項及二項ノ規定ニ限ル

第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

形雜章旗ノ條五第



○開港港則施行細則

(明治三十一年九月 遞信省令第一六號)

- 第一條 港務局官吏船舶ニ臨檢シタルトキハ檢疫ニ關スル許可證ヲ查閱スヘシ(明治三十二年遞信省令第三二號改正)
- 第二條 港長ノ示定シタル泊船所ヲ移轉セントスルトキハ船長ハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ
- 第三條 船舶ノ著港届ハ第二號書式ニ依リ港務局ニ差出スヘシ
- 第四條 開港港則第九條ニ於テ爆發物ト稱スルハ「プラスチック、セラチン」、彈藥包、爆發管、「ダイナマイト」煙火、導火管、「セリグナイト」、「ナイトログリセリン」、火藥、棉火藥、無煙火藥、雷管ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物料ト稱スルハ生石油、「アルマ」油、「ラングーン」石油、「ナフタ」、的列並底油、依的兒、偏蘇爾、石油、偏陳、「アセトン」、酒精、及硫化炭素ノ類其他華氏九十五氏度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ(明治三十二年遞信省令第三二號改正)
- 第五條 船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五十發分導火管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管百五十箇及信號用ノ榴彈、火箭、焰管、救命焰ヲ除クノ外爆發質ノ物料ハ總テ之ヲ常用外ト看做ス
- 容易ニ燃燒スヘキ物料ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノ、外總テ之ヲ常用外ト看做ス
- 第六條 信號用ノ外港内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發セントスルトキハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ
- 第七條 港界内ニ於テ船舶ヲ休繋シ又ハ修繕セントスルトキハ豫メ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ
- 第八條 開港港則第十二條第六項ノ船舶及碇泊中獸類傳染病ノ發生シタル船舶ハ速ニ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ



第九條 動物ノ死體、灰燼、塵芥等ヲ取棄ントスル船舶ハ港務局ニ於テ承認シタル塵船ヲ使用スヘシ

塵船ヲ使用セントスル船舶ハ船内見易キ處ニFノ信號若ハ藍ヲ掲ケテ目標トナスヘシ

第十條 繫船浮標ヲ使用セントスル船舶ハ豫メ港務局ノ允許ヲ受ク可シ(明治三十四年逓信省令第三〇號改正)

前項ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ港務局ノ告知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク成規ノ使用料ヲ納入ス可シ(同上)

繫船浮標使用料ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 繫船浮標使用ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ港長ノ指定シタル繫船浮標ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得

港長ハ必要ニ依リ使用スヘキ浮標ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 船舶出港セントスルトキハ第四號書式ノ出港届ヲ港務局ニ差出スヘシ(明治三十二年逓信省令第三二號ニテ二項三項刪除)

第十三條 一定ノ日時ニ發著スル汽船ニシテ其著港及出港ニ付一回ノ届出ヲ爲ス者ハ第六號書式ニ依ルヘシ

第十四條 出港シタル船舶避難、修繕其他事故ノ爲メ出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其事由ヲ記載シタル届書ヲ港務局ニ差出シ著港届ニ代フルコトヲ得

第十五條 開港港則第二十條ニ規定スル擔保物ハ帝國ノ通貨及帝國政府ノ公債證書ニ限ル

第十六條 本則ノ規定ハ第二條、第八條及第九條ヲ除クノ外軍艦ニハ之ヲ適用セス

第十七條 第一條ノ規定ハ沿海通航船ニハ之ヲ適用セス

第十八條 船籍證書ヲ受有スルニ及ハサル船舶及一定ノ港津間ニ往復スル沿海通航船ハ船主ヨリ豫メ港務局ニ届出テ允許ヲ受クルニ於テハ第三條及第十二條第一項ノ手續ヲ省畧スルコトヲ得(明治三十五年逓信省令第三七號改正)

第十九條 警報信號、正午標準時、港界内ノ航路、泊船所、碇泊所ノ區域、船舶ノ運動及繫船ノ方法ハ各港ニ付キ港長之ヲ定ム

第二號書式

著 港 届

一船ノ種類	右
一船名	年 月 日
一船主	時常港ニ入船候間此段及御届候也
一國籍	年 月 日
一船籍港名	年 月 日
一總噸數	年 月 日
一登簿噸數	年 月 日
一發航地名 <small>(原發航地及最後發航地)</small>	年 月 日

年 月 日

船

長

某

何 港 務 局 宛

第四號書式

出 港 屆

一 船 名

右 年 月 日 時(何地)~向々當港出船可致候間此段及御屆候也

年 月 日

船 長 某

何 港 務 局 宛

第六號書式

著 發 屆

一 船 名

一 船 主

一 國 籍

一 船 籍 港 名

一 總 噸 數

一 登 簿 噸 數

一 發 航 地 名

一 到 達 地 名

(原發航地及最後發航地) 及 發 航 年 月 日

右 年 月 日 時當港入船 年 月 日 時出船可致候間此段及御屆候也

年 月 日

船 長 某

何 港 務 局 宛

○港務局所屬繫船浮標使用料規程

(明治三十一年十月 遞信省告示第二六六號)

第一條 繫船浮標使用料ハ使用時間二十四時ニ付七圓トス但二十四時未滿ノ端數ハ二十四時トシテ計算ス  
(明治四十一年遞信省令 告示第五二六號改正)

第二條 前條ノ使用時間ハ港務局ニ於テ使用指定ノ時ヨリ起算ス

第三條 既納ノ繫船浮標使用料ハ使用者ニ於テ實際使用セサルトキト雖モ之ヲ還付セス

○要塞地帶法

(明治三十二年七月十五日)

第一章 總 則

第一條 要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以內及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以內

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以內

第四條 要塞司令官鎮守府司令官及築城部本部長ハ要塞地帶ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶內及第七條第二項ノ區域內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地內ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域內ニ關シテハ此法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ヲ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令官官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以內ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶內水陸ノ形狀ヲ測量、撮影摸寫錄取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以內ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帶內ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ觀察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ

繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一、不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二、浴室及固定竈爐
- 三、不燃質物ヲ以テ築造セル高サ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十一條 第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得サルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一、埋葬地
- 二、水車及風車
- 三、井

四、容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋

五、生垣及木造ノ圍牆

六、第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫

第十二條 第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一、不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二、埋葬地
- 三、不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條 第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非ザレハ屋内外ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一、第一區内ニ於テハ高サ五尺、第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類
- 二、第一區内ニ於テ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條 各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若クハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一、地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土開鑿等
- 二、溝渠、鹽田、排水及灌水
- 三、公園、育樹場、竹木林、菓園及桑茶畑
- 四、耕作地

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若クハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者

ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ方法ノ宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徴收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘ

第十八條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受タル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限り特ニ本章禁止制限ノ全部若クハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ掲グル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸海軍内外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 罰 則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命ゼラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス其過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四章 雜 則

第二十七條 要塞地帯創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條 要塞地帯各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標例ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ効力ヲ妨グルコトナシ

第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル箇所ニ限リ其ノ効力ヲ失フ

○横須賀軍港境域

(明治二十九年三月二十三日勅令第三十七號海軍大臣副署)

朕横須賀軍港境域ニ關スル明治二十九年勅令第三十六號ノ改正ヲ裁可シ茲ニ公布セシム  
明治二十九年勅令第三十六號左ノ通改正ス

横須賀軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以内ト定ム

(圖ハ略ス)

左ニ掲クル箇所ハ横須賀軍港ノ境域トス

相模國三浦郡横須賀町及浦郷村

同國同郡豊島村ノ内中里、深田、不入斗ノ全部及公郷、佐野ノ一部

同國同郡衣笠村ノ内金谷、及平作ヲ横斷セル道路以北ノ地

同國同郡葉山村ノ内木古庭ヲ横斷セル道路以北竝ニ逸見ニ通スル道路以東ノ地及該道路ノ以西木古庭山口一部ノ地

○吳軍港境域

(明治二十九年三月二十三日勅令三十七號海軍大臣副署)

朕明治二十三年勅令第九十七號ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年勅令第九十七號左ノ通改正ス

吳軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線内ト定ム

(圖ハ略ス)

左ニ掲クル箇所ハ吳軍港ノ境域内トス

安藝國安藝郡警固屋、宮原村、和庄町、莊山田村、吉浦村、燒山村、大屋村、江田島村、瀬戸島村、渡子島村、倉橋島村

同國同郡本庄村ノ内枋原、苗代及二保島村ノ時峠島、似島

同國佐伯郡津久茂村、能美島諸村及三高村ノ内大那沙美島、山那沙美島

同國加茂郡阿賀村

同國同郡廣村及郷原村ノ内東川以西ノ地

○佐世保軍港境域

(明治二十三年五月二十二日勅令第八十四號海軍大臣副署 改正二十九年第三八號)

朕佐世保軍港境域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

佐世保軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以内ト定ム

(圖ハ略ス)

○舞鶴軍港境域

(明治三十年七月七日勅令第二百三十四號海軍大臣副署)

朕舞鶴軍港境域ハ左圖ニ記スル黒線以内ト定ム

左ノ線ヲ線テ軍港境域ノ陸上境界ト陸上計算

若狹國大飯郡青郷村字西三松ノ東ニ於テ海ニ注ク所ノ河流ヲ遡リ關屋横谷ニ至リ同所ヨリ丹波國何鹿郡ノ内老富山唐内、老富橋、五泉市志、五泉、五泉水梨、五泉辻、五津合清水ヲ經ル道路ニ沿ヒ仍五津合清水ヨリ丹後國加佐郡池内村字岸谷ニ通スル道路西ニ進ミ丹波丹後二國ノ國境ニ會スル點ヨリ丹波丹後二國ノ國境ニ

沿ヒ西ニ進ミ丹後國加佐郡岡田下村字久田美ヨリ丹波國何鹿郡志賀郷村字兩河内通ニスル道路ト會スル點ニ至リ同所ヨリ久田美ニ通スル道路ヲ北方ニ進ミ由良川ニ出テ由良川ノ右岸ニ沿ヒ海ニ達スル線

○馬公要港境域

(明治三十四年七月三日  
勅令第四百十號海軍大臣副署)

朕澎湖島馬公ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム澎湖島馬公ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム

(圖ハ略ス)

左ニ掲クル諸島ハ馬公要港ノ境域内トス

澎湖島

漁翁島

白砂島

其ノ他前記三島ニ接近ノ諸小島

○竹敷要港境域

(明治二十九年一月二十一日  
勅令第三百三號海軍大臣副署)

朕要港ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

對馬國下縣郡竹敷ヲ要港トス

明治二十九年六月三日 勅令第二百三十七號 海軍大臣副署

朕竹敷要港境域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

竹敷要港ノ境域ハ左圖ニ記スル朱線以內ト定ム

左ニ掲クル箇所ハ竹敷要港ノ境域内トス

對馬國下縣郡蘆ヶ浦ヨリ、柳ヶ浦、和坂、仁位、卯麥、佐保「トッ」浦ノ各地ニ通スル道路以南ノ地  
同國同郡鷄知村高濱ヨリ鷄知、洲藻、箕形、加志、今里ノ各地及今里ヨリ海岸ニ通スル道路以北ノ地

○大湊要港境域

(明治三十八年十二月十二日  
勅令第二百六十三號海軍大臣副署)

朕陸奥國下北郡大湊ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
陸奥國下北郡大湊ヲ要港トス其境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム

(圖ハ略ス)

○軍港要港ニ關スル制

(明治二十三年一月十六日  
法律第二號海軍大臣副署)

朕軍港要港ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍港要港境域内ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ但海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ内務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

○軍港要港規則

(明治三十三年四月三十日  
海軍省令第七號)

軍港要港規則左ノ通定ム

軍港要港規則

第一條 軍港要港ノ水域ハ各之ヲ三區ニ分テ別圖點一線以內ヲ第一區ト稱シ第一區以外點二線以內ヲ第二區

ト稱シ第一區第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス

第二條 軍港要港ニ入ラントスル艦船ハ軍港要港水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ繫止スル地點マテ萬國船  
船信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ但シ鎮守府司令官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノ  
ハ此限ニアラス

第三條 軍港要港水域及其以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定アルモノノ外其  
ノ國籍ヲ表明スル旗章ヲ掲揚スヘシ

第四條 軍港水域及其以外約三海里以内ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ日没ヨリ日出マテ海上衝突豫防  
ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第五條 内外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消  
毒ヲ終ラサルモノハ鎮守府司令官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ第一區第二區ニ入ルコトヲ許サス又第一區

第二區ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ掲ケテ鎮守府司令官ノ指揮ヲ待ツヘシ  
第六條 第二區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限ハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃燒シ易キ物  
件ヲ積載スル艦船ハ港務部長特ニ其ノ錨地ヲ指示スルコトアルヘシ

第七條 第一區第二區ニハ海軍所屬艦船ノ外ハ鎮守府司令官ノ許可ナクシテ入ルコトヲ許サス但シ舞鶴軍  
港ニ於テハ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ此ノ限ニアラス

排水噸數十五噸以上ノ海軍所屬艦船第一區ニ入ラントスルトキハ鎮守府司令官ノ許可ヲ受クヘシ  
海軍兵學校前面即チ別圖點三線以内ニ於テハ吳鎮守府司令官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ海軍所屬艦船ノ

外艦船ヲ碇繫サルコトヲ禁ス又海軍所屬艦船ノ外艦船ヲ碇繫サルコトヲ禁ス又海軍兵學校用地内ニ於テ赤

旗ヲ揚ケタルトキハ總テ艦船ノ該點三線以内ヲ通航スルコトヲ禁ス

第八條 第一區第二區ニ於テ艦船ノ進退ハ排水噸數十五噸數十五噸以下ノ船舟ヲ除クノ外總テ港務部長ノ指  
示ニ從フヘシ但シ天災其ノ他不時ノ事故ニ依リ其ノ指示ヲ待ツ能ハサル場合ニハ此ノ限ニアラス

舞鶴軍港ニ於テハ第二區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ第二區ニ在ルトキト雖港務部長  
ノ指示ヲ待ツヲ要セス

第九條 外國ノ艦船ハ特別ノ事由アルニアラサレハ夜中軍港ノ水域ニ入ルコトヲ許サス  
第十條 鎮守府司令官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ錨地ノ變換若ハ退去ヲ命スルコトヲ得

第十一條 鎮守府司令官ハ第一區ニ入り又ハ入ラントスル艦船ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之  
ヲ卸サシムルコトヲ得

第十二條 凡テ艦船ハ鎮守府司令官ノ特許アルモノ、外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ入ルコトヲ禁ス汽罐  
點火中ノ小蒸汽船其ノ他火氣ヲ有スル一切ノ船舟亦同シ

第十三條 軍港要港境域内ニ於テハ禮砲號砲及鎮守府司令官ノ許可ヲ得タルモノ、外火器若ハ爆發物發射  
發火ヲ禁ス但シ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト七十五間以内ニ於テハ禮砲號砲ト雖モ特ニ鎮守府司令官ノ

許可ヲ得ルニアラサレハ一切發射發火ヲ爲スコトヲ許サス  
第十四條 第一區第二區 吳軍港ニ於テ第一區第二區及海軍兵學校前面即別圖點三線内ニ於テハ鎮守府司令官ノ特許ヲ得スシテ漁獵採藻ヲナス

ヘカラス  
第十五條 第一區第二區及其ノ海岸並ニ之ニ注入スル水流ニハ鎮守府司令官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一

切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス



鎮守府司令長官ハ必要アリト認ムルトキハ第三區及其ノ海岸ニ物件ノ委棄ヲ禁シ臨時委棄ノ場所ヲ指示スルコトヲ得艦船若シ其ノ委棄スルモノヲ自カラ處分スルコト能ハサルトキハ港務部ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第十六條 鎮守府司令長官ハ軍港要港水域内ニ於ケル有害ナル難破物委棄物若ハ其ノ他ノ物件ハ原因ノ如何ニ關セス其義務者ヲシテ之ヲ指定ノ期限内ニ除去セシムコトヲ得其ノ義務者之ヲ除去セサルトキ若ハ指定ノ期限内ニ終了スル見込ナキトキハ鎮守府司令長官ハ自ラ之ヲ除去若ハ破壊シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ除去若ハ破壊セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第十七條 軍港要港境内ノ山林原野ニ於テハ濫リニ焚火スヘカラス

第十八條 軍港要港境内ニ於テ左ニ掲クル諸項ノ新營若ハ變更ヲナサントスルモノアルトキハ地方官ハ鎮守府司令長官ニ協議シ之ヲ處理スヘシ

- 一、棧橋ノ架設、埠頭ノ築造
- 二、河床ノ變更、河川海面ノ埋立浚渫、海岸ノ掘鑿海岸ニ於ケル石垣ノ築造
- 三、道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設
- 四、山岡地盤ノ掘鑿
- 五、森林ノ伐採
- 六、軍港要港ノ水域内ニ發著スヘキ海運ノ營業
- 七、浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置

八、第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以内ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築

第十九條 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得スシテ軍港要港境内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取シ又ハ地理案内等ノ圖書ヲ發行スルヲ禁ス但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル錘測ハ此ノ限ニアラス

第二十條 鎮守府司令長官ハ軍港要港境内ニ入り兵備ノ狀況其他地形等ヲ視察スル者ト認メダルトキハ之ニ軍港要港境外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ軍港要港境内衛生ノ事ニ關シテハ鎮守府司令長官ニ協議スヘシ

第二十二條 鎮守府司令長官ハ海軍用地ニ接近スル一般公路ニ於テ取締上必要ナリト認ムルトキハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得

鎮守府司令長官ハ海軍用地ノ内取締上差支ナシト認ムル區域ニ限り一般人民ニ通行ヲ許スコトヲ得

第二十三條 軍港要港ノ境域並其ノ區劃等ヲ表示スル標石標木標札ノ類若ハ其ノ水域内ニ設クル浮標等ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞スルコトヲ禁ス

第二十四條 軍港要港ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

第二十五條 要港ニ於テハ本則ニ規定セル鎮守府司令長官ノ職務ハ要港部司令官港務部長ノ職務ハ知港事之ヲ行フ

附 則

第二十六條 第二十七條(削除)

第二十八條 本則ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

第二十九條 明治二十九年海軍省令第六號橫須賀軍港規則同年海軍省令第七號吳軍港規則同年海軍省令第八號佐世保軍港規則同海軍省令第十三號竹敷要港規則及同三十年海軍省令第十四號舞鶴軍港規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○海上衝突豫防法

(明治二十五年六月法律第五號)

總 則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ間ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス  
本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用非サルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用非サルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ  
本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ  
本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠砂ニ非サル場合ヲ謂フ

船 燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日沒ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

- 一 前橋若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍍盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツツ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

- 二 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ
- 三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ
- 四 本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ
- 五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス
- 第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ
- 本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス
- 第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於

- テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黒色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ
- 海底電信船ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用フ中央ノ一箇ハ白色鑿形ヲ用フヘシ
- 本條ノ船舶全ク運行セザルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ
- 本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ
- 本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス
- 第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス
- 第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ様點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル様ニ爲スヲ要ス
- 此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且適當ノ隔板ヲ備置

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫓權ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條

第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若シテ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫓權ヲ用ルトニ拘ハラズ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

四 櫓ヲ以テ運轉スル船ハ櫓權ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラズ白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ掲クヘカラス單ニ周圍ヨリ見得ヘキ白

燈一箇ヲ橋頭ニ掲ケ且十五分ヲ超エサル短時ノ間際ヲ以テ閃火一箇若クハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ右ノ外綠紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間際ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ハ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ橋頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニヨリ之ヲ使用スルヲ得

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲サルトキハ其ノ積量ニ應ジテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

第九條 刪除

第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鏡盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ハ六點間宛射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條 長百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ越エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈

一 箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲ケヘシ  
本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外向閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色形象一箇ヲ掲ケヘシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ヰヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五 他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖モ他ノ信號ヲ爲スヘカラス

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サ、ルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メサルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

衝突ノ危険ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位儘ニ變更スルヲ認メサルトキハ危険アルモノト知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞レアルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一 一舷ニ開カサル船ハ一舷ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二 左舷ニ一舷ニ開キタル船ハ右舷ニ一舷ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

三 一舷ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

避クヘシ

四 一舷ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鉞路ヲ右舷ニ轉シ

互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ鉞路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ

櫓ト他船ノ櫓ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ユルトキニ限ル

ヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鉞路ヲ横切りテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我

船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見シテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見シテ綠燈ヲ見

ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ユルトキハ適用スヘカラス

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切り衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鉞路及速力ヲ保ツ

ヘシ

但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程

兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應ジテ速力ヲ緩メ若

ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船ハ

之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船

ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看

做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行

ス

附錄三七

スヘシ

第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用ヰテ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖猥ニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ、航行中ノ汽船他船ニ近寄り鉞路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鉞路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船鉞路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船鉞路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長、海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條 本法ハ他方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス  
難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

一 大約一分時ノ間隔ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス

三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル遠隔信號ヲ表示ス

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一 大約一分時ノ間隔ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二 船上ノ發焰(ターレット、油燈等ヲ燃焼スルノ類)

三 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一時一發ツ、度々打揚ク

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第二十三號布告同規則追加同十八年

八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

1417  
106

明治四十五年七月十五日印刷  
明治四十五年七月二十日發行

編輯者  
發行所

大阪市西區靱下通一丁目八番地

瀬戸清次郎

印刷所

大阪市西區靱下通一丁目十二番地

靱活版所一成舎

電話長西千五百八番



97+A62

